

EDIサービス < I E / E X > V 2 . 3

業界プロトコルご利用の手引き

(c) 2006 GXS, Inc. All rights reserved.

第 1 版 2006.04

はじめに

本書はJCA手順、全銀手順などの業界プロトコルを通して、EDIサービス<IE/EX>をご利用になる際の手引書です。

IE/EXサービスでサポートされるJCA手順、全銀手順での基本的な送受信、お客様からの起動、IE/EXからの起動、中断時の再送方法、送受信のコミット基準などについて記述いたしましたので、JCA又は全銀手順でIE/EXサービスをご利用のお客様は是非ご一読下さい。

また、IE/EXのコード体系、拡張機能等、全体については、「EDIサービス<IE/EX>概説書(GXS-I001-00)」各種登録方法については、

「EDIサービス<IE/EX>V2.3サービス管理責任者ご利用の手引き(GXS-I003-00)」をご参照下さい。

尚、本書中に登録画面を掲載していますが、説明の都合上、簡略した形で表示しております。詳細画面は上記「サービス管理責任者ご利用の手引」をご覧ください。

目次

第1章 JCA手順

1.1	JCA手順サポート	1 - 1
1.2	ユーザー起動収集	1 - 3
	(1) 直接宛先指定	1 - 4
	(2) 内包宛先指定	1 - 5
	(3) 同報宛先指定	1 - 9
1.3	ユーザー起動配布	1 - 13
	(1) 単一差出指定	1 - 13
	(2) 全差出指定	1 - 15
1.4	センター起動収集	1 - 17
	(1) 直接宛先指定	1 - 17
	(2) 内包宛先指定	1 - 19
	(3) 同報宛先指定	1 - 23
1.5	センター起動配布	1 - 27
	(1) 単一差出指定	1 - 27
	(2) 全差出指定	1 - 29
	(3) 強制配布	1 - 31
1.6	ファイル交換成立基準	1 - 35
1.7	0件データの扱い	1 - 39
1.8	中断セッションと自動セッション・リセット・オプション	1 - 41
1.9	二重セッションと自動セッション・リセット・オプション	1 - 42
1.10	限定受信	1 - 43
1.11	再送のサポート	1 - 45
	(1) ユーザー起動収集	1 - 45
	(2) ユーザー起動配布	1 - 47
	(3) センター起動収集・中断・自動リトライ	1 - 49
	(4) センター起動収集・中断・サービス管理責任者による再起動	1 - 50
	(5) センター起動配布・中断・自動リトライ	1 - 52
	(6) センター起動配布・中断・サービス管理責任者による再起動	1 - 54
1.12	収集時非ブロック化、配布時ブロック化処理	1 - 57
	(1) 収集時非ブロック化しない	1 - 57
	(2) 収集時非ブロック化する	1 - 58
	(3) 配布時ブロック化しない	1 - 60
	(4) 配布時ブロック化する	1 - 62

第2章 全銀手順

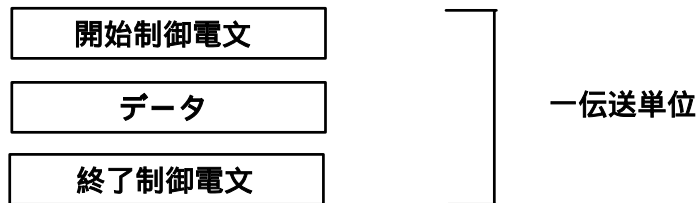
2.1	全銀手順サポート	2 - 1
2.2	ユーザー起動収集	2 - 3
	(1) 直接宛先指定	2 - 4
	(2) 内包宛先指定	2 - 5
	(3) 同報宛先指定	2 - 9
2.3	ユーザー起動配布	2 - 13
	(1) 単一差出指定	2 - 13
	(2) 全差出指定	2 - 15
2.4	センター起動収集	2 - 17
	(1) 直接宛先指定	2 - 19
	(3) 同報宛先指定	2 - 23
2.5	センター起動配布	2 - 27
	(1) 単一差出指定	2 - 27
	(2) 全差出指定	2 - 29
	(3) 強制配布	2 - 31
2.6	ファイル交換成立基準	2 - 35
2.7	0件データの扱い	2 - 41
2.8	中断セッションと自動セッション・リセット・オプション	2 - 43
2.9	二重セッションと自動セッション・リセット・オプション	2 - 44
2.10	限定受信	2 - 45
2.11	サイクル管理	2 - 47
2.12	圧縮/非圧縮	2 - 49
2.13	可変長レコード	2 - 52
2.14	再送のサポート	2 - 53
	(1) ユーザー起動収集	2 - 53
	(2) ユーザー起動配布	2 - 55
	(3) センター起動収集・中断・自動リトライ	2 - 58
	(4) センター起動収集・中断・サービス管理責任者による再起動	2 - 59
	(5) センター起動配布・中断・自動リトライ	2 - 61
	(6) センター起動配布・中断・サービス管理責任者による再起動	2 - 63
2.15	収集時非ブロック化、配布時ブロック化処理	2 - 69
	(1) 収集時非ブロック化しない	2 - 69
	(2) 収集時非ブロック化する	2 - 70
	(3) 配布時ブロック化しない	2 - 70
	(4) 配布時ブロック化する	2 - 72

このページはブランクです。

第 1 章 J C A 手 順

1.1 JCA手順サポート

JCA手順サポートの伝送メッセージ形式とフォーマットは次のようになります。
JCA手順メッセージ形式

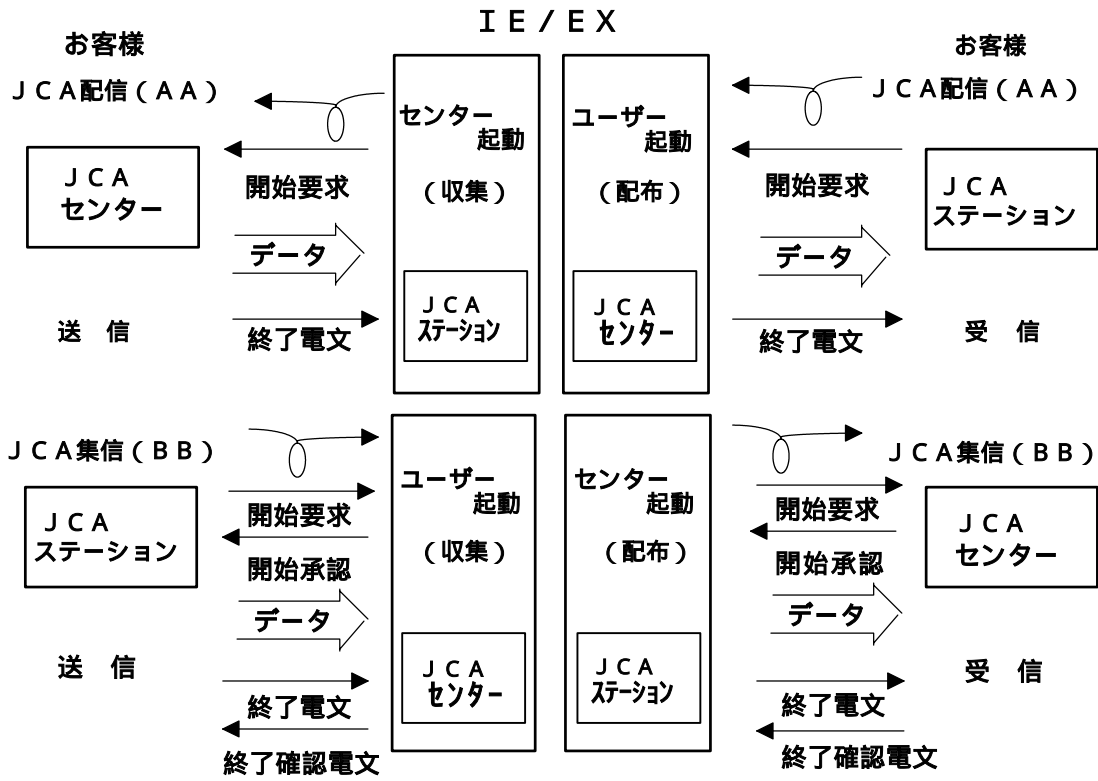


制御電文フォーマット (128バイト又は256バイト)

ID	要求区分	伝送年月日	センターコード	ステーションコード	識別子	データ種別	データカウント(1)	データカウント(2)	処理区分	フィールド
2桁	2桁	6桁	6桁	8桁	6桁	2桁	6桁	6桁	2桁	82桁 または 216桁

	ID	要求区分	電文の意味
配信	A A	0 1	開始要求電文
		0 2	再送要求電文
		0 3	終了要求電文
		9 0	終了電文
集信	B B	0 1	開始要求電文
		0 2	再送要求電文
		0 3	終了要求電文
		1 0	開始承認電文
		2 0	終了確認電文
		9 0	終了電文

JCA手順の各制御電文の流れと中間にIE/EXを介した時、IE/EX関連の名称との関係は次の通りになります。



1.2 ユーザー起動収集

お客様からダイヤリングし、データを送信する方法です。

JCA手順の宛先/差出ユーザー識別は、それぞれセンター・コード(6桁)とステーション・コード(8桁)で表わされますが、IE/EX内部ではIE/EXコード体系の顧客コード(8桁)、ユーザーID(8桁)という形で管理されます。このためにユーザー登録時にセンター・コード/ステーション・コードと顧客コード、ユーザーIDの対応づけの申請が必要となります。

またデータ種別(2桁)はIE/EXコード体系では、メッセージ識別コードとして取り扱われますので、データ種別とメッセージ識別コードの対応付けをサービス管理責任者が事前登録しておきます。

その他に論理レコード長、テキスト長等を登録し、必要な内部処理を行わせることができます。

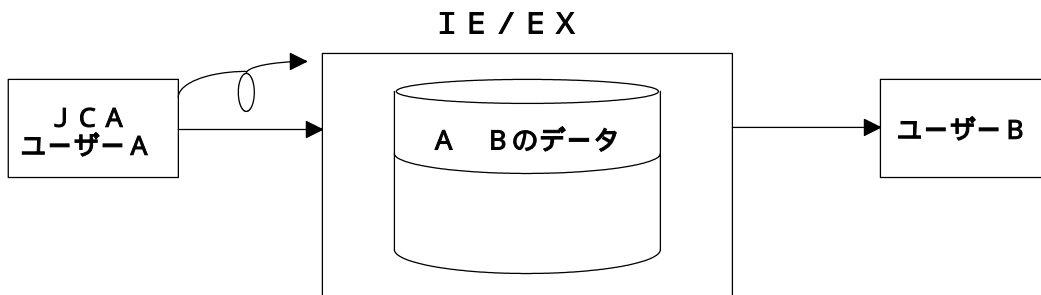
許容宛先としては直接宛先、内包宛先と同報宛先があります。

さらにデータの送受信のためには、送信者、受信者間のパートナーリストを登録しておく必要があります。

(1) 直接宛先指定

直接宛先指定というのは制御電文上に宛先のセンター・コードを指定してデータを宛先のメール・ボックスに蓄積する方法です。
このため、送信側での登録のほかに、宛先側の通信コード（センターコード）の登録が必要になります。

例 J C AのユーザーAが直接宛先指定でユーザーBにデータを送信する場合
(ユーザーBのプロトコルはJ C Aでなくてもよい)



顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X A A A	通信コード A A A A A A A A
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	J C Aデータ種別 2 1

顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X B B B	通信コード B B B B B B
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	

送信側の登録

通信コード（ステーション・コード）

J 9 5 1 4 J P				通信コード / 別名登録	照会 / 更新
顧客コード : I X X X		ユーザーID : I X X X A A A			
プロトコル	通信コード	識別子	説 明		
J C A	A A A A A A A A	C C C C C C	ステーション・コードA (差出し)		

J C Aデータ種別

J 9 6 2 5 J P			メッセージ処理	ユーザーオプション画面
顧客コード : I X X X	ユーザーID : I X X X A A A	メッセージ識別コード : M S G I D 2 1		
J C Aデータ種別 : 2 1				

宛先側の登録

通信コード（センター・コード）

J9514JP	通信コード/別名登録	照会・更新
顧客コード：IXXX	ユーザーID：IXXXBBB	
プロトコル	通信コード	識別子
JCA	BBBBBB	センター・コードB（宛先）

送信

次の電文とデータが送られ、ユーザーB宛のデータが、IE/EXのコード体系に変換され蓄積されます。

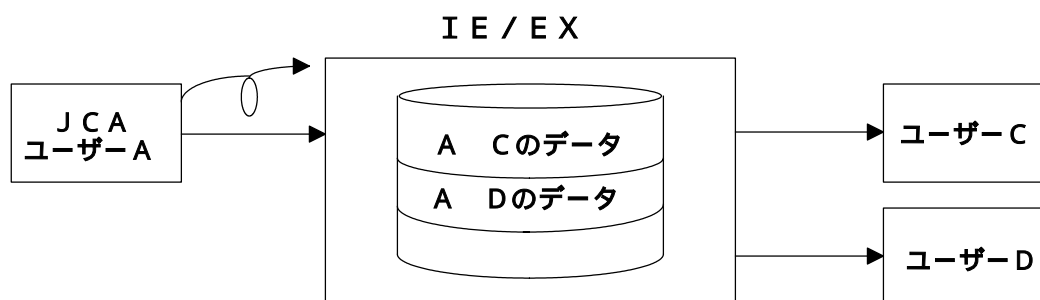
電文区分	センター・コード	ステーション・コード	識別子	データ種別	
BB01	BBBBBB	AAAAAAAAA	CCCCCC	21	
A B データ					

(2) 内包宛先指定

内包宛先指定というのは制御電文上にはIE/EX宛てを示す特別のセンター・コードを指定しておき、実際の宛先はデータの中で指定し宛先のメール・ボックスに、蓄積する送信方法です。

内包宛先形式には標準形式、ユーザー形式があり、ユーザー形式の場合はデータのフォーマットを登録しておく必要があります。(概説書をご参照下さい。)

例 JCAのユーザーAが内包宛先（ユーザー形式1）でユーザーC、ユーザーDに送信する場合。



顧客コード IXXX	
ユーザーID IXXXAAA	通信コード AAAAAAAAA
メッセージ識別コード MSGID22	JCAデータ種別 22

データの作り方（ユーザー形式1を使用するのでフォーマット定義が必要です）

1 4 12 20

HDR	MSGID22	IXXX	IXXXCCC	
DAT				
.				
.				
TRL	DATの件数			
END	全件数			
HDR	MSGID22	IXXX	IXXXDDD	
DAT				
.				
.				
TRL	DATの件数			
END	全件数			

送信側の登録

通信コード(ステーション・コード)

J9514JP				通信コード/別名登録
顧客コード: IXXX		ユーザーID: IXXXAAA		
プロトコル	通信コード	識別子	説明	
JCA	AAAAAAAAA	CCCCCC	ステーション・コードA	

JCAデータ種別

J9625JP		メッセージ処理	ユーザーオプション副画面
顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXAAA	メッセージ識別コード: MSGID22	
JCAデータ種別: 22			

内包処理形式(ユーザー形式)

J9614JP		メッセージ処理	グループ・オプション
顧客コード: IXXX	メッセージ識別コード: MSGID22		
内包処理形式			
形式: U(1:標準形式-1, 2:標準形式-2, U:ユーザー形式)			
標準オプション データ: Y(Y/N) トレーラー: Y(Y/N) エンド: Y(Y/N)			
レコード長: XXXX			
フォーマットID: FMTID22			

ユーザー形式定義

J 9 7 1 4 J P	ユーザー形式定義		主画面
顧客コード: I X X X	フォーマットID: F M T I D 2 2		フォーマット区分: U 1 (U 1 : ユーザー 1、 U 2 : ユーザー 2)
データ・レコード: Y (Y / N) , トレーラー・レコード: Y (Y / N) , エンド・レコード: Y (Y / N)			
* ヘッダー *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分	0 1	H D R	3
レコード種類	0 4		8
差出ユーザー識別			
宛先ユーザー識別	1 2		1 6

J 9 7 1 5 J P	ユーザー形式定義		副画面
* データ記述部 *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分	0 1	D A T	3
フィールド			1
⋮			
* トレーラー記述部 *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分	0 1	T R L	3
合計件数	0 4		5
合計フィールド1			
⋮			
⋮			
* エンド記述部 *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分	0 1	E N D	3
合計件数	0 4		5
合計フィールド1			
⋮			
⋮			

送信

電文上のセンター・コードは805001と指定して次のように送信すると
ユーザーCとユーザーD宛のデータが蓄積されます。

電文区分	センター・コード	ステーション・コード	識別子	データ種別	
BB01	805001	AAAAAAAA	CCCCCC	22	...

1 4 12 20

HDR	MSGID22	IXXX	IXXXCCC	
DAT				
.				
.				
.				
TRL				
END				
HDR	MSGID22	IXXX	IXXXDDD	
DAT				
.				
.				
TRL				
END				

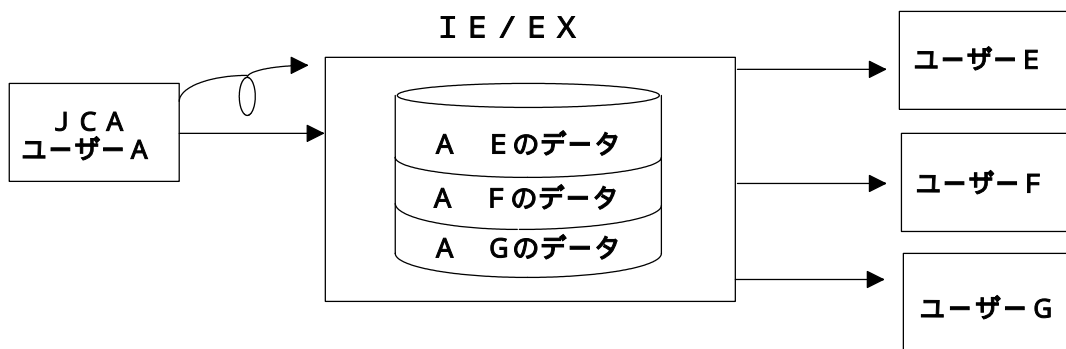
(3) 同報宛先指定

同報宛先というのは、制御電文上には I E / E X 宛を示す特別のセンターコードを指定しておき（これは内包宛先の場合と同じ方法）、実際の宛先はデータのヘッダーにあたるレコード上に指定（最大 9 宛先指定可能）して、各宛先のメール・ボックスにメッセージを蓄積する送信方法です。

内包処理の一機能として提供されます。

ユーザー形式 5 を使用し、フォーマット定義が必要です。

例 J C A のユーザー A が同報宛先でユーザー E、ユーザー F、ユーザー G に送信する場合。



顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X A A A	通信コード A A A A A A A A
メッセージ識別コード 2 3	J C A データ種別 2 3

データの作り方（ユーザー形式5を使用するのでフォーマット定義が必要です）

1	1 0 1 1	2 7	4 3
1	3 I X X X	I X X X E E F	I X X X I X X X F F F I X X X I X X X G G G
	宛先1	宛先2	宛先3
宛先件数			
0	データ		
⋮			
0	データ		

送信側登録

通信コード（ステーション・コード）

J 9 5 1 4 J P	通信コード / 別名登録	照会 / 更新
顧客コード：I X X X	ユーザーID：I X X X A A A	
<u>プロトコル</u>	<u>通信コード</u>	<u>識別子</u>
J C A	A A A A A A A	C C C C C C
		説明
		ステーション・コードA(差出し)

J C A データ種別

J 9 6 2 5 J P	メッセージ処理	ユーザー・オプション副画面
顧客コード：I X X X	ユーザーID：I X X X A A A	メッセージ識別コード：M S G I D 2 3
J C A データ種別：2 3		

内包処理形式（ユーザー形式）

J 9 6 1 4 J P	メッセージ処理	グループ・オプション
顧客コード：I X X X	メッセージ識別コード：M S G I D 2 3	
内包処理形式		
形式：U（1：標準形式 - 1、2：標準形式 - 2、3：標準形式 - 3、U：ユーザー形式）		
標準オプション データ：Y（Y/N）	トレーラー：Y（Y/N）	エンド：Y（Y/N）
レコード長：X X X X		
フォーマットID：F M T I D 2 3		

ユーザー形式定義

J 9 7 1 4 J P	ユーザー形式定義			主画面
顧客コード: I X X X	フォーマットID: F M T I D 2 3			
	フォーマット区分: U 5 (U 1 : ユーザー 1、 U 2 : ユーザー 2)			
データ・レコード: N (Y / N) , トレーラー・レコード: N (Y / N) , エンド・レコード: N (Y / N)				
* ヘッダー *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	0 1	1	1	
レコード種類				
差出ユーザー識別				
宛先ユーザー識別	1 1		1 6	

J 9 7 1 5 J P	ユーザー形式定義			副画面
* データ記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	0 1	0	1	
フィールド1				
:				
:				
* トレーラー記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分				
合計件数				
合計フィールド1				
:				
:				
* エンド記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分				
合計件数				
合計フィールド1				
:				
:				

送信

電文上のセンター・コードは805001と指定して次のように送信すると
ユーザーE、ユーザーF及びユーザーG宛のデータが蓄積されます。

電文区分	センター・コード	ステーション・コード	識別子	データ種別	
BB01	805001	AAAAAAAA	CCCCC	23	...

1	3	I	XXX	I	XXXEEE	I	XXX	I	XXXFFF	I	XXX	I	XXXGGG	
0	データ													
0	"													
0	"													
0	"													
0	"													

1.3 ユーザー起動配布

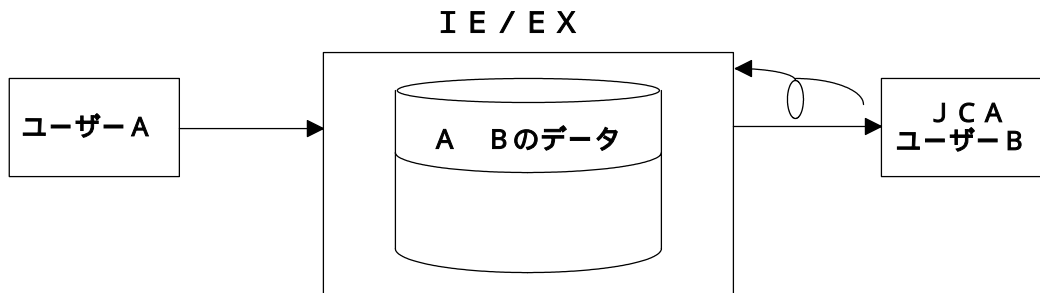
お客様からダイヤリングし、IE/EXよりデータを受信する方法です。メール・ボックスにある受信者宛のデータを受信する場合、差出者を特定する方法と、差出者を特定しない方法(すべての差出者の意味)とがあります。なお、データ種別は必ず指定します。

(1) 単一差出指定

単一差出指定というのは、受信要求制御電文上に差出者のセンター・コードを指定して受信する方法です。

受信側での登録のほかに差出者側の通信コードの登録が必要になります。

例 差出ユーザーAを指定してユーザーBが受信する場合
(ユーザーAのプロトコルはJCAでなくてもよい)



顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X A A A	通信コード A A A A A A
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	J C A データ種別 2 1

顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X B B B	通信コード B B B B B B B B
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	J C A データ種別 2 1

受信者側の登録

通信コード(ステーション・コード)

差出ユーザーAがJCAでユーザーB宛に直接宛先で指定している場合には、ユーザーBの通信コードとしてセンター・コードも必要なので次のようになります。

J 9 5 1 4 J P		通信コード / 別名登録		照会 / 更新	
顧客コード : I X X X		ユーザーID : I X X X B B B			
<u>プロトコル</u>	<u>通信コード</u>	<u>識別子</u>	<u>説 明</u>		
J C A	B B B B B B B B	C C C C C C	ステーション・コード B		
J C A	B B B B B B		センター・コード B		

JCAデータ種別

J9625JP	メッセージ処理	1-ザ-オプション副画面
顧客コード：IXXX	ユーザーID：IXXXBBB	メッセージ識別コード：MSGID21
JCAデータ種別：21		

差出側の登録

通信コード（センター・コード）

差出しユーザーAがJCAの場合、通信コードとしてステーション・コードも必要なので次のようになります。

J9514JP	通信コード/別名登録	照会/更新
顧客コード：IXXX	ユーザーID：IXXXAAA	
プロトコル	通信コード	識別子
JCA	AAAAAA	センター・コードA
JCA	AAAAAAA	ステーション・コードA

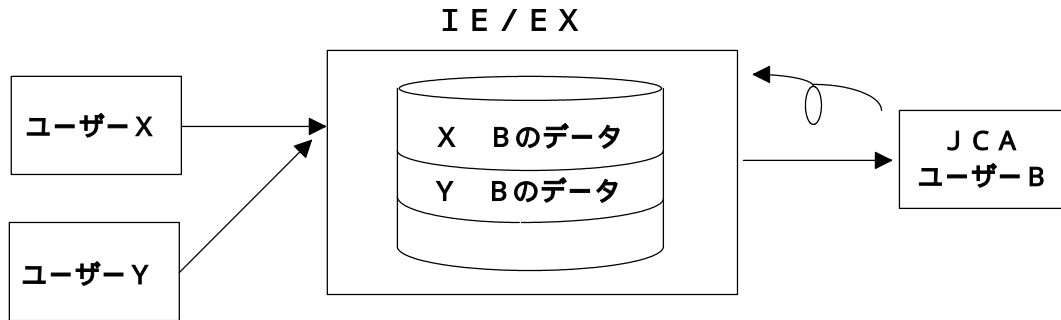
この結果、次の制御電文をユーザーBが送るとユーザーAからのメッセージ識別コードMSGID21のデータが受信できます。

電文区分	センター・コード	ステーション・コード	識別子	データ種別	
AA01	AAAAAA	BBBBBBBB	CCCCCC	21	...

(2) 全差出指定

制御電文上には I E / E X を示すセンター・コードを指定して、全ての差出者からのデータを受信します。

例 複数の差出者からのデータを受信する場合



顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X B B B	通信コード B B B B B B B B
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	J C A データ種別 2 1

受信者側の登録は直接差出指定の受信と同じです。

差出側の通信コードの登録は必要ありません。

次の制御電文のようにセンターコード 8 0 5 0 0 1 を指定して受信要求すれば、ユーザー B 宛のメッセージ識別コード M S G I D 2 1 のデータが受信できます。

電文区分	センター・コード	ステーション・コード	識別子	データ種別	
A A 0 1	8 0 5 0 0 1	B B B B B B B B	C C C C C C	2 1	...

このページはブランクです。

1.4 センター起動収集

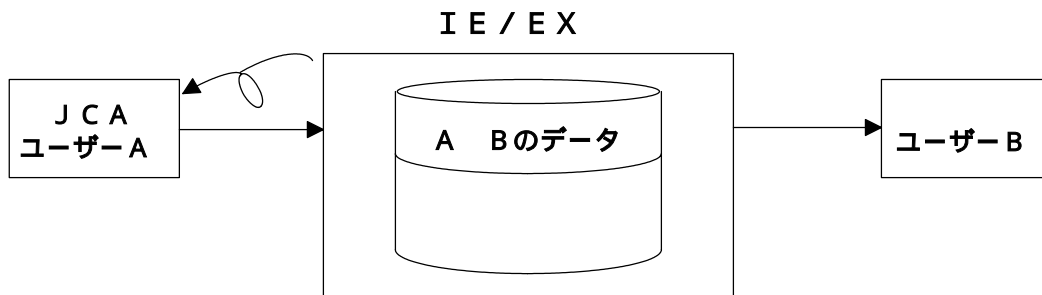
IE / EX側からダイヤリングし、制御電文を出し、お客様からのデータを収集します。

この場合お客様からのデータの宛先の指定方法は、ユーザー起動の場合と同様に直接宛先指定、内包宛先指定と同報宛先指定の三つがあります。センター起動収集は指定した時間に電話をかけて起動する時間起動で行われます。

(1) 直接宛先指定

センター起動収集の場合、直接宛先指定というのは、制御電文上にデータの宛先側の通信コード（ステーション・コード）を指定して、受信要求を出し収集する方法です。センター起動の場合、通信コードの指定はセッション定義で行います。

例 センター起動でJCAユーザーAからのデータを直接宛先指定でユーザーBに蓄積する場合。



顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X A A A	通信コード(セタ-コード) A A A A A A
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	J C A データ種別 2 1

顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X B B B	
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	

送信側の登録

N C U電話番号、アクセスポイント (I X X X I X X X A A A のプロフィール)

J 9 3 2 4 J P	ユーザー・プロフィール	照会・更新(J C A・副画面)
センター起動利用時		
N C U電話番号	*****	アクセスポイント TOK

J C Aデータ種別

J 9 6 2 5 J P	メッセージ処理	ユーザー・オプション副画面
顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X A A A	メッセージ識別コード: M S G I D 2 1
J C Aデータ種別: 2 1		

セッション定義

J 9 8 1 4 J P	セッション定義	時刻起動
顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X A A A	セッションID: S E S S 2 1
メッセージ識別コード: M S G I D 2 1		
集配区分: 1 (0 : 配布、1 : 収集)	パスワード: C C C C C C	
差出顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X B B B	
通信コード: B B B B B B B B (J C A 時)		
宛先顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X A A A	
通信コード: A A A A A A (J C A 時)		

ここで差出は電話をかける側、宛先は電話される側を意味します。
データの流れは、集配区分が " 収集 " となっているので送信者は I X X X A A A、受信者は I X X X B B B となります。

起動スケジュールは、時刻起動定義の管理でユーザーごとにセッションID、時刻、日付、開始年月日を登録します。

開始年月日以降、指定された日時に、センター側からユーザーAに電話がかけられます。接続が完了すると、セッションID、S E S S 2 1で指定されたセッション定義の通信コードが電文上にセットされてユーザーAに次のような電文として送られます。

電文区分	センター・コード	ステーション・コード	識別子	データ種別	
A A 0 1	A A A A A A	B B B B B B B B	C C C C C C	2 1	...

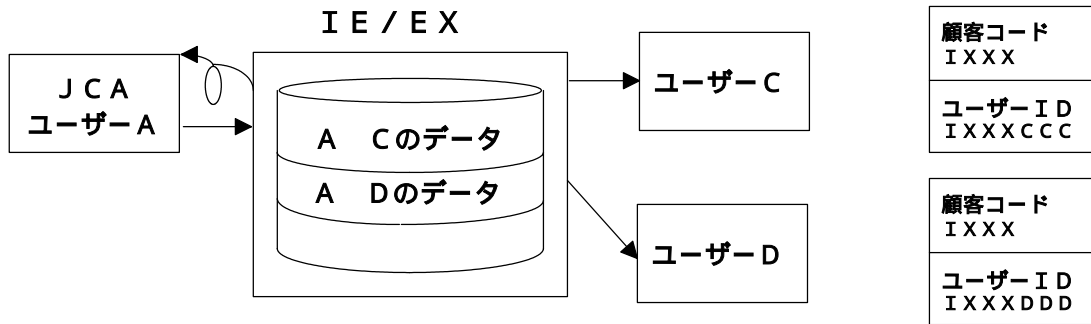
(通信コード / 別名登録の必要はありません)

この結果ユーザーAからのデータは収集されてユーザーB宛にメールボックスに蓄積されます。

(2) 内包宛先指定

センター起動収集の場合、内包宛先指定というのは、制御電文上に I E / E X を示す (通信コード) を指定して受信要求を出し収集し、その後、データの中のヘッダーにある宛先に従って蓄積する方法です。

例 センター起動で J C A のユーザー A から内包宛先のデータを収集し、ユーザー C、ユーザー D 宛に蓄積する場合



顧客コード	I X X X	
ユーザー ID	I X X X A A A	通信コード (センターコード)
メッセージ識別コード	M S G I D 2 2	J C A データ種別
		2 2

データの作り方 (ユーザー形式 1)

1 4 1 2 2 0

HDR	M S G I D 2 2	I X X X	I X X X C C C	
DAT				
:				
:				
:				
TRL	D A T の件数			
END	全 件 数			
HDR	M S G I D 2 2	I X X X	I X X X D D D	
DAT				
:				
:				
TRL	D A T の件数			
END	全 件 数			

送信側の登録

N C U電話番号、アクセスポイント (I X X X I X X X A A A のプロフィール)

J 9 3 2 4 J P	ユーザー・プロフィール	照会・更新(J C A ・副画面)
センター起動利用時		
N C U電話番号	*****	アクセスポイント T O K

J C A データ種別

J 9 6 2 5 J P	メッセージ処理	ユーザーオプション副画面
顧客コード : I X X X	ユーザーID : I X X X A A A	メッセージ識別コード : M S G I D 2 2
J C A データ種別 : 2 2		

内包処理形式 (ユーザー形式)

J 9 6 1 4 J P	メッセージ処理	グループ・オプション
顧客コード : I X X X	メッセージ識別コード : M S G I D 2 2	
内包処理形式		
形式 : U (1 : 標準形式 - 1、2 : 標準形式 - 2 , U : ユーザー形式)		
標準オプション データ : Y (Y / N)	エンド : Y (Y / N)	
レコード長 : X X X X		
フォーマットID : F M T I D 2 2		

ユーザー形式定義

J 9 7 1 4 J P		ユーザー形式定義		主画面
顧客コード: IXXX		フォーマットID: FMTID22		
		フォーマット区分: U1 (U1:ユーザー1、U2:ユーザー2)		
データ・レコード: Y (Y/N), トレーラー・レコード: Y (Y/N), エンド・レコード: Y (Y/N)				
* ヘッダー *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	01	HDR	3	
レコード種類	04		8	
差出ユーザー識別				
宛先ユーザー識別	12		16	

J 9 7 1 5 J P		ユーザー形式定義		副画面
* データ記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	01	DAT	3	
フィールド1	:			
* トレーラー記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	01	TRL	3	
合計件数	04		5	
合計フィールド1	:			
* エンド記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	01	END	3	
合計件数	04		5	
合計フィールド1	:			

セッション定義

J 9 8 1 4 J P		セッション定義		時刻起動
顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXAAA	セッションID: SESS22		
メッセージ識別コード: MSGID22				
集配区分: 1 (0:配布、1:収集)		パスワード/識別値: CCCCCC		
差出顧客コード: IEEX		ユーザーID: IEEX001		
通信コード: 80500100 (JCA時)				
宛先顧客コード: IXXX		ユーザーID: IXXXAAA		
通信コード: AAAAAA (JCA時)				

ここで差出は電話をかける側、宛先は電話をされる側を意味します。
内包の時、差出顧客コードは ' I E E X '、ユーザーIDは ' I E E X 0 0 1 ' と登録しておきます。

差出側の通信コードには通常、I E / E X のステーションコードである 8 0 5 0 0 1 0 0 を指定しますが、相手に受け入れられるものであれば任意のコードでも結構です。

起動スケジュールは時刻起動定義の管理でユーザーごとにセッションID、時刻、日付、開始年月日を登録します。

開始年月日以降、指定された日時にセンター側からユーザーAに電話がかけられます。

接続が完了すると、セッションID、S E S S 2 2 で指定されたセッション定義の通信コードが電文上にセットされてユーザーAに次のような電文として送られます。

電文区分	センター・コード	ステーション・コード	識別子	データ種別	
AA01	AAAAAA	80500100	CCCCCC	22	...

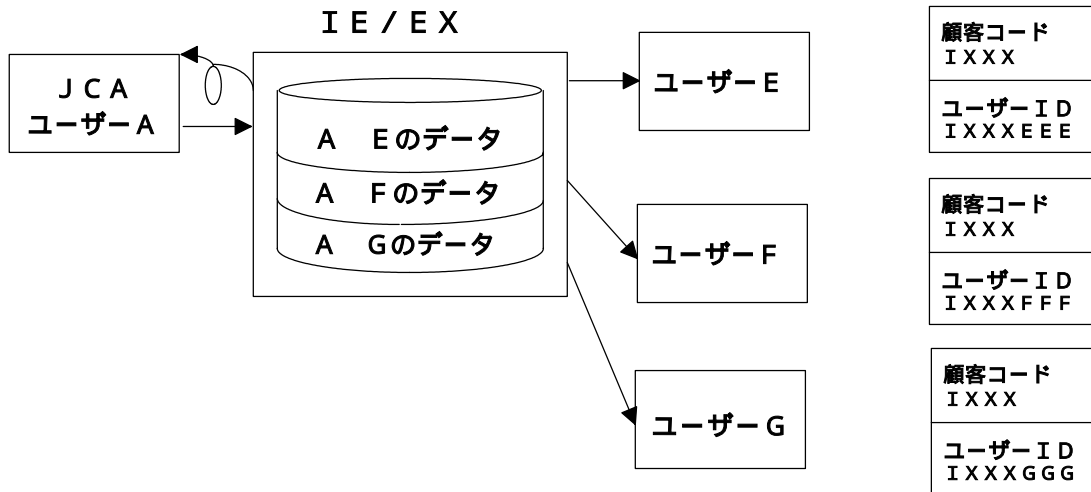
(通信コード/別名登録の必要はありません)

この結果ユーザーAからの内包宛先データが収集され、ユーザーC、ユーザーD宛にメールボックスに蓄積されます。

(3) 同報宛先指定

センター起動収集の場合、同報宛先指定というのは、制御電文上に I E / E X を示す (通信コード) を指定して受信要求を出し収集し、その後、データの中のヘッダーにある宛先に従って蓄積する方法です。

例 センター起動で J C A のユーザー A から同報宛先のデータを収集し、ユーザー E、ユーザー F、ユーザー G 宛に蓄積する場合。



顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X A A A	通信コード (センターコード) A A A A A A
メッセージ識別コード M S G I D 2 3	J C A データ種別 2 3

データの作り方 (ユーザー形式 5)

1	1 0 1 1	2 7	4 3
1	3 I X X X I X X X E E F	I X X X I X X X F F F	I X X X I X X X G G G
	宛先 1	宛先 2	宛先 3
	宛先件数		
0	データ		
⋮			
⋮			
0	データ		

送信側の登録

N C U電話番号、アクセスポイント (I X X X I X X X A A A のプロフィール)

J 9 3 2 4 J P	ユーザー・プロフィール	照会・更新(J C A ・副画面)
センター起動利用時		
N C U電話番号	*****	アクセスポイント TOK

J C A データ種別

J 9 6 2 5 J P	メッセージ処理	ユーザーオプション副画面
顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X A A A	メッセージ識別コード: M S G I D 2 3
J C A データ種別: 2 3		

内包処理形式 (ユーザー形式)

J 9 6 1 4 J P	メッセージ処理	グループ・オプション
顧客コード: I X X X	メッセージ識別コード: M S G I D 2 3	
内包処理形式		
形式: U (1 : 標準形式 - 1、2 : 標準形式 - 2 , U : ユーザー形式)		
標準オプション データ: Y (Y / N)	エンド: Y (Y / N)	
レコード長: X X X X		
フォーマットID: F M T I D 2 3		

ユーザー形式定義

J 9 7 1 4 J P		ユーザー形式定義		主画面
顧客コード: IXXX		フォーマットID: FMTID23		
		フォーマット区分: U5 (U1:ユーザー1、U2:ユーザー2)		
データ・レコード: N(Y/N),トレーラー・レコード: N(Y/N),エンド・レコード: N(Y/N)				
* ヘッダー *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	01	1	1	
レコード種類				
差出ユーザー識別				
宛先ユーザー識別	11		16	

J 9 7 1 5 J P		ユーザー形式定義		副画面
* データ記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	01	0	1	
フィールド1				
:				
* トレーラー記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分				
合計件数				
合計フィールド1				
:				
* エンド記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分				
合計件数				
合計フィールド1				
:				

セッション定義

J 9 8 1 4 J P		セッション定義		時刻起動
顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXAAA	セッションID: SESS23		
メッセージ識別コード: MSGID23				
集配区分: 1 (0:配布、1:収集)		パスワード/識別値: CCCCCC		
差出顧客コード: IEEX		ユーザーID: IEEX001		
通信コード: 80500100 (JCA時)				
宛先顧客コード: IXXX		ユーザーID: IXXXAAA		
通信コード: AAAAAA (JCA時)				

ここで差出は電話をかける側、宛先は電話される側を意味します。
同報の時、差出顧客コードは ' I E E X '、ユーザーIDは ' I E E X 0 0 1 ' と登録しておきます。

差出側の通信コードには通常 I E / E X のステーションコードである 8 0 5 0 0 1 0 0 を指定しますが、相手に受け入れられるものであれば任意のコードでも結構です。

起動スケジュールは時刻起動定義の管理でユーザーごとにセッションID、時刻、日付、開始年月日を登録します。

開始年月日以降、指定された日時にセンター側からユーザーAに電話がかけられます。接続が完了すると、セッションID、SESS23で指定されたセッション定義の通信コードが電文上にセットされてユーザーAに次のような電文として送られます。

電文区分	センター・コード	ステーション・コード	識別子	データ種別	
AA01	AAAAAA	80500100	CCCCCC	23	...

(通信コード/別名登録の必要はありません)

この結果ユーザーAからの同報宛先データは収集され、ユーザーE、ユーザーF、ユーザーG宛にメールボックスに蓄積されます。

1.5 センター起動配布

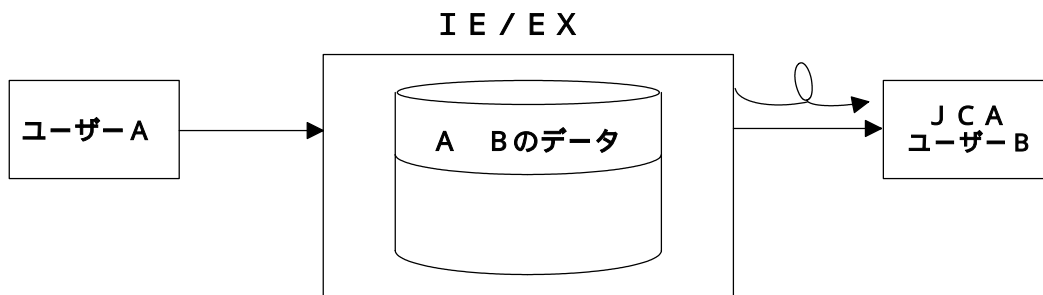
IE / EX側からダイヤリングし、制御電文を出しデータを配布します。
 この場合、差出者を特定して、その差出者からのデータを配布する方法と差出者を特定しないで全差出者からのデータを配布する方法とがあります。

(1) 単一差出指定

単一差出指定というのは制御電文上に差出者の通信コード（ステーション・コード）を指定して配布する方法です。

センター起動の場合、通信コードの設定は、セッション定義で行います。

例 センター起動で、ユーザーAからのデータをユーザーBに配布する場合
 （ユーザーAのプロトコルはJCA以外でも可）



顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X A A A	
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	

顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X B B B	通信コード B B B B B B
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	J C A データ種別 2 1

受信者側の登録

N C U電話番号、アクセスポイント (I X X X I X X X B B B のプロフィール)

J 9 3 2 4 J P	ユーザー・プロフィール	照会・更新(J C A ・副画面)
センター起動利用時		
N C U電話番号	*****	アクセスポイント TOK

J C A データ種別

J 9 6 2 5 J P	メッセージ処理	ユーザー・オプション副画面
顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X B B B	メッセージ識別コード: M S G I D 2 1
J C A データ種別: 2 1		

セッション定義

J 9 8 1 4 J P	セッション定義	時刻起動
顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X B B B	セッションID: S E S S 2 1
メッセージ識別コード: M S G I D 2 1		
集配区分: 1 (0 : 配布、1 : 収集)	パスワード: C C C C C C	
差出顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X A A A	
通信コード: A A A A A A A (J C A 時)		
宛先顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X B B B	
通信コード: B B B B B B (J C A 時)		

起動スケジュールは時刻起動の定義の管理でユーザーごとにセッションID、時刻、日付、開始年月日を登録します。
 開始年月日以降、指定された日時に、センター側からユーザーBに電話がかけられます。接続が完了するとセッションID、S E S S 2 1で指定されたセッション定義の通信コードが電文上にセットされてユーザーBに次のような電文として送られます。

電文区分	センター・コード	ステーション・コード	識別子	データ種別	
B B 0 1	B B B B B B	A A A A A A A A	C C C C C C	2 1	...

(通信コード / 別名登録の必要はありません)

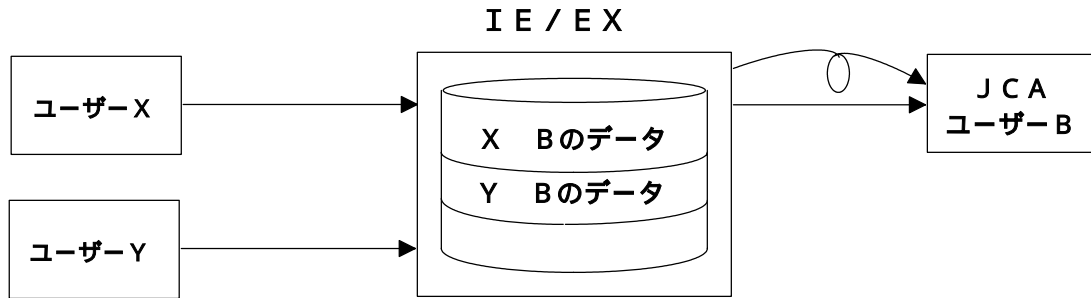
この結果、ユーザーAからのデータがユーザーBに配布されます。

(2) 全差出指定

全差出指定というのは、制御電文上に I E / E X を示す通信コード (ステーション・コード) を指定して配布する方法です。

センター起動の場合、通信コードの指定はセッション定義で行います。

例 複数の差出者からのデータを、センター起動でユーザー B へ配布する場合



顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X B B B	通信コード B B B B B B
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	J C A データ種別 2 1

受信側の登録はセッション定義を除いて単一差出指定と同じです。

セッション定義は次のようにします。

J 9 8 1 4 J P		セッション定義	時刻起動
顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X B B B	セッションID: S E S S 2 1 B	
メッセージ識別コード: M S G I D 2 1			
集配区分: 0 (0: 配布、1: 収集)	パスワード: C C C C C C		
差出顧客コード: I E E X	ユーザーID: I E E X 0 0 1		
通信コード: 8 0 5 0 0 1 0 0 (J C A 時)			
宛先顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X B B B		
通信コード: B B B B B B (J C A 時)			

差出顧客コードは ' I E E X '、ユーザーIDは ' I E E X 0 0 1 ' と登録しておきます。

差出側の通信コードには通常 I E / E X のステーション・コードである 8 0 5 0 0 1 0 0 を指定しますが、相手に受け入れられるものであれば任意のコードでも結構です。

起動スケジュールは時刻起動定義の管理でユーザーごとにセッションID、時刻、日付、開始年月日を登録します。

開始年月日以降指定された日時に、センター側からユーザー B に電話がかけられます。

接続が完了するとセッション ID、SESS21B で指定されたセッション定義の通信コードが電文上にセットされてユーザー B に次のような電文として送られます。

電文区分	センター・コード	ステーション・コード	識別子	データ種別	
BB01	BBBBBB	80500100	CCCCCC	21	...

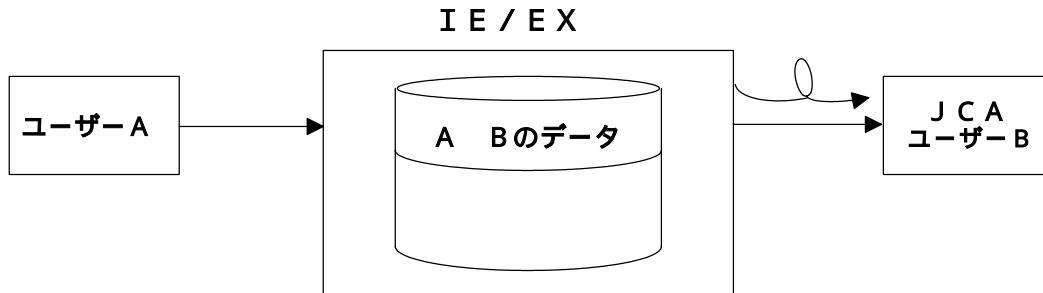
(通信コード / 別名登録の必要はありません)

この結果、ユーザー X、ユーザー Y からのデータがユーザー B に配布されます。

(3) 強制配布

強制配布というのは、送信者からのデータが宛先（受信者）に蓄積完了すると、センター側から受信者にダイヤリングし、直ちに配布する方法です。受信側でのセッション定義で、通信コードを指定します。

例 ユーザー B がユーザー A からのデータを強制配布で受取る場合



顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X A A A	
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	

顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X B B B	通信コード B B B B B B
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	J C A データ種別 2 1

受信者側の登録

N C U 電話番号、アクセスポイント、強制配布 (I X X X I X X X B B B のプロファイル)

J 9 3 2 4 J P	ユーザー・プロファイル	照会・更新(J C A ・副画面)
センター起動利用時		
N C U 電話番号	*****	
強制配布 Y	アクセスポイント	T O K

M8120JP

事象起動定義の登録

顧客コード I X X X

ユーザーID I X X X B B B

差出システムID

差出顧客コード I X X X

差出ユーザーID I X X X A A A

ユーザー・クラス M S G I D 2 1 (メッセージ識別コード)

下記の項目を入力し実行キーを押して下さい。

対象メッセージ (A= 全部 H= 優先指定のみ) A
起動可能 ? (Y/N) Y

セッションID M S G I D 2 1

JCAデータ種別

J9625JP	メッセージ処理	1-ザ-オプション副画面
顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXBBB	メッセージ識別コード: MSGID21
JCAデータ種別: 21		

セッション定義 (強制配布)

J9834JP	セッション定義	事象起動
顧客コード: IXXX		
ユーザーID: IXXXBBB		
セッションID: MSGID21 (メッセージ識別コード)		
差出顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXAAA	
通信コード: AAAAAAAAA (JCA時)		
宛先顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXBBB	
通信コード: BBBBBB (JCA時)		
パスワード/識別子 = CCCCCC		

セッションIDとしてメッセージ識別コードと差出ユーザーの組合せを指定する必要があります。

ユーザーAから、メッセージ識別コードMSGID21のデータがユーザーB宛に蓄積されるとセンター側から電話をかけて次の電文をユーザーBに送ります。

電文区分	センター・コード	ステーション・コード	識別子	データ種別	
BB01	BBBBBB	AAAAAAAA	CCCCCC	21	...

この結果データがユーザーBに配布されます。

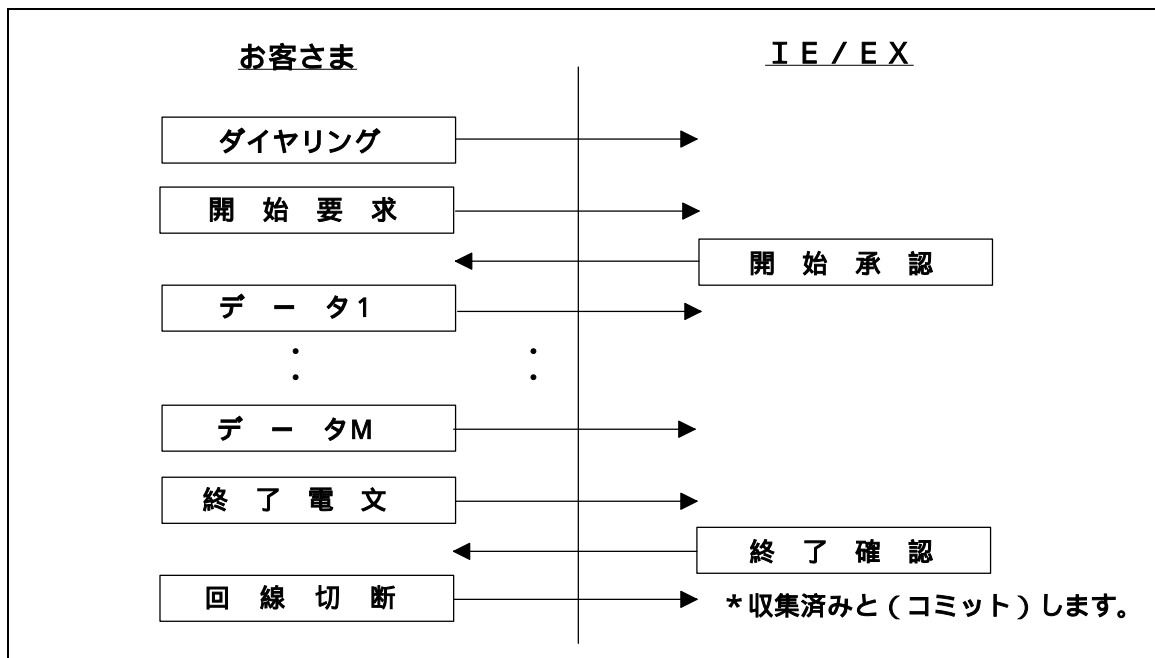
このページはブランクです。

1.6 ファイル交換成立基準

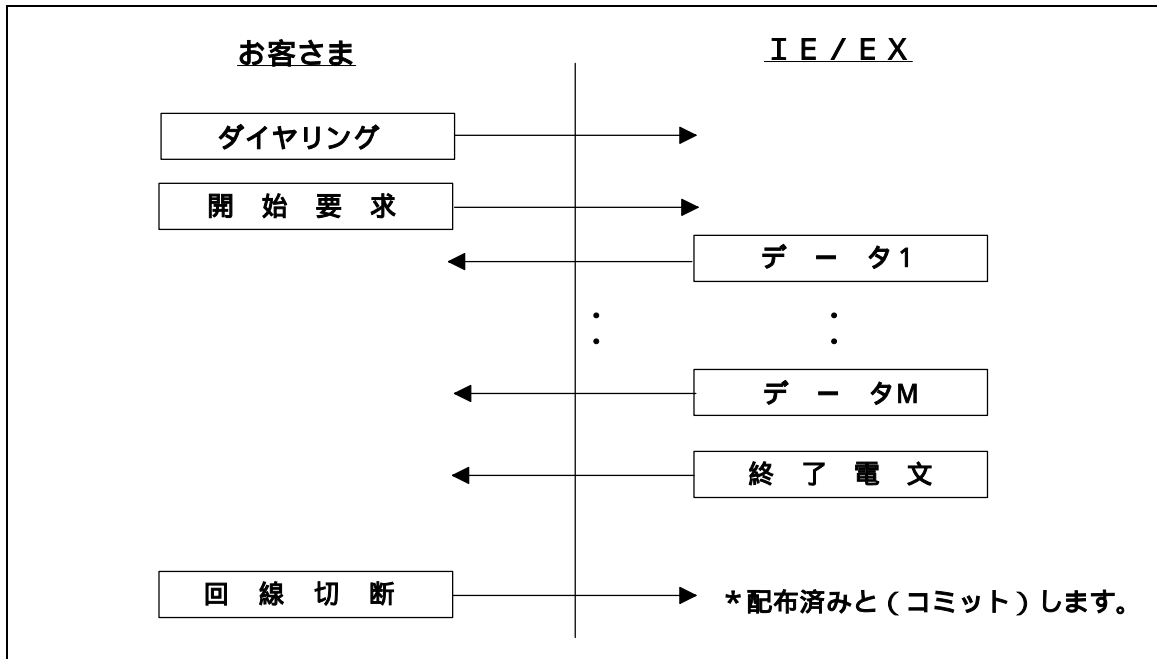
IE / EXは下記のタイミングで、ファイルを収集済み / 配布済みと（コミット）します。

	ユーザープロファイルの再送要求にかかわらず
ユーザー起動収集 (1)	終了確認（処理区分 = ' '）を送信後、回線切断（DISC）を受信した時点で収集コミット
ユーザー起動配布 (2)	終了電文を送信後、回線切断（DISC）を受信した時点で配布コミット
センター起動収集 (3)	終了電文を受信後、回線切断（DISC）を送信した時点で収集コミット
センター起動配布 (4)	終了確認を受信した時点で配布コミット

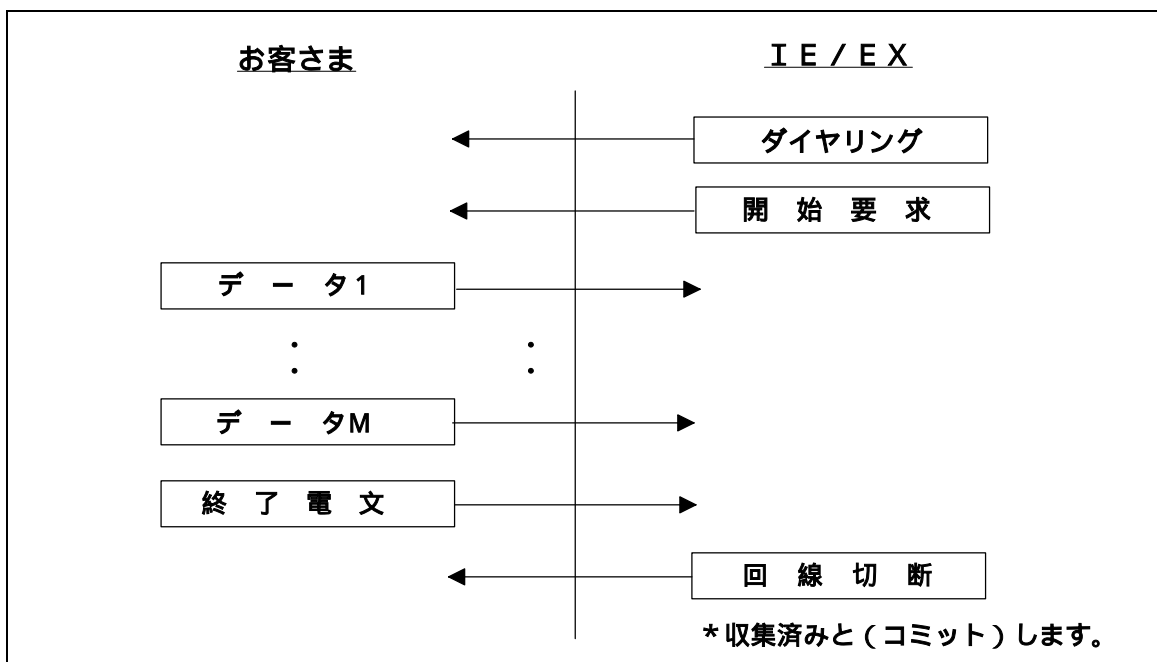
(1) ユーザー起動収集



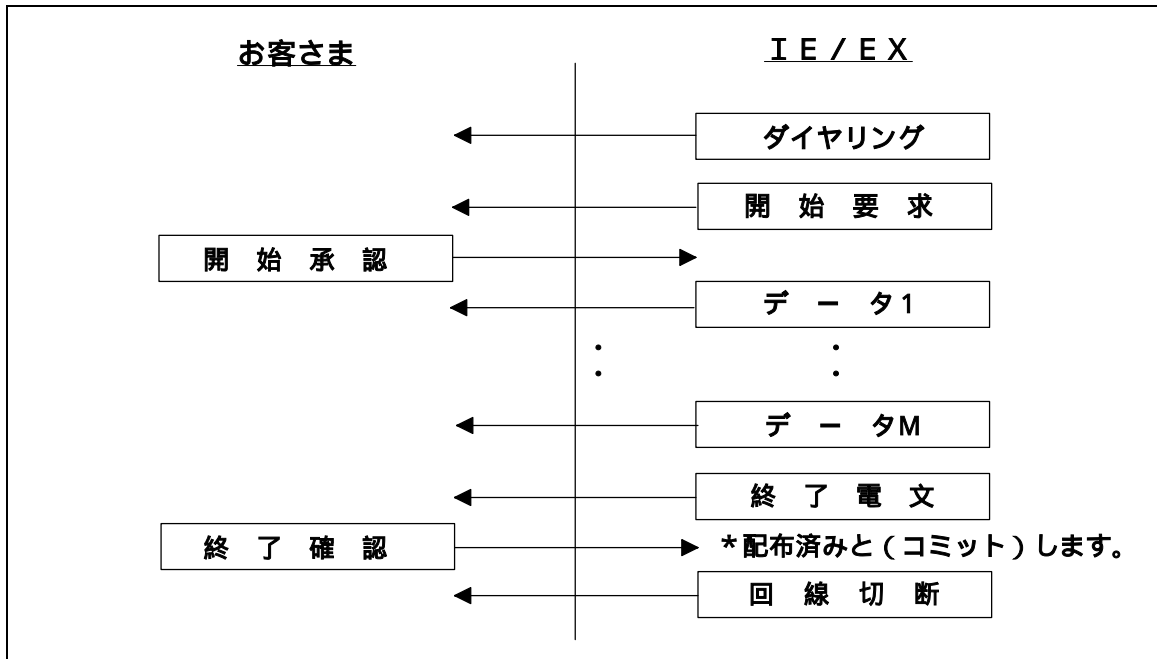
(2) ユーザー起動配布



(3) センター起動収集



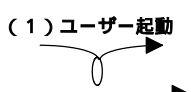
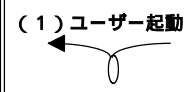
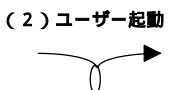
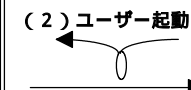
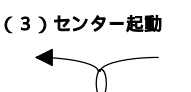
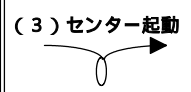

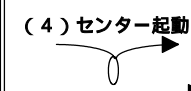
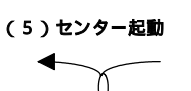
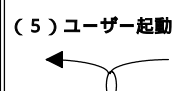
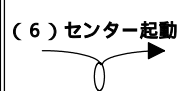
(4) センター起動配布



このページはブランクです。

1.7 0件データの扱い

0件データ（データなし）の扱いは、ユーザプロフィールの「データなし扱い拡張機能」の指定によって選択できるようになっています。
 次の表を参照して、お客様の都合の良い様に設定して下さい。

収 集			配 布			
作成される確認メッセージ	Aユーザー	Aユーザーデータなしの扱い拡張機能	IE/EX	Bユーザーデータなしの扱い拡張機能	Bユーザー	作成される確認メッセージ
1174I 0652I 0180I	(1)ユーザー起動  終了電文の処理区分 = ' '、 カウント = 0	Y/N	0件の蓄積をします 配布後保管又は削除します	N	(1)ユーザー起動  終了電文の処理区分 = 'NO'	0652I 0580I 又は 0581I
1174I 0652I 0180I	(2)ユーザー起動  終了電文の処理区分 = 'NO'	Y/N		Y	(2)ユーザー起動  終了電文の処理区分 = ' '、 カウント = 0	0652I 0580I 又は 0581I
1174I 0652I 0180I 0674I	(3)センター起動  終了電文の処理区分 = 'NO'	N		N	(3)センター起動  終了電文の処理区分 = 'NO'	0652I 0580I 又は 0581I 0674I
1174I 0652I 0180I 0674I	(4)センター起動  終了電文の処理区分 = ' '、 カウント = 0	Y/N		Y	(4)センター起動  終了電文の処理区分 = ' '、 カウント = 0	0652I 0580I 又は 0581I
0656E 0677E 0053E	(5)センター起動  終了電文の処理区分 = 'NO'	Y	蓄積しません セッション中断 リダイヤルの対象となりません	Y/N	(5)ユーザー起動  終了電文の処理区分 = 'NO'	1111I 0652I
				Y/N	(6)センター起動  終了電文の処理区分 = 'NO'	1111I 0652I 0674I

作成される確認メッセージ内容

0053E ジュシン チュウ ニ チュウダン シマシタ。
0180I 1メッセージ ヲ チクセキ シマシタ。
0580I メッセージ ハイフ シュウリョウ シマシタ。
0581I メッセージ ハイフ、ホカン シュウリョウ シマシタ。
0652I (シュウハイシン) ファイル ノ ソウジュシン ガ オワリマシタ。
0656E (シュウハイシン) ファイル ノ ソウジュシン シュウリョウ デ
エラーガ ハッセイシマシタ。
0674I オートコール ショリ シュウリョウ シマシタ。
0677E シテイサレタ オートコールセッション リトライカイスウ オーバー
シマシタ。
1111I ハイフスル ガイトウファイル ガ アリマセン。
1174I ガイトウ ファイル ナシ (NO DATA) ノタメ ゼロバイト
データヲ チクセキ シマス。

1.8 中断セッションと自動セッション・リセット・オプション

何らかの障害により、セッションが中断している状態で後続セッションが発生することがあります。その場合、セッションの順序を守るために、後続セッションを拒否してほしい場合と、中断セッションを無視して、後続セッションを受け入れてほしい場合があります。

この選択をしていただくために、自動セッション・リセット・オプションを設けました。

ユーザープロファイルの「自動セッション・リセット・オプション」項目で指定します。

当指定による後続セッションの受け入れ状況は次の表のようになります。

起動タイプ		自動セッション・リセット・オプション	
中断セッション	後続セッション	'Y' 指定	'N' 指定
ユーザー起動	ユーザー起動	後続セッションが開始される。	後続セッションは中断セッションの再送以外は拒否される。 後続セッションを有効にするにはサービス管理責任者による中断セッションのキャンセルが必要。
ユーザー起動	センター起動	後続セッションが開始される。	後続セッションは保留される。 後続セッションを有効にするにはサービス管理責任者による中断セッションのキャンセルが必要。
センター起動	ユーザー起動	後続セッションが開始される。	後続セッションは拒否される。 後続セッションを有効にするにはサービス管理責任者による中断セッションのキャンセルが必要。
センター起動	センター起動	中断がリトライ・オーバーになっている場合、後続セッションが開始される。 リトライ・オーバーになるまでは後続セッションは保留されている。	後続セッションは保留される。 後続セッションを有効にするにはサービス管理責任者による中断セッションのキャンセルが必要。

なお、サービス管理責任者によってキャンセルされた中断セッション及び、自動セッション・リセット・オプションによって後続セッションが受け入れられた場合の先行中断セッションの再送情報はなくなってしまうので、以前の中断セッションの再開は新規セッションとして行う必要があります。

1.9 二重セッションと自動セッション・リセット・オプション

端末 A のセッション中に同一ユーザー ID で端末 B がセッションを開始すると二重セッションとなります。

二重セッションの扱いは、自動セッション・リセット・オプションによって異なり、次の表のようになります。

起動タイプ		自動セッション・リセット・オプション	
中断セッション	後続セッション	'Y' 指定	'N' 指定
ユーザー起動	ユーザー起動	先行セッションは中断される。後続セッションが開始される。	先行セッションは継続される。後続セッションは拒否される。
ユーザー起動	センター起動	先行セッションは継続される。後続セッションが保留される。	先行セッションは継続される。後続セッションが保留される。
センター起動	ユーザー起動	先行セッションは中断され、自動リトライを開始する。後続セッションが開始される。	先行セッションは継続される。後続セッションは拒否される。
センター起動	センター起動	先行セッションは継続される。後続セッションが保留される。	先行セッションは継続される。後続セッションが保留される。

1.10 限定受信

お客さまが、あるメッセージを受信中に、そのお客さま宛にメッセージが次々に到着し蓄積されたとします。

IE / EXは、その蓄積メッセージがお客さまの受信要求に一致したメッセージであれば、次々に配布しますので受信セッションが予想以上に長引く場合があります。こういう事態を回避するために、限定受信機能を設定しています。

限定受信とは、ユーザー起動であれば、お客様が開始要求か再送要求を出した時点で、センター起動であれば、IE / EXが開始要求か再送要求を出した時点で蓄積が完了しているメッセージのみを配布する機能です。

当機能を使用する場合はユーザー・プロファイルの『セッション開始時点までの蓄積データ配布』で ' Y ' を指定して下さい。

このページはブランクです。

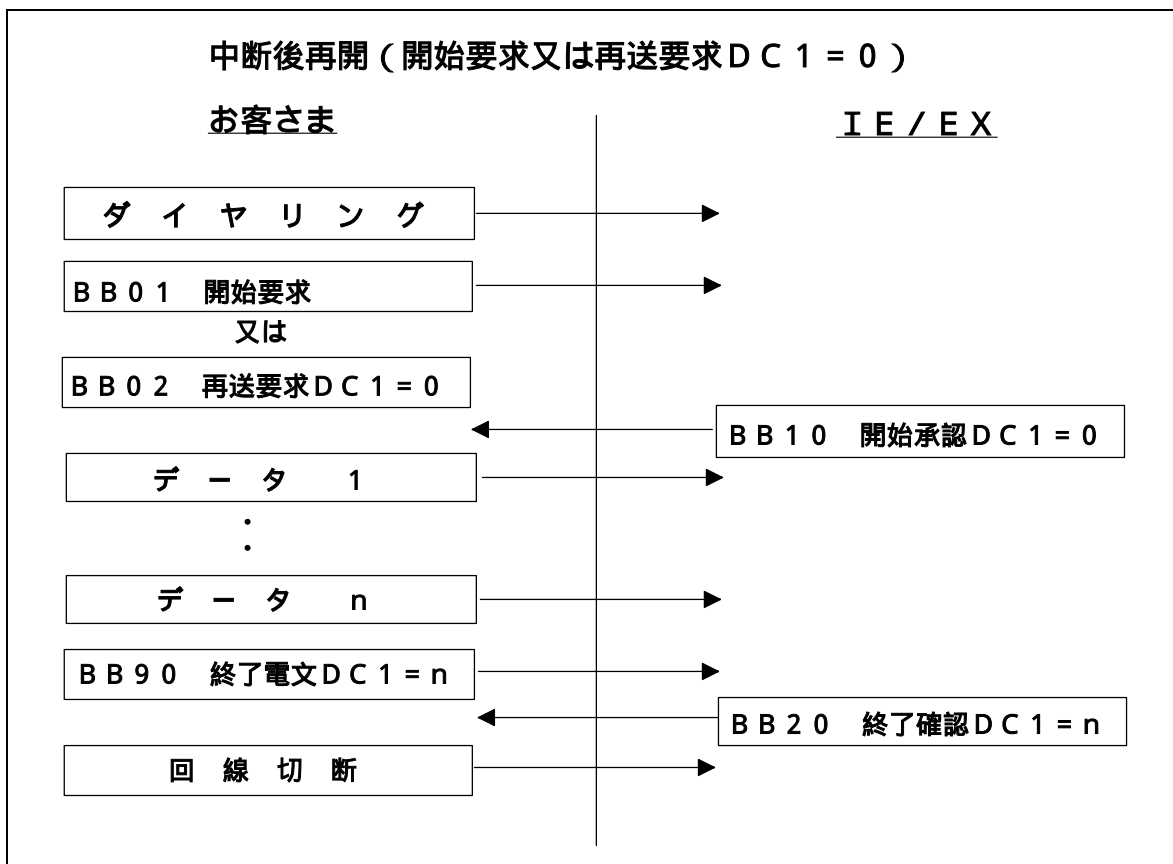
1.1.1 再送のサポート

JCAでは、何らかの障害によりセッションが中断した時、ファイルの先頭からのみならず、途中から再送することができます。IE/EXもJCA手順に準じて、再送機能をサポートしています。

なお、ユーザー・プロファイルの『再送要求』の指定により、扱いが異なる場合がありますので、以下の図を参照して下さい。

(1) ユーザー起動収集(ユーザー・プロファイルの『再送要求』指定に関わらず)

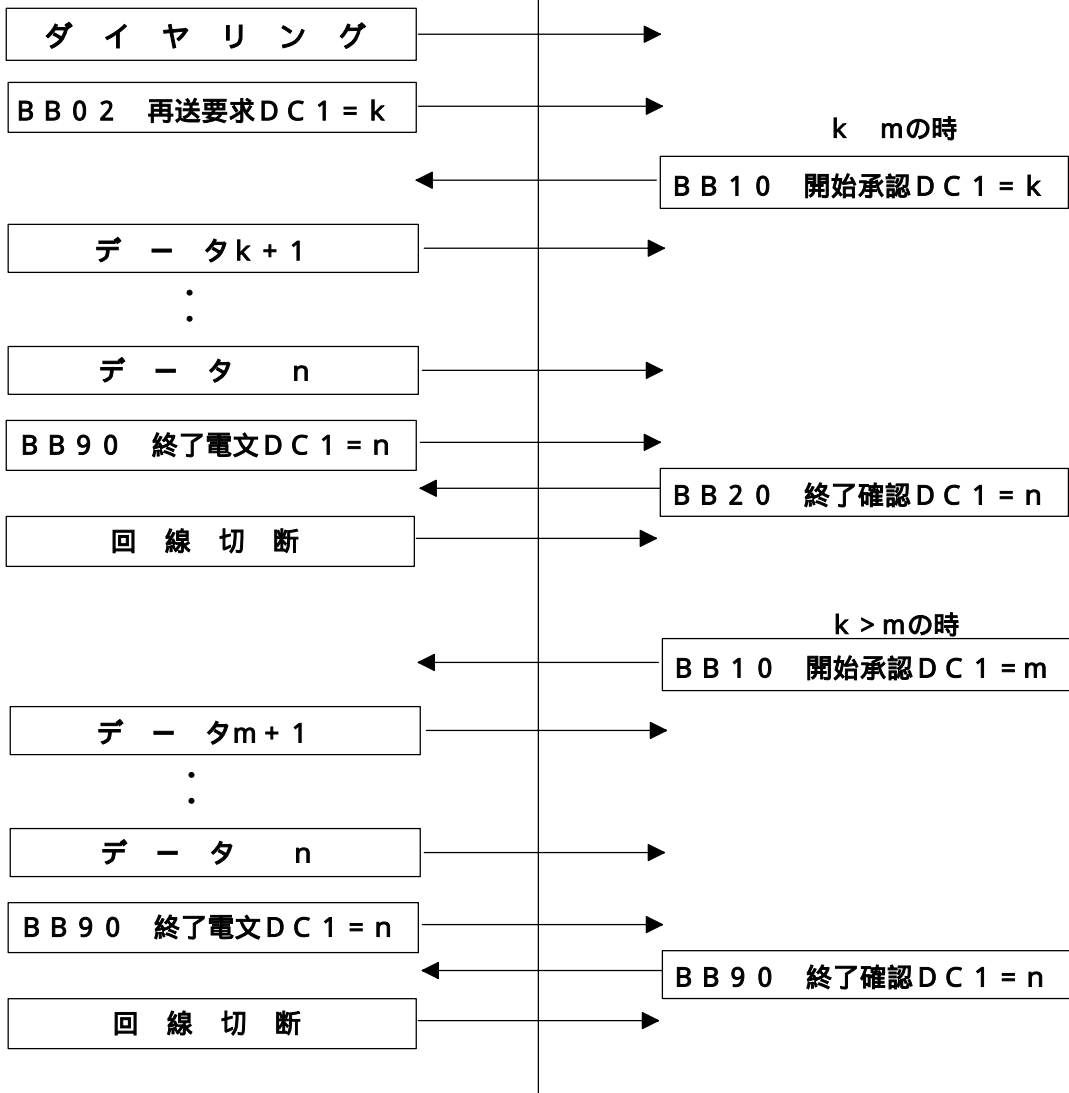
DC1はデータ・カウント1、mはIE/EX収集済件数です。



中断後再開 (再送要求DC1 = k)

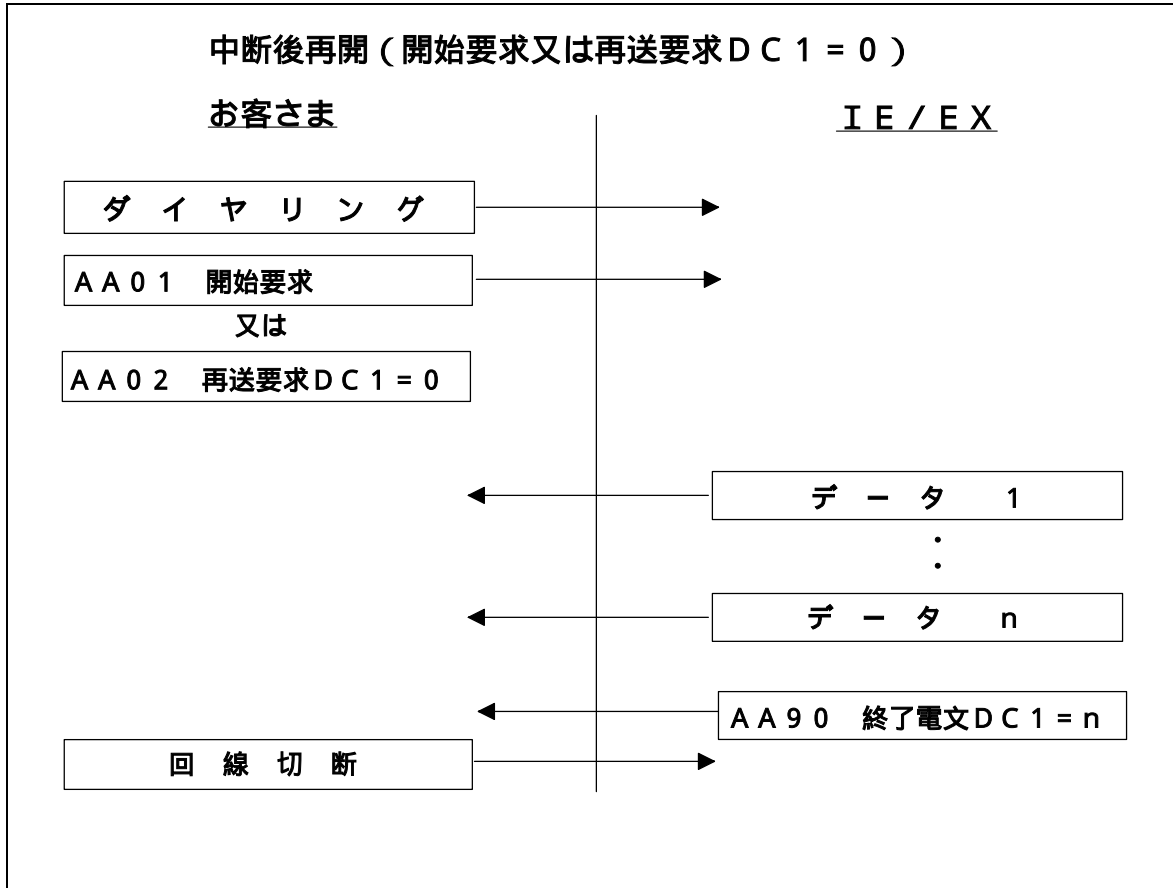
お客さま

IE / EX



(2) ユーザー起動配布(ユーザー・プロファイルの『再送要求』指定に関わらず)

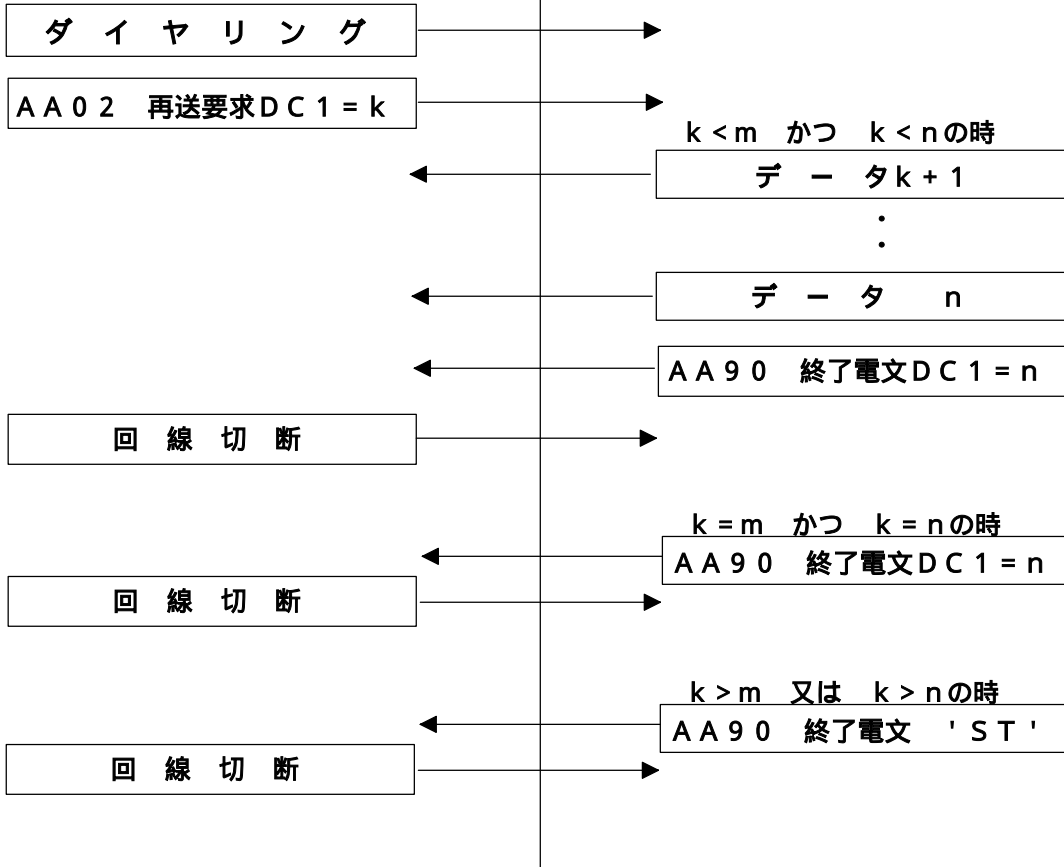
DC1はデータカウント1、mはIE/EX配布済件数、nは蓄積件数です。



中断後再開 (再送要求DC1 = k)

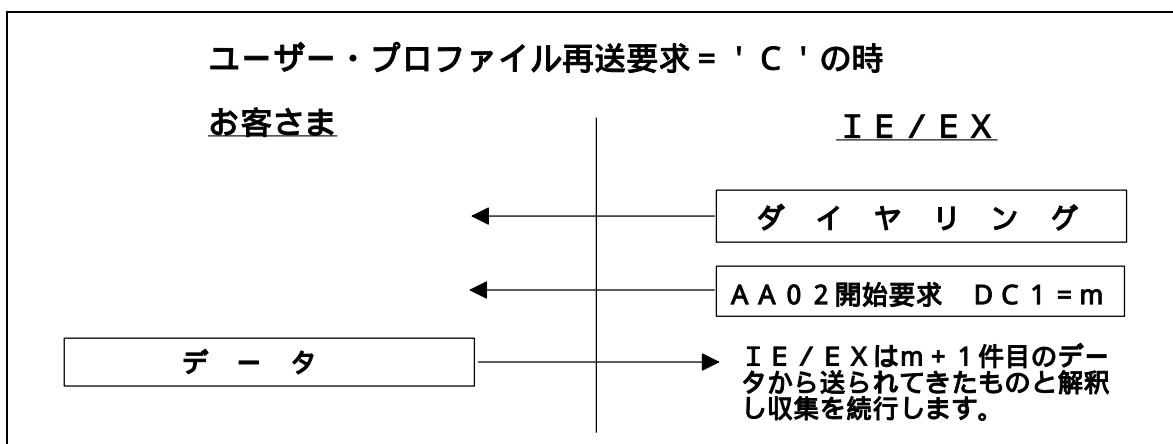
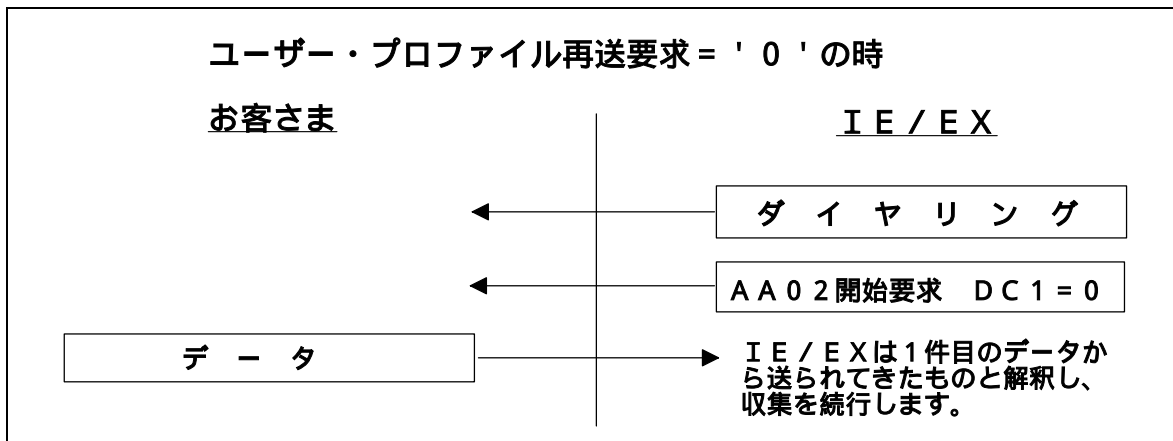
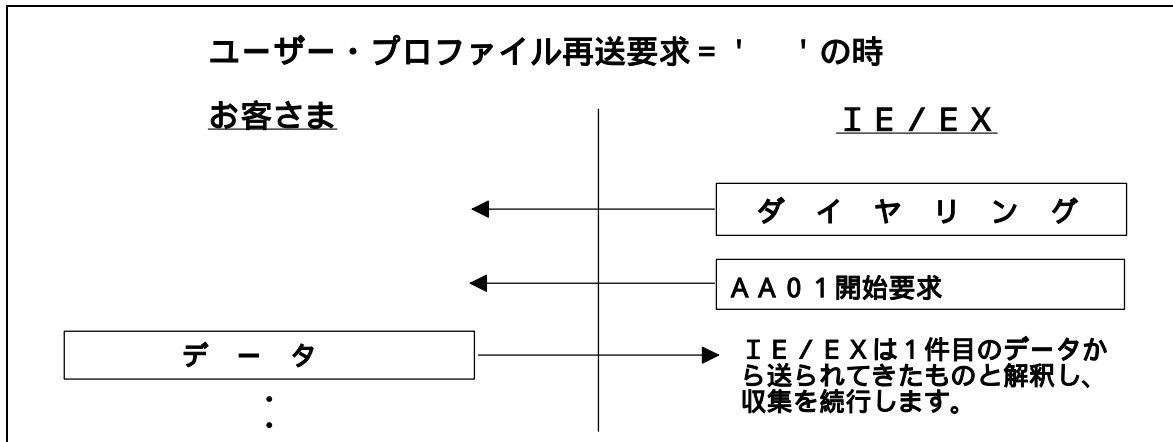
お客さま

IE/EX

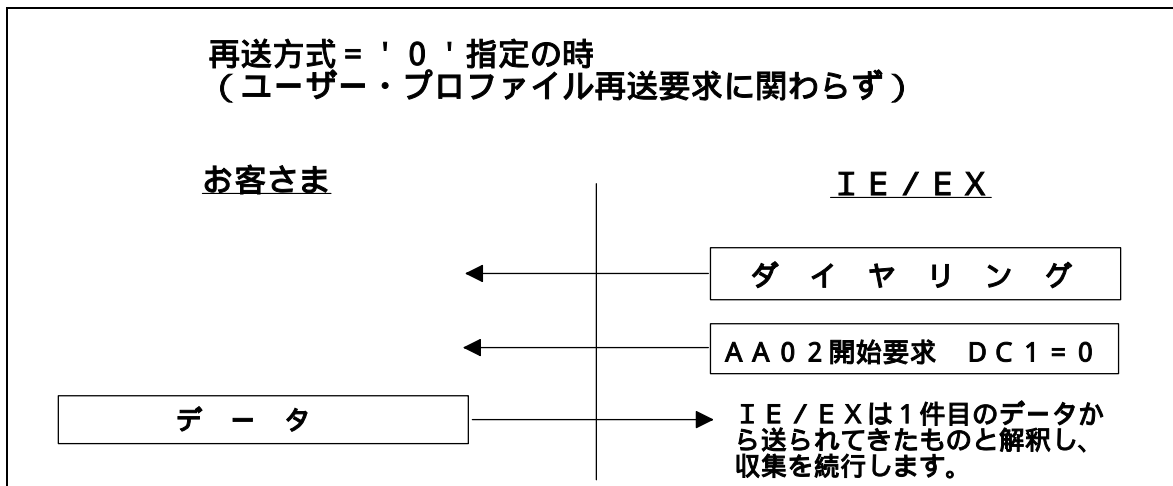
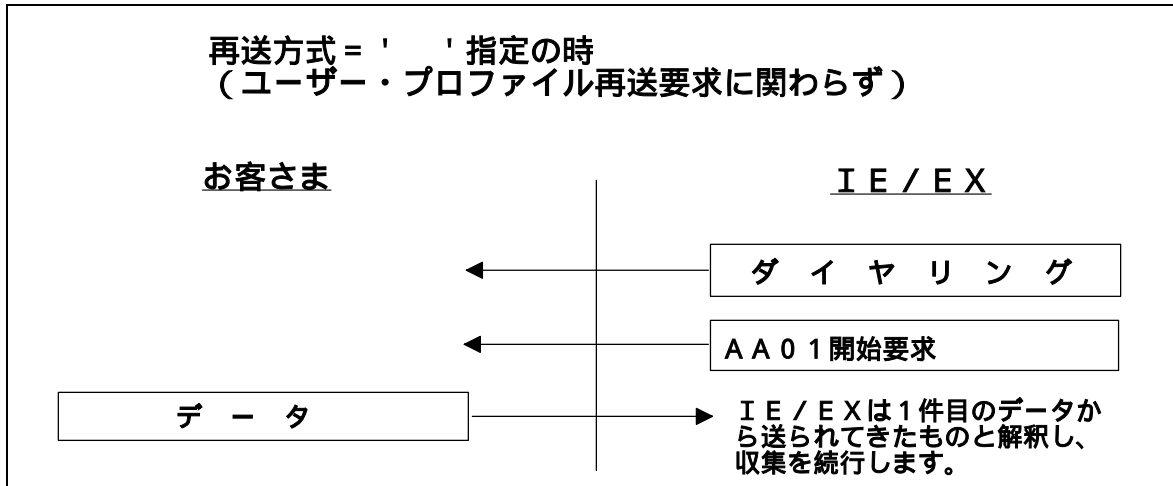


(3) センター起動収集・中断・自動リトライ

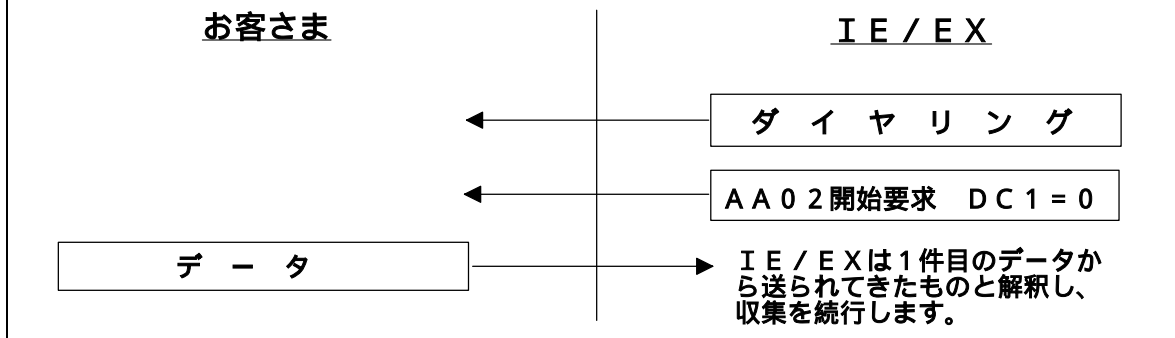
DC1はデータ・カウント1、mはIE/EX収集済件数です。



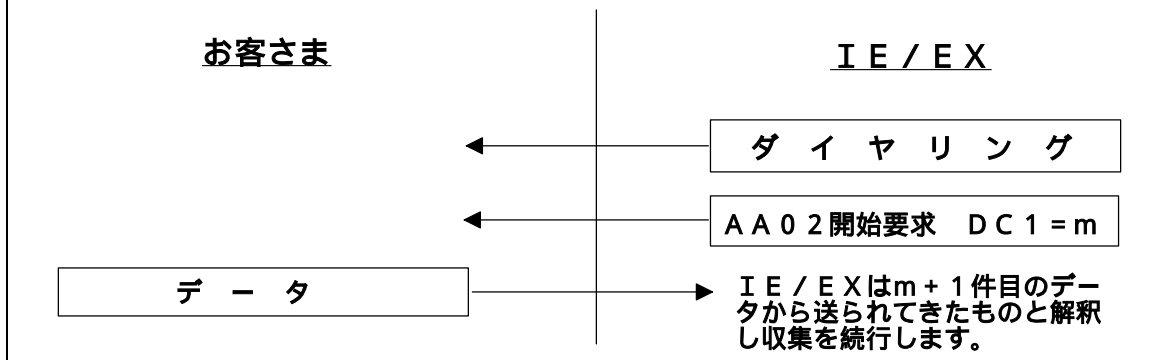
- (4) センター起動収集・中断・サービス管理責任者による再起動
 サービス管理責任者は中断セッション状況を照会し、再送指示を行います。
 (再送方式として ' '、' 0 ' 又は ' C ' を指定します。)
 DC 1 はデータ・カウント 1、m は I E / E X 収集済件数です。



- 1 再送方式 = ' C ' 指定の時
(ユーザー・プロフィール再送要求 = ' ' 又は ' 0 ' の時)

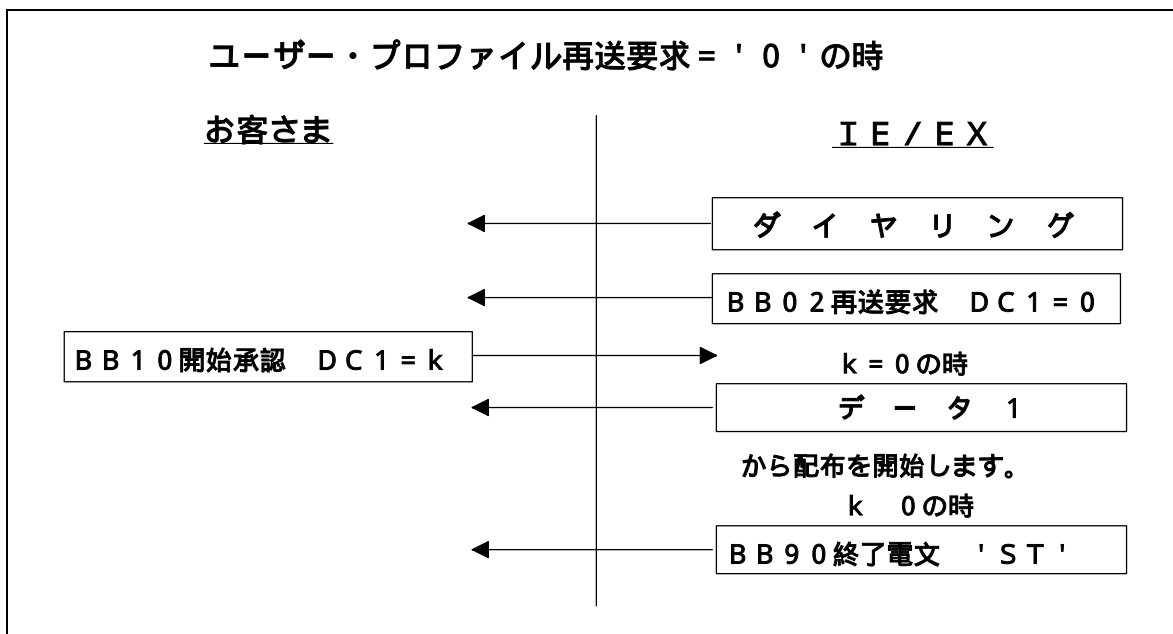
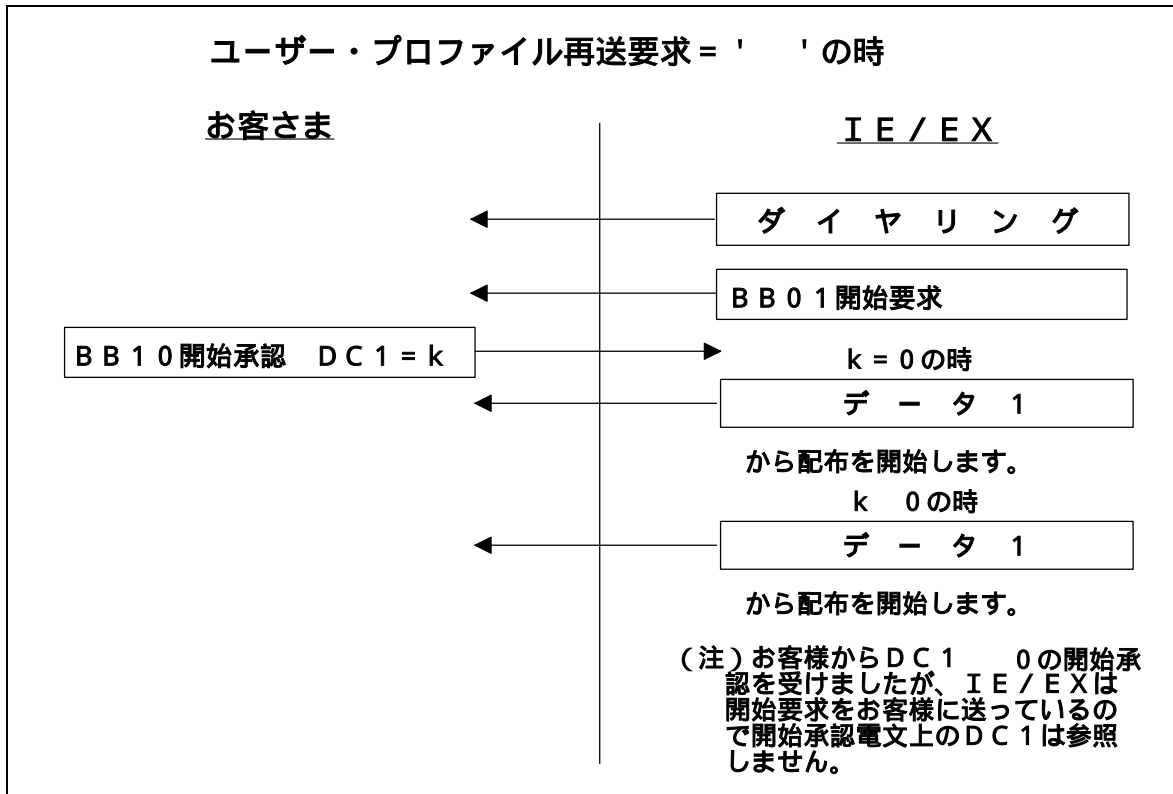


- 2 再送方式 = ' C ' 指定の時
(ユーザー・プロフィール再送要求 = ' C ' の時)



(5) センター起動配布・中断・自動リトライ

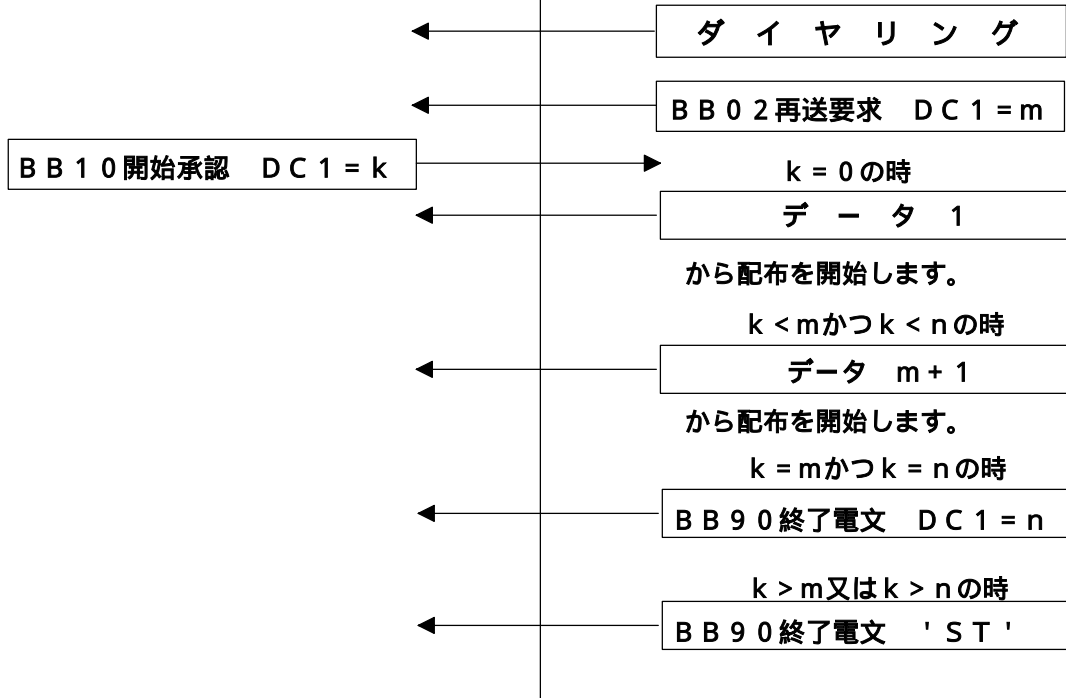
DC1はデータ・カウント1、mはIE/EX配布済件数、nは蓄積件数です。



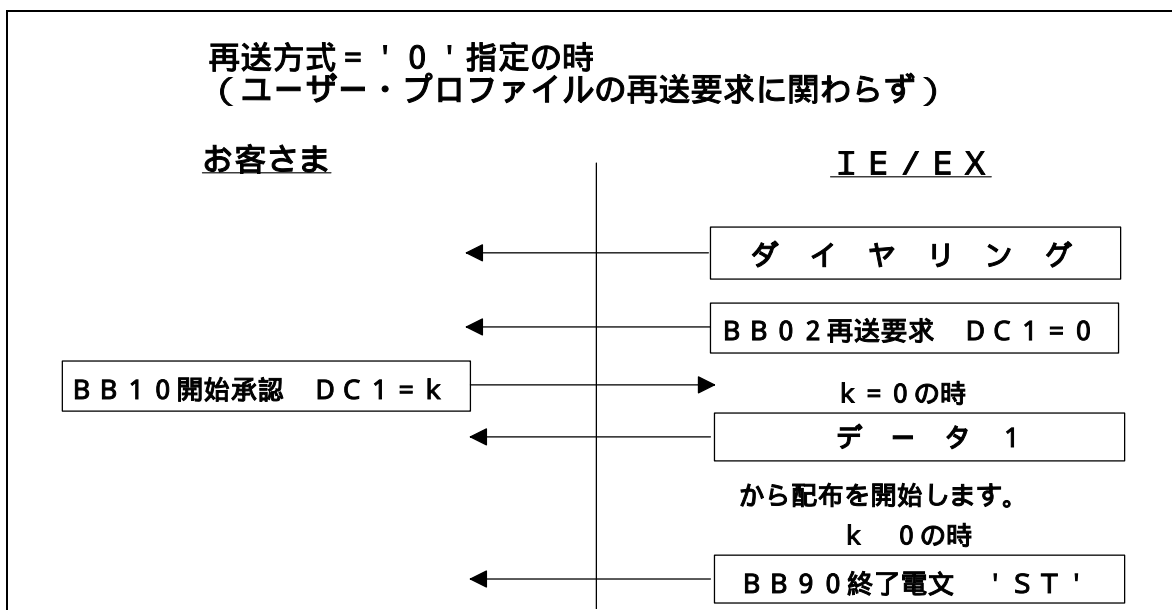
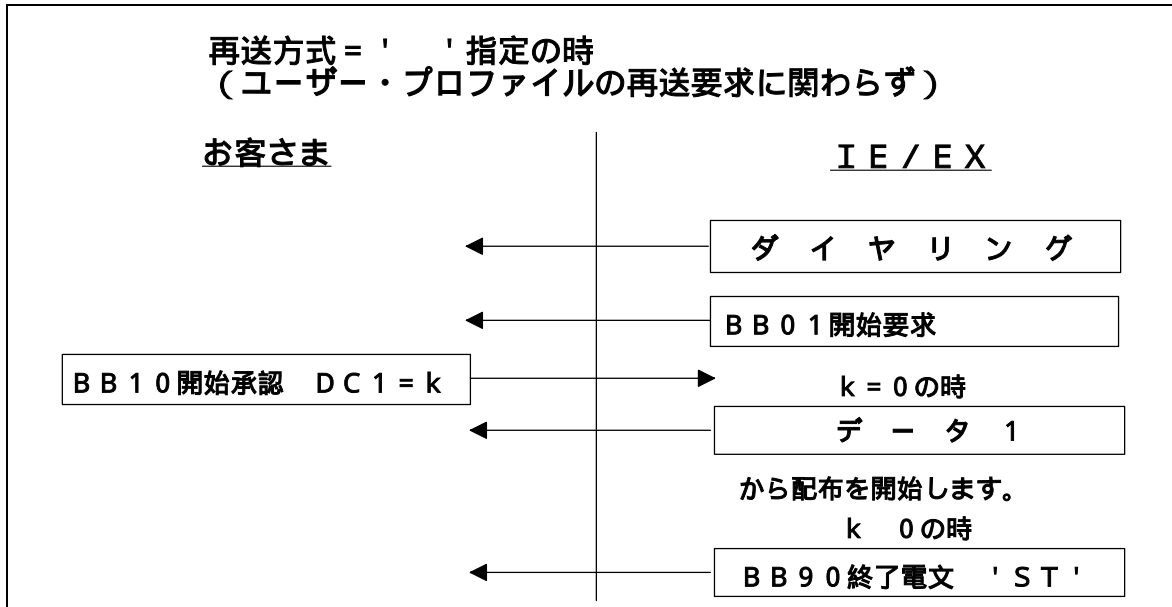
ユーザー・プロフィール再送要求 = ' C ' の時

お客さま

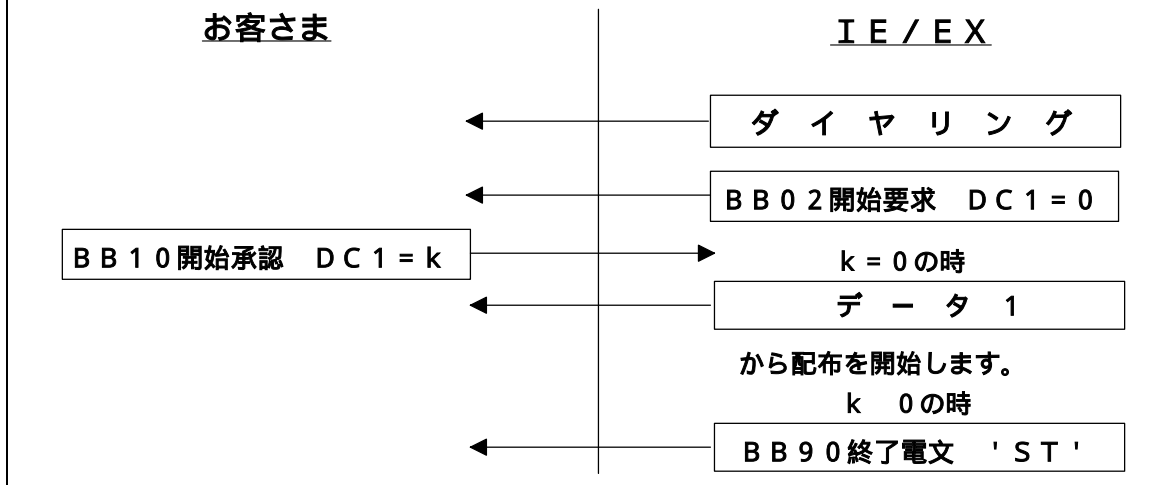
IE / EX



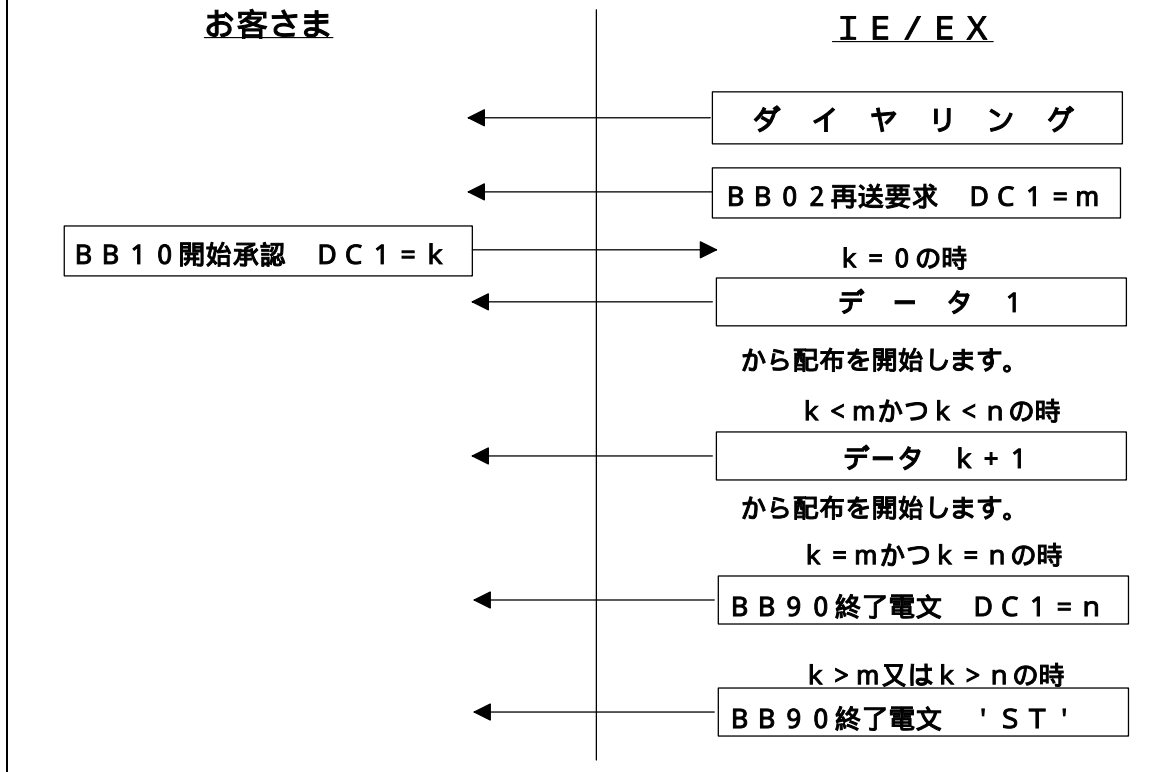
- (6) センター起動配布・中断・サービス管理責任者による再起動
 サービス管理責任者は中断セッション状況を照会し、再送指示を行います。
 (再送方式として ' '、' 0 ' 又は ' C ' を指示します。)
 DC 1 はデータ・カウント 1、m は I E / E X 配布済件数、n は I E / E X 蓄積件数です。



- 1 再送方式 = ' C ' 指定の時
(ユーザー・プロフィール再送要求 = ' ' 又は ' 0 ' の時)



- 2 再送方式 = ' C ' の時
(ユーザー・プロフィール再送要求 = ' C ' の時)



このページはブランクです。

1.12 収集時非ブロック化、配布時ブロック化処理

JCA手順での送受信は伝送ブロック単位に行われます。
伝送ブロックは128又は256バイトの固定長です。(拡張として512、1024、2048バイトを選択することもできます。)

伝送ブロックとお客様の適用業務データの論理レコード長が一致しない場合、収集伝送ブロックの中から論理レコード長分だけ、あるいはテキスト長(論理レコード長の倍数)分だけ取り出して蓄積することができます。

これを収集時非ブロック化処理といいます。

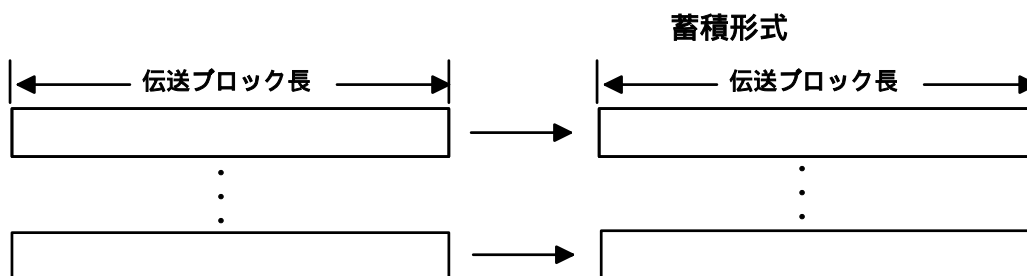
一方、配布する場合、蓄積データから論理レコード長分だけ、あるいはテキスト長毎に伝送ブロックを組み立て、余った部分にダミー文字(ブランク)を充填してお客様に送り出すことができます。

これを配布時ブロック化処理といいます。

収集時非ブロック化、配布時ブロック化の指定は、メッセージ・プロファイル(ユーザー・オプション)の画面でそれぞれ'Y'または'N'を指定します。また、同画面では論理レコード長、テキスト長と収集時、非ブロック化の時に使う区切り文字、配布時、ブロック化の時に使う充填文字を指定します。伝送ブロックはユーザー・プロファイルで指定します。

(1) 収集時非ブロック化しない(収集時非ブロック化'N')

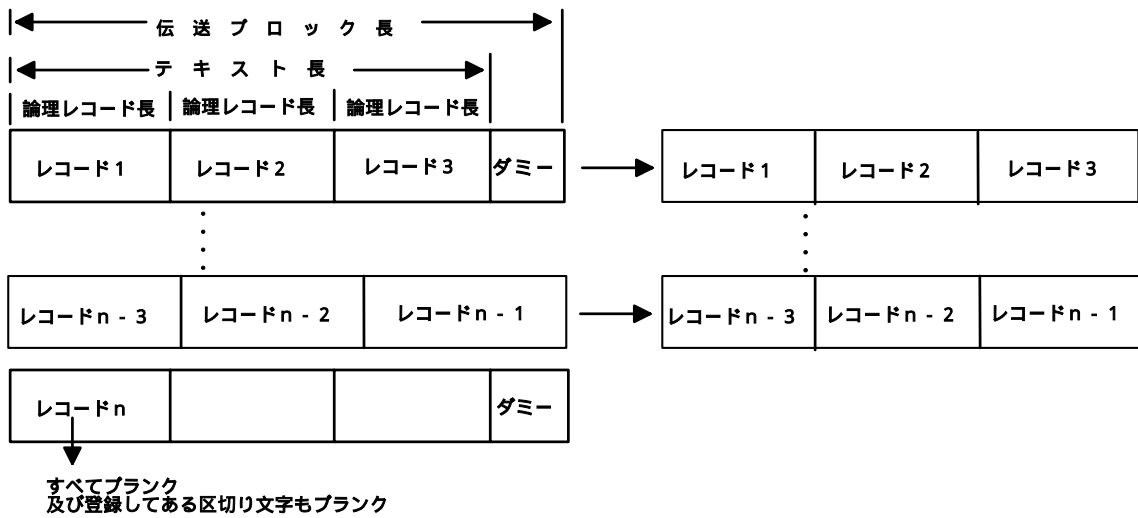
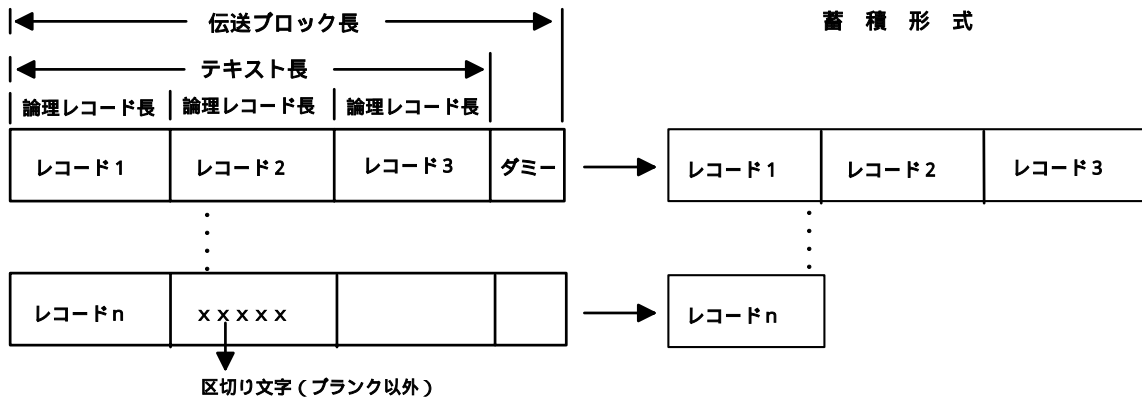
指定した論理レコード長、テキスト長に関係なく、収集伝送ブロック単位にそのまま蓄積します。



(2) 収集時非ブロック化する (収集時非ブロック化 ' Y ')

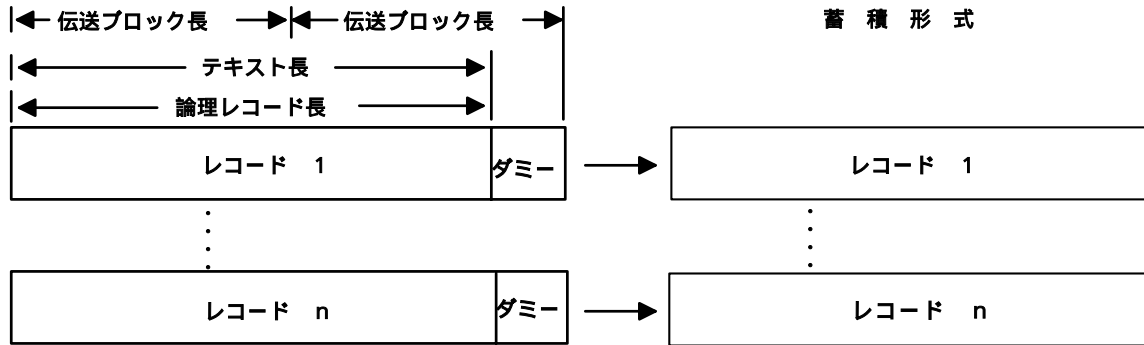
テキスト長 伝送ブロック長の場合 (テキスト長 = 論理レコード長 × n)

伝送ブロックからテキスト長分を取り出し、ダミー部分があれば、これを取り除いて蓄積します。また最後の伝送ブロック内の論理レコードの最初の5バイトが登録してある区切り文字と一致した時、その論理レコード以降は蓄積されません。区切り文字がブランクの場合は最後の伝送ブロック内の論理レコードが全てブランクならば、その論理レコード以降は蓄積されません。



テキスト長 > 伝送ブロック長の場合 (この場合テキスト長 = 論理レコード長)

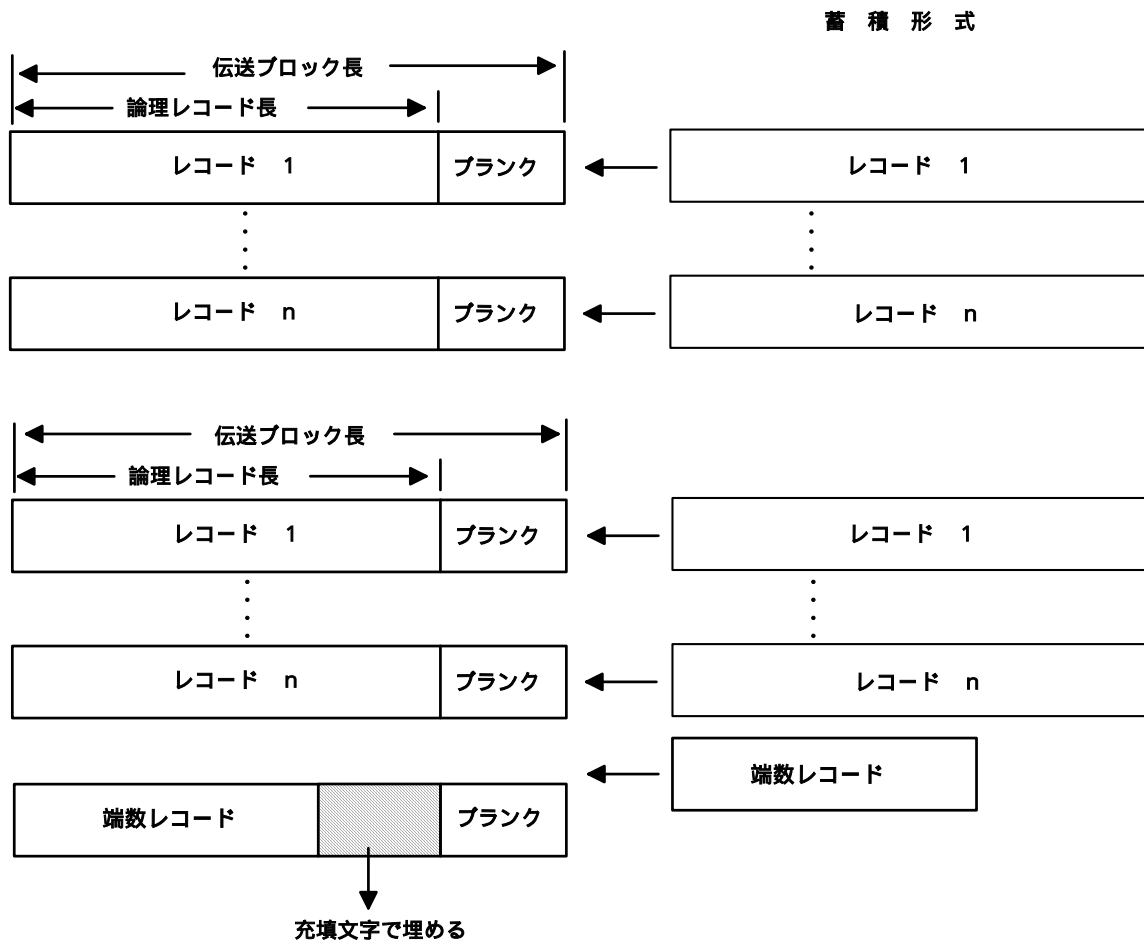
論理レコード長に達するまで、伝送ブロックを受信し、ダミー部分があれば、これを取り除いて蓄積します。この場合、区切文字は意味がありません。



(3) 配布時ブロック化しない (配布時ブロック化 ' N ')

論理レコード長 伝送ブロック長の場合

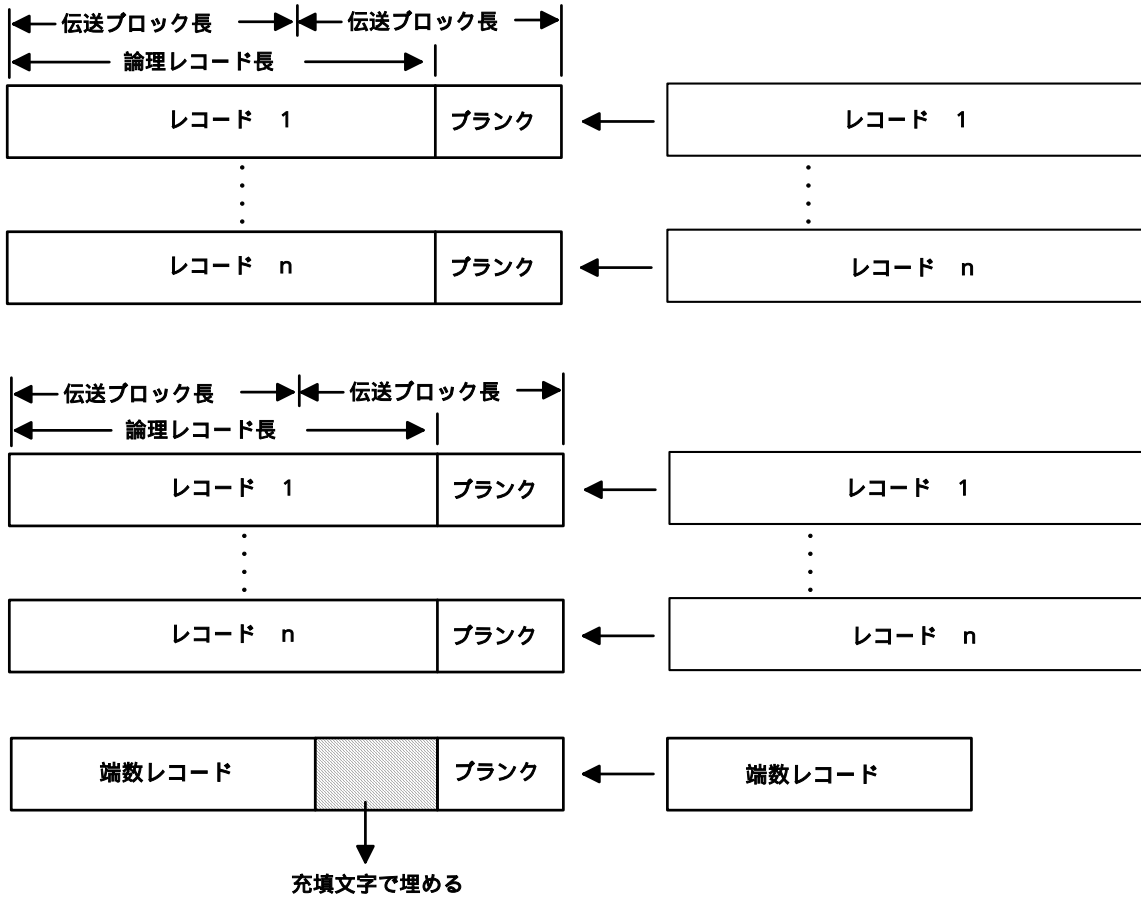
蓄積メッセージより、論理レコード長分のデータを取り出し、伝送ブロックに入れます。伝送ブロックの余りの部分に空白を補います。
 また蓄積メッセージが論理レコード長の倍数となっていない時、最後のレコード (端数レコード) には論理レコード長になるまで充填文字が埋められます。



論理レコード長 > 伝送ブロック長の場合

蓄積メッセージより、論理レコード長分のデータを取り出し、複数伝送ブロックに入れます。余りが発生した伝送ブロックには空白を補います。また蓄積メッセージが論理レコード長の倍数となっていない時、最後のレコード（端数レコード）には論理レコード長になるまで充填文字が埋められます。

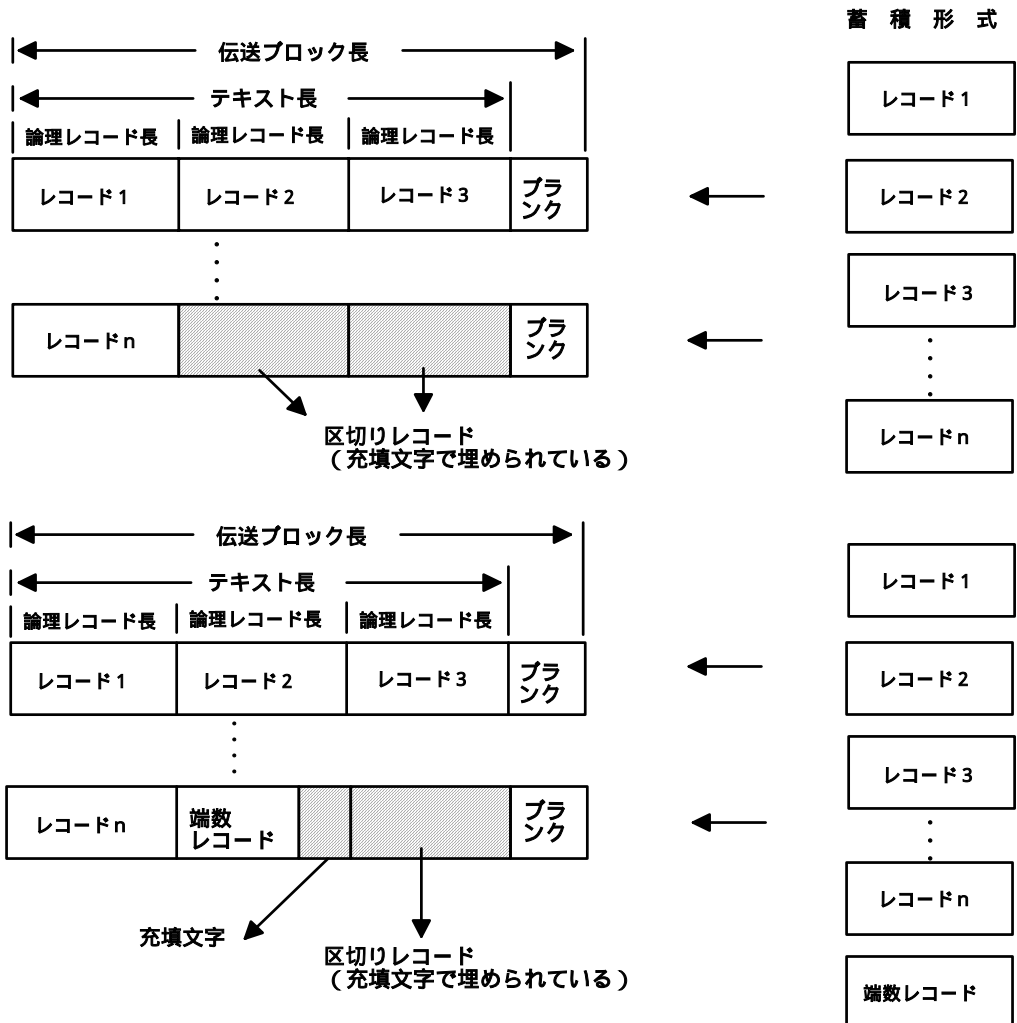
蓄積形式



(4) 配布時ブロック化する (配布時ブロック化 ' Y ')

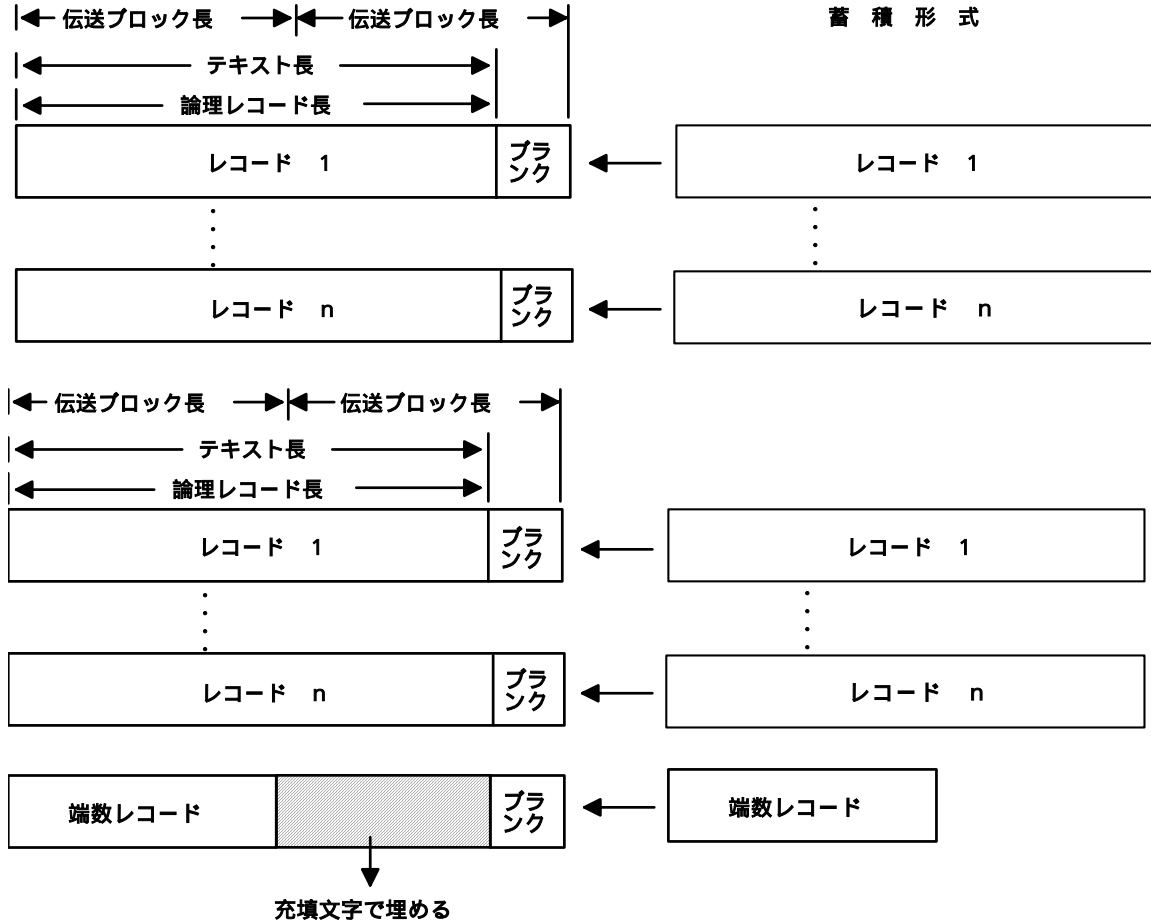
テキスト長 伝送ブロック長の場合 (テキスト長 = 論理レコード長 × n)

蓄積されたメッセージを論理レコード単位に取り出し、テキストを組み立てて、伝送ブロックを作成します。伝送ブロック長とテキスト長に差が生じる場合には空白を充填します。
最後の伝送ブロックで論理レコードの数が不足する場合は、充填文字で埋められたレコード (区切りレコード) を付加します。
また、蓄積メッセージ長が論理レコード長の倍数でない場合の端数レコードの後ろは、論理レコード長になるまで充填文字を埋めます。



テキスト長 > 伝送ブロック長の場合 (テキスト長 = 論理レコード長)

蓄積されたメッセージを論理レコード単位に取り出し、複数伝送ブロックに入れます。余りが発生した伝送ブロックには空白を充填します。また蓄積メッセージ長が論理レコード長の倍数でない場合の端数レコードの後ろは、論理レコード長になるまで充填文字を埋めます。

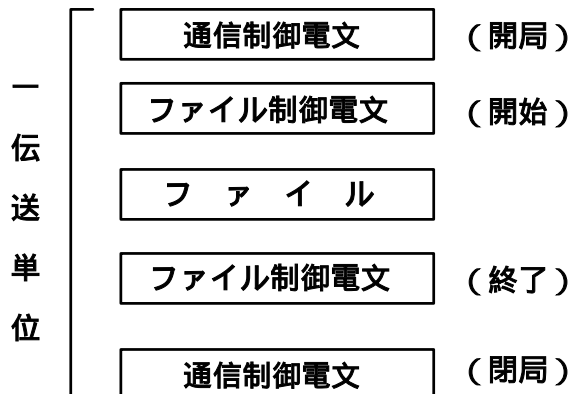


第 2 章 全銀手順

2.1 全銀手順サポート

全銀手順の伝送メッセージ形式および各電文フォーマットは次のようになります。

・全銀手順メッセージ形式



・通信制御電文フォーマット

T T C				電 文 区 分	処 理 結 果	相手センター確認		当方センター確認		通 信 年 月 日	パ ス ワ ー ド	ア プ リ ケ ー シ ヨ ン I D	モ ー ド	拡 張 エ リ ア
接 続 形 態	電 文 区 分	テ キ ス ト 連 番	テ キ ス ト 長			セ ン タ ー コ ー ド	C P U / 端 末 コ ー ド	セ ン タ ー コ ー ド	C P U / 端 末 コ ー ド					
BIT (4)	BIT (4)	Binary (2)	Binary (2)	X (1)	X (1)	X (5)	X (2)	X (5)	X (2)	X (6)	(6)	C (1)	C (1)	X (34)

X : 16進数 C : キャラクター () 内はバイト数 0 : 連絡モード
1 : 照会モード

通信制御電文区分

X ' 0 0 '	開局要求
X ' 0 1 '	開局回答
X ' 0 2 '	閉局要求
X ' 0 3 '	閉局回答
X ' 0 4 '	モード変更要求
X ' 0 5 '	モード変更回答

ファイル制御電文区分

X ' 1 0 '	開始要求
X ' 1 1 '	開始回答
X ' 1 2 '	終了要求
X ' 1 3 '	終了回答
X ' 1 4 '	再送要求

・ファイル制御電文フォーマット

T T C				電 文 区 分	処 理 結 果	フ ァ イ ル 名	フ ァ イ ル ア ク セ ス キ ー	テ キ ス ト 数	レ コ ー ド 数	レ コ ー ド I D	レ コ ー ド 長	再 送 指 定 区 分	デ ー タ 圧 縮 I D	拡 張 エ リ ア
接 続 形 態	電 文 区 分	テ キ ス ト 連 番	テ キ ス ト 長											
BIT (4)	BIT (4)	Binary (2)	Binary (2)	X (1)	X (1)	(12)	(6)	Binary (2)	Binary (3)	C (1)	Binary (2)	Binary (4)	C (1)	X (31)

0 : 固定長
1 : 可変長

0 : 圧縮なし
1 : 圧縮あり

2.2 ユーザー起動収集

お客様からダイヤリングし、データを送信する方法です。お客様からの起動で連絡モードと言います。

全銀手順の宛先/差出ユーザー識別は、それぞれ相手センター・確認コード(X(7))と当方センター確認コード(X(7))で表されますが、IE/EX内部ではIE/EXコード体系の顧客コード(8桁)、ユーザーID(8桁)という形で管理されます。このためにユーザー登録時に相手/当方センター確認コードと顧客コード、ユーザーIDの対応づけの申請が必要となります。またファイル名(12桁)はIE/EXコード体系では、メッセージ識別コードとして取り扱われますので、ファイル名とメッセージ識別コードの対応付けをサービス管理責任者が事前登録しておきます。その他に論理レコード長、テキスト長等を登録し、必要な内部処理を行わせることができます。

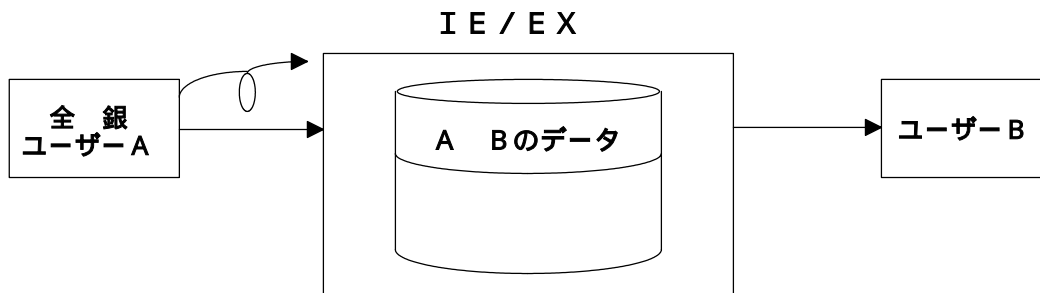
許容宛先としては直接宛先、内包宛先と同報宛先があります。さらにデータの送受信のためには、送信者、受信者間のパートナーリストを登録しておく必要があります。

(1) 直接宛先指定

直接宛先指定というのは、制御電文上に宛先の相手センター確認コードを指定してデータを宛先のメール・ボックスに蓄積する方法です。

このため送信側での登録のほかに、宛先側の通信コード（相手センター確認コード）の登録が必要になります。

例 全銀のユーザー A が直接宛先指定でユーザー B にデータを送信する場合
（ユーザー B のプロトコルは全銀でなくてもよい）



顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X A A A	通信コード 10000000000000
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	全銀ファイル名 MSGID2100000

顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X B B B	通信コード 20000000000000
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	

送信側の登録

通信コード（当方センター確認コード）

J 9 5 1 4 J P			
		通信コード / 別名登録	照会 / 更新
顧客コード : I X X X		ユーザー ID : I X X X A A A	
プロトコル	通信コード	パスワード	説 明
Z E N	10000000000000	1 1 2 2 3 3	センター確認コード A

全銀ファイル名

J 9 6 2 5 J P		
メッセージ処理		ユーザーオプション画面
顧客コード : I X X X	ユーザー ID : I X X X A A A	メッセージ識別コード : M S G I D 2 1
全銀ファイル名 : M S G I D 2 1 0 0 0 0 0		

宛先側の登録

通信コード（相手センター確認コード）

J9514JP	通信コード / 別名登録	照会・更新	
顧客コード：IXXX	ユーザーID：IXXXBBB		
プロトコル	通信コード	パスワード	説明
ZEN	20000000000000		センター確認コードB

送信

次の電文とデータが送られ、ユーザーB宛のデータが、IE/EXのコード体系に変換され蓄積されます。

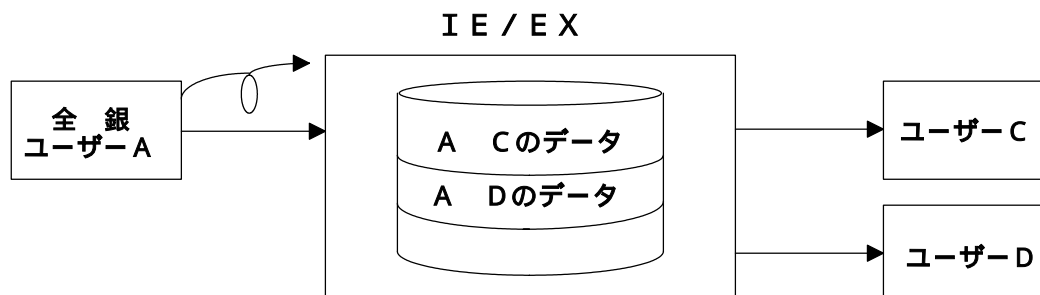
TTC	電文区分 00	相手センター確認コード 2000000000000000	当方センター確認コード 1000000000000000	パスワード 112233	
TTC	電文区分 10	ファイル名 MSDID2100000			
TTC	A B データ				

(2) 内包宛先指定

内包宛先指定というのは、制御電文上にはIE/EX宛てを示す特別の相手センター確認コードを指定しておき、実際の宛先はデータの中で指定して宛先のメール・ボックスに、蓄積する送信方法です。

内包宛先形式には標準形式、ユーザー形式があり、ユーザー形式の場合はデータのフォーマットを登録しておく必要があります。(概説書をご参照下さい。)

例 全銀のユーザーAが内包宛先（ユーザー形式1）でユーザーC、ユーザーDに送信する場合。



顧客コード IXXX	
ユーザーID IXXXAAA	通信コード 10000000000000

メッセージ識別コード MSGID22	全銀ファイル名 MSGID220000
-----------------------	------------------------

データの作り方（ユーザー形式1を使用するのでフォーマット定義が必要です）

1 4 1 2 2 0

HDR	MSGID22	IXXX	IXXXCCC	
DAT				
.				
.				
.				
TRL	DATの件数			
END	全件数			
HDR	MSGID22	IXXX	IXXXDDD	
DAT				
.				
.				
TRL	DATの件数			
END	全件数			

送信側の登録

通信コード（ステーション・コード）

J9514JP			
通信コード / 別名登録			
顧客コード：IXXX	ユーザーID：IXXXAAA		
プロトコル	通信コード	パスワード	説明
ZEN	10000000000000	112233	センター確認コードA

全銀ファイル名

J9625JP		
メッセージ処理	ユーザーオプション副画面	
顧客コード：IXXX	ユーザーID：IXXXAAA	メッセージ識別コード：MSGID22
全銀ファイル名：MSGID220000		

内包処理形式（ユーザー形式）

J9614JP		メッセージ処理	グループ・オプション
顧客コード：IXXX	メッセージ識別コード：MSGID22		
内包処理形式			
形式：U（1：標準形式 - 1、2：標準形式 - 2、U：ユーザー形式）			
標準オプション データ：Y（Y/N） トレーラー：Y（Y/N） エンド：Y（Y/N）			
レコード長：XXXX			
フォーマットID：FMTID22			

ユーザー形式定義

J 9 7 1 4 J P	ユーザー形式定義		主画面
顧客コード: I X X X	フォーマットID: F M T I D 2 2		
	フォーマット区分: U 1 (U 1 : ユーザー 1、 U 2 : ユーザー 2)		
データ・レコード: Y (Y / N) , トレーラー・レコード: Y (Y / N) , エンド・レコード: Y (Y / N)			
* ヘッダー *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分	0 1	H D R	3
レコード種類	0 4		8
差出ユーザー識別			
宛先ユーザー識別	1 2		1 6

J 9 7 1 5 J P	ユーザー形式定義		副画面
* データ記述部 *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分	0 1	D A T	3
フィールド			1
⋮			
* トレーラー記述部 *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分	0 1	T R L	3
合計件数	0 4		5
合計フィールド1			
⋮			
⋮			
* エンド記述部 *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分	0 1	E N D	3
合計件数	0 4		5
合計フィールド1			
⋮			
⋮			

送信

電文上の相手センター確認コードは04224584810000と指定して次のように送信するとユーザーCとユーザーD宛のデータが蓄積されます。

相手センター確認コードとして、04224584812001、
 04224584812002、04224584812003、
 04224584812004、04224584812005、
 も利用可能です。

TTC	電文区分 00	相手センター確認コード 04224584810000	当方センター確認コード	パスワード 112233	
-----	------------	-------------------------------	-------------	-----------------	--

TTC	電文区分 10	ファイル名 MSDID2200000			
-----	------------	-----------------------	--	--	--

1 4 12 20

HDR	MSGID22	IXXX	IXXXCCC	
DAT				
.				
.				
.				
TRL				
END				
HDR	MSGID22	IXXX	IXXXDDD	
DAT				
.				
.				
TRL				
END				

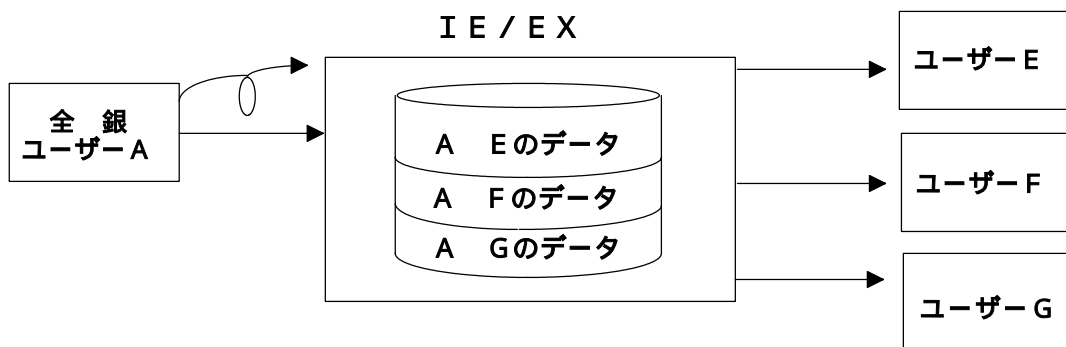
(3) 同報宛先指定

同報宛先というのは、制御電文上には I E / E X 宛を示す特別の相手センター確認コードを指定しておき（これは内包宛先の場合と同じ）、実際の宛先はデータのヘッダーにあたるレコード上に指定（最大 9 宛先指定可能）して、各宛先のメール・ボックスにメッセージを蓄積する送信方法です。

内包処理の一機能として提供されます。

ユーザー形式 5 を使用し、フォーマット定義が必要です。

例 全銀のユーザー A が同報宛先でユーザー E、ユーザー F、ユーザー G に送信する場合。



顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X A A A	通信コード 10000000000000
メッセージ識別コード 2 3	全銀ファイル名 MSGID2300000

データの作り方（ユーザー形式5を使用するのでフォーマット定義が必要です）

1	1 0 1 1	2 7	4 3
1	3 I X X X	I X X X E E F	I X X X I X X X F F F I X X X I X X X G G G
	宛先1	宛先2	宛先3
宛先件数			
0	データ		
:			
:			
0	データ		

送信側登録

通信コード（ステーション・コード）

J 9 5 1 4 J P	通信コード / 別名登録	照会 / 更新	
顧客コード：I X X X	ユーザーID：I X X X A A A		
プロトコル	通信コード	パスワード	説 明
Z E N	10000000000000	1 1 2 2 3 3	センター確認コードA

全銀ファイル名

J 9 6 2 5 J P	メッセージ処理	ユーザー・オプション副画面
顧客コード：I X X X	ユーザーID：I X X X A A A	メッセージ識別コード：M S G I D 2 3
全銀ファイル名：M S G I D 2 3 0 0 0 0 0		

内包処理形式（ユーザー形式）

J 9 6 1 4 J P	メッセージ処理	グループ・オプション
顧客コード：I X X X	メッセージ識別コード：M S G I D 2 3	
内包処理形式		
形式：U（1：標準形式 - 1、2：標準形式 - 2、3：標準形式 - 3、U：ユーザー形式）		
標準オプション データ：Y（Y/N） トレーラー：Y（Y/N） エンド：Y（Y/N）		
レコード長：X X X X		
フォーマットID：F M T I D 2 3		

ユーザー形式定義

J 9 7 1 4 J P	ユーザー形式定義			主画面
顧客コード: I X X X	フォーマットID: FMTID23			
	フォーマット区分: U5 (U1:ユーザー1、U2:ユーザー2)			
データ・レコード: N(Y/N), トレーラー・レコード: N(Y/N), エンド・レコード: N(Y/N)				
* ヘッダー *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	0 1	1	1	
レコード種類				
差出ユーザー識別				
宛先ユーザー識別	1 1		1 6	

J 9 7 1 5 J P	ユーザー形式定義			副画面
* データ記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	0 1	0	1	
フィールド1				
⋮				
* トレーラー記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分				
合計件数				
合計フィールド1				
⋮				
* エンド記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分				
合計件数				
合計フィールド1				
⋮				

送信

電文上の相手センター確認コードは04224584810000と指定して次のように送信するとユーザーE、ユーザーF及びユーザーG宛のデータが蓄積されます。

相手センター確認コードとして、04224584812001、04224584812002、04224584812003、04224584812004、04224584812005、も利用可能です。

TTC	電文区分 00	相手センター確認コード 04224584810000	当方センター確認コード 10000000000000	パスワード 112233	
-----	------------	-------------------------------	-------------------------------	-----------------	--

TTC	電文区分 10	ファイル名 MSDID2300000			
-----	------------	-----------------------	--	--	--

1		3	IXX	IXXEEE	IXX	IXXFFF	IXX	IXXGGG	
0	データ								
0	"								
0	"								
0	"								
0	"								

2.3 ユーザー起動配布

お客様からダイヤリングし、IE/EXよりデータを受信する方法です。
お客様からの起動で照会モードと言います。

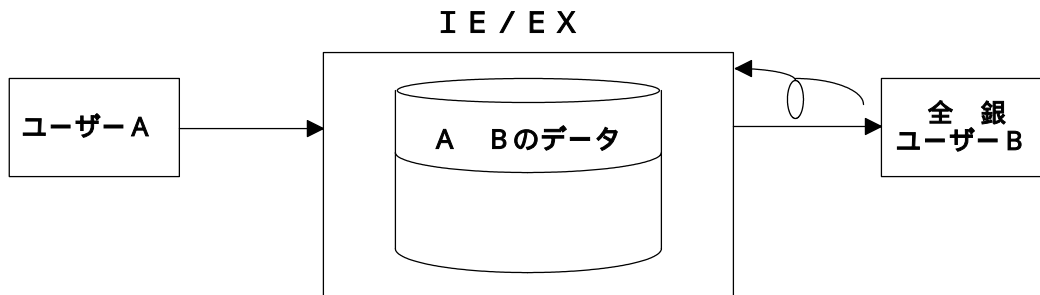
メール・ボックスにある受信者宛のデータを受信する場合、差出者を特定する方法と、差出者を特定しない方法（すべての差出者の意味）とがあります。
なお、ファイル名は必ず指定します。

(1) 単一差出指定

単一差出指定というのは、受信要求制御電文上に差出者のセンター・コードを指定して受信する方法です。

受信側での登録のほかに差出者側の通信コードの登録が必要になります。

例 差出ユーザーAを指定してユーザーBが受信する場合
(ユーザーAのプロトコルは全銀でなくてもよい)



顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X A A A	通信コード 10000000000000
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	全銀ファイル名 MSG2100000

顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X B B B	通信コード 20000000000000
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	全銀ファイル名 MSG2100000

受信者側の登録

通信コード(当方センター確認コード)

J 9 5 1 4 J P			
通信コード / 別名登録		照会 / 更新	
顧客コード : I X X X		ユーザーID : I X X X B B B	
プロトコル	通信コード	パスワード	説 明
Z E N	20000000000000	4 4 5 5 6 6	センター確認コードB

全銀ファイル名

J 9 6 2 5 J P	メッセージ処理	1-ザ-オプション副画面
顧客コード：I X X X	ユーザーID：I X X X B B B	メッセージ識別コード：M S G I D 2 1
全銀ファイル名：M S G I D 2 1 0 0 0 0 0		

差出側の登録

通信コード（相手センター確認コード）

J 9 5 1 4 J P	通信コード/別名登録	照会/更新	
顧客コード：I X X X	ユーザーID：I X X X A A A		
プロトコル	通信コード	パスワード	説明
Z E N	10000000000000	1 1 2 2 3 3	

この結果、次の制御電文をユーザーBが送るとユーザーAからのメッセージ識別コードM S G I D 2 1のデータが受信できます。

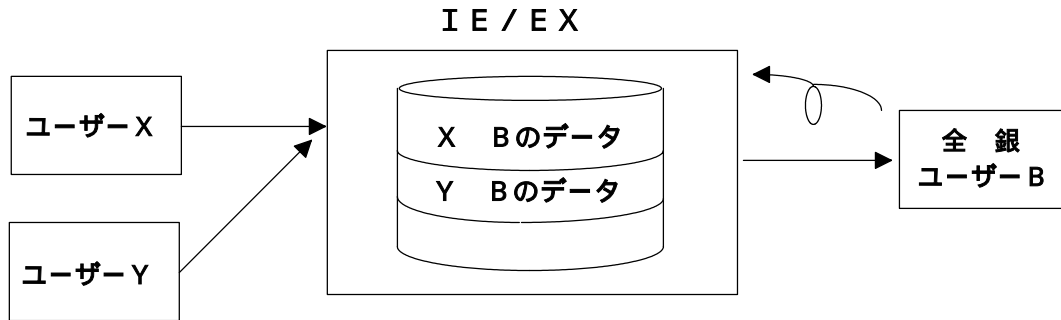
T T C	電文区分 0 0	相手センター確認コード 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	当方センター確認コード 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	パスワード 4 4 5 5 6 6	
-------	-------------	--	--	----------------------	--

T T C	電文区分 1 0	ファイル名 M S D I D 2 1 0 0 0 0 0	
-------	-------------	----------------------------------	--

(2) 全差出指定

制御電文上には I E / E X を示すセンター確認コードを指定して、全ての差出者からのデータを受信します。

例 複数の差出者からのデータを受信する場合



顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X B B B	通信コード 20000000000000
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	全銀ファイル名 MSGID210000

受信者側の登録は直接差出指定の受信と同じです。

差出側の通信コードの登録は必要ありません。

次の制御電文のように相手センター確認コード 0 4 2 2 4 5 8 4 8 1 0 0 0 0 を指定して受信要求すれば、ユーザー B 宛のメッセージ識別コード M S G I D 2 1 のデータが受信できます。

相手センター確認コードとして、0 4 2 2 4 5 8 4 8 1 2 0 0 1、
0 4 2 2 4 5 8 4 8 1 2 0 0 2、0 4 2 2 4 5 8 4 8 1 2 0 0 3、
0 4 2 2 4 5 8 4 8 1 2 0 0 4、0 4 2 2 4 5 8 4 8 1 2 0 0 5、
も利用可能です。

TTC	電文区分 00	相手センター確認コード 04224584810000	当方センター確認コード 20000000000000	パスワード 445566	
TTC	電文区分 10	ファイル名 MSDID210000			

このページはブランクです。

2.4 センター起動収集

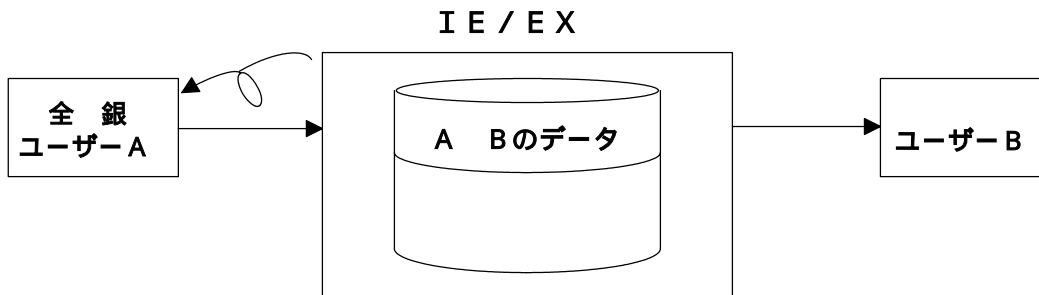
IE / EX 側からダイヤリングし、制御電文を出し、お客様からのデータを収集します。

この場合お客様からのデータの宛先の指定方法は、ユーザー起動の場合と同様に直接宛先指定、内包宛先指定と同報宛先指定の三つがあります。センター起動収集は指定した時間に電話をかけて起動する時間起動で行われます。

(1) 直接宛先指定

センター起動収集の場合、直接宛先指定というのは、制御電文上にデータの宛先側の通信コード（当方センター確認コード）を指定して、受信要求を出し収集する方法です。センター起動の場合、通信コードの指定はセッション定義で行います。

例 センター起動で全銀ユーザー A からのデータを直接宛先指定でユーザー B に蓄積する場合。



顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X A A A	通信コード 10000000000000
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	全銀ファイル名 MSGID2100000

顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X B B B	
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	

送信側の登録

N C U電話番号、アクセスポイント (I X X X I X X X A A A のプロフィール)

J 9 3 2 2 J P	ユーザー・プロフィール	照会・更新(全銀・副画面)
センター起動利用時		
N C U電話番号	*****	アクセスポイント TOK

全銀ファイル名

J 9 6 2 5 J P	メッセージ処理	ユーザーオプション副画面
顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X A A A	メッセージ識別コード: M S G I D 2 1
全銀ファイル名: M S G I D 2 1 0 0 0 0 0		

セッション定義

J 9 8 1 4 J P	セッション定義	時刻起動
顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X A A A	セッションID: S E S S 2 1
メッセージ識別コード: M S G I D 2 1		
集配区分: 1 (0 : 配布、 1 : 収集)	パスワード: 4 4 5 5 6 6	
差出顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X B B B	
通信コード: 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 (全銀時)		
宛先顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X A A A	
通信コード: 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 (全銀時)		

ここで差出は電話をかける側、宛先は電話される側を意味します。
データの流れは、集配区分が " 収集 " となっていますので送信者 I X X X A A A、受信者 I X X X B B B となります。

起動スケジュールは、時刻起動定義の管理でユーザーごとにセッションID、時刻、日付、開始年月日を登録します。
開始年月日以降、指定された日時に、センター側からユーザーAに電話がかけられます。接続が完了すると、セッションID、S E S S 2 1 で指定されたセッション定義の通信コードが電文上にセットされてユーザーAに次のような電文として送られます。(通信コード/別名登録の必要はありません)

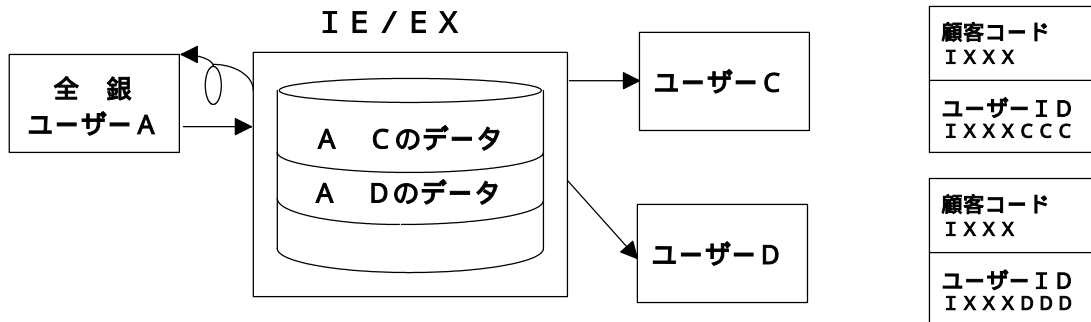
T T C	電文区分 0 0	相手センター確認コード 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	当方センター確認コード 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	パスワード 4 4 5 5 6 6	
T T C	電文区分 1 0	ファイル名 M S D I D 2 1 0 0 0 0 0			

この結果ユーザーAからのデータは収集されてユーザーB宛にメールボックスに蓄積されます。

(2) 内包宛先指定

センター起動収集の場合、内包宛先指定というのは、制御電文上に I E / E X を示す通信コードを指定して受信要求を出し収集し、その後、データの中のヘッダーにある宛先に従って蓄積する方法です。

例 センター起動で全銀のユーザー A から内包宛先のデータを収集し、ユーザー C、ユーザー D宛に蓄積する場合



顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X A A A	通信コード 10000000000000
メッセージ識別コード M S G I D 2 2	全銀ファイル名 M S G I D 2 2 0 0 0 0 0

データの作り方 (ユーザー形式1)

1 4 1 2 2 0

HDR	M S G I D 2 2	I X X X	I X X X C C C	
DAT				
:				
:				
:				
TRL	D A T の件数			
END	全 件 数			
HDR	M S G I D 2 2	I X X X	I X X X D D D	
DAT				
:				
:				
TRL	D A T の件数			
END	全 件 数			

送信側の登録

N C U電話番号、アクセスポイント (I X X X I X X X A A A のプロフィール)

J 9 3 2 2 J P	ユーザー・プロフィール	照会・更新(全銀・副画面)
センター起動利用時		
N C U電話番号	*****	アクセスポイント T O K

全銀ファイル名

J 9 6 2 5 J P	メッセージ処理	ユーザーオプション副画面
顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X A A A	メッセージ識別コード: M S G I D 2 2
全銀ファイル名: M S G I D 2 2 0 0 0 0 0		

内包処理形式 (ユーザー形式)

J 9 6 1 4 J P	メッセージ処理	グループ・オプション
顧客コード: I X X X	メッセージ識別コード: M S G I D 2 2	
内包処理形式		
形式: U (1 : 標準形式 - 1、2 : 標準形式 - 2 , U : ユーザー形式)		
標準オプション データ: Y (Y / N) エンド: Y (Y / N)		
レコード長: X X X X		
フォーマットID: F M T I D 2 2		

ユーザー形式定義

J 9 7 1 4 J P		ユーザー形式定義		主画面
顧客コード: IXXX		フォーマットID: FMTID22		
		フォーマット区分: U1 (U1:ユーザー1、U2:ユーザー2)		
データ・レコード: Y (Y/N), トレーラー・レコード: Y (Y/N), エンド・レコード: Y (Y/N)				
* ヘッダー *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	01	HDR	3	
レコード種類	04		8	
差出ユーザー識別				
宛先ユーザー識別	12		16	

J 9 7 1 5 J P		ユーザー形式定義		副画面
* データ記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	01	DAT	3	
フィールド1	:			
* トレーラー記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	01	TRL	3	
合計件数	04		5	
合計フィールド1	:			
* エンド記述部 *				
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>	
レコード区分	01	END	3	
合計件数	04		5	
合計フィールド1	:			

セッション定義

J 9 8 1 4 J P		セッション定義		時刻起動
顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXAAA	セッションID: SESS22		
メッセージ識別コード: MSGID22				
集配区分: 1 (0:配布、1:収集)	パスワード/識別値:			
差出顧客コード: IEEX	ユーザーID: IEEX001			
通信コード: 04224584810000				
宛先顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXAAA			
通信コード: 10000000000000 (全銀時)				

ここで差出は電話をかける側、宛先は電話をされる側を意味します。
 内包の時、差出顧客コードは ' I E E X '、ユーザーIDは ' I E E X 0 0 1 ' と登録しておきます。

差出側の通信コードには通常、I E / E X のセンター確認コードである 0 4 2 2 4 5 8 4 8 1 0 0 0 0 を指定しますが、相手に受け入れられるコードであれば任意のコードでも結構です。

起動スケジュールは時刻起動定義の管理でユーザーごとにセッションID、時刻、日付、開始年月日を登録します。

開始年月日以降、指定された日時にセンター側からユーザーAに電話がかけられます。

接続が完了すると、セッションID、S E S S 2 2 で指定されたセッション定義の通信コードが電文上にセットされてユーザーAに次のような電文として送られます。

TTC	電文区分 00	相手センター確認コード 1000000000000000	当方センター確認コード 04224584810000	パスワード	
-----	------------	---------------------------------	-------------------------------	-------	--

TTC	電文区分 10	ファイル名 MSDID2200000			
-----	------------	-----------------------	--	--	--

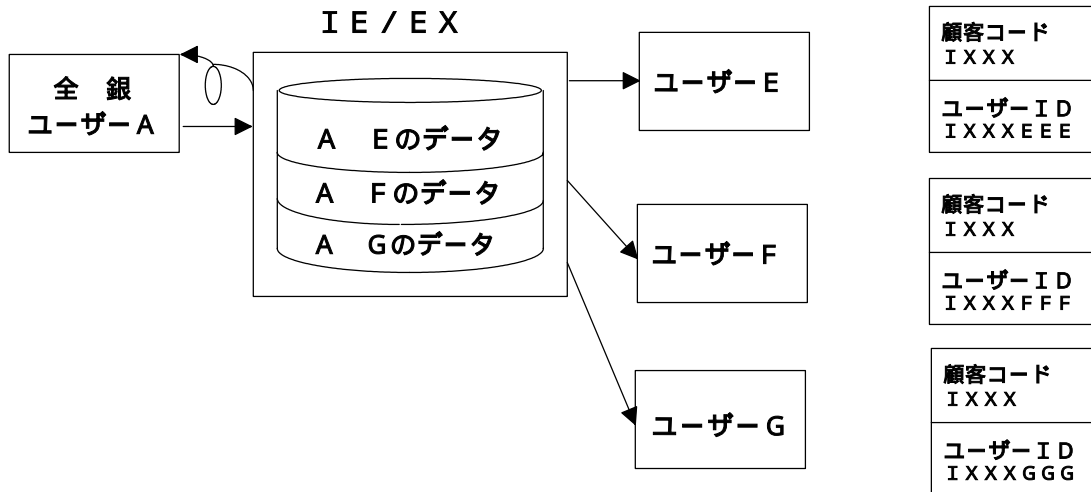
(通信コード/別名登録の必要はありません)

この結果ユーザーAからの内包宛先データが収集され、ユーザーC、ユーザーD宛にメールボックスに蓄積されます。

(3) 同報宛先指定

センター起動収集の場合、同報宛先指定というのは、制御電文上に I E / E X を示す (通信コード) を指定して受信要求を出し収集し、その後、データの中のヘッダーにある宛先に従って蓄積する方法です。

例 センター起動で全銀のユーザー A から同報宛先のデータを収集し、ユーザー E、ユーザー F、ユーザー G 宛に蓄積する場合。



顧客コード	I X X X	
ユーザーID	I X X X A A A	通信コード 10000000000000
メッセージ識別コード	M S G I D 2 3	全銀ファイル名 MSG1D2300000

データの作り方 (ユーザー形式 5)

1	1 0 1 1	2 7	4 3
1	3 I X X X I X X X E E F	I X X X I X X X F F F	I X X X I X X X G G G
	宛先 1	宛先 2	宛先 3
宛先件数			
0	データ		
⋮			
0	データ		

送信側の登録

NCU電話番号、アクセスポイント (IXXX IXXXAAAのプロファイル)

J 9 3 2 2 J P	ユーザー・プロファイル	照会・更新(全銀・副画面)
センター起動利用時		
NCU電話番号	*****	アクセスポイント TOK

全銀ファイル名

J 9 6 2 5 J P	メッセージ処理	ユーザーオプション副画面
顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXAAA	メッセージ識別コード: MSGID23
全銀ファイル名: MSGID2300000		

内包処理形式 (ユーザー形式)

J 9 6 1 4 J P	メッセージ処理	グループ・オプション
顧客コード: IXXX	メッセージ識別コード: MSGID23	
内包処理形式		
形式: U (1 : 標準形式 - 1、 2 : 標準形式 - 2 , U : ユーザー形式)		
標準オプション データ: Y (Y / N) エンド: Y (Y / N)		
レコード長: XXXX		
フォーマットID: FMTID23		

ユーザー形式定義

J9714JP	ユーザー形式定義		主画面
顧客コード: IXXX	フォーマットID: FMTID23		
	フォーマット区分: U5 (U1:ユーザー1、U2:ユーザー2)		
データ・レコード: N(Y/N), トレーラー・レコード: N(Y/N), エンド・レコード: N(Y/N)			
* ヘッダー *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分	01	1	1
レコード種類			
差出ユーザー識別			
宛先ユーザー識別	11		16

J9715JP	ユーザー形式定義		副画面
* データ記述部 *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分	01	0	1
フィールド1			
:			
* トレーラー記述部 *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分			
合計件数			
合計フィールド1			
:			
* エンド記述部 *			
	<u>開始位置</u>	<u>識別値</u>	<u>長さ</u>
レコード区分			
合計件数			
合計フィールド1			
:			

セッション定義

J9814JP	セッション定義		時刻起動
顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXAAA	セッションID: SESS23	
メッセージ識別コード: MSGID23			
集配区分: 1 (0:配布、1:収集)	パスワード/識別値:		
差出顧客コード: IEEX	ユーザーID: IEEX001		
通信コード: 04224584810000 (全銀時)			
宛先顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXAAA		
通信コード: 10000000000000 (全銀時)			

ここで差出は電話をかける側、宛先は電話される側を意味します。
 同報の時、差出顧客コードは ' I E E X '、ユーザーIDは ' I E E X 0 0 1 ' と登録しておきます。

差出側の通信コードには通常 I E / E X のセンター確認コードである 0 4 2 2 4 5 8 4 8 1 0 0 0 0 を指定しますが、相手に受け入れられるものであれば任意のコードでも結構です。

起動スケジュールは時刻起動定義の管理でユーザーごとにセッションID、時刻、日付、開始年月日を登録します。

開始年月日以降、指定された日時にセンター側からユーザーAに電話がかけられます。接続が完了すると、セッションID、S E S S 2 3 で指定されたセッション定義の通信コードが電文上にセットされてユーザーAに次のような電文として送られます。

TTC	電文区分 00	相手センター確認コード 1000000000000000	当方センター確認コード 04224584810000	パスワード	
TTC	電文区分 10	ファイル名 MSDID2300000			

(通信コード/別名登録の必要はありません)

この結果ユーザーAからの同報宛先データは収集され、ユーザーE、ユーザーF、ユーザーG宛にメールボックスに蓄積されます。

2.5 センター起動配布

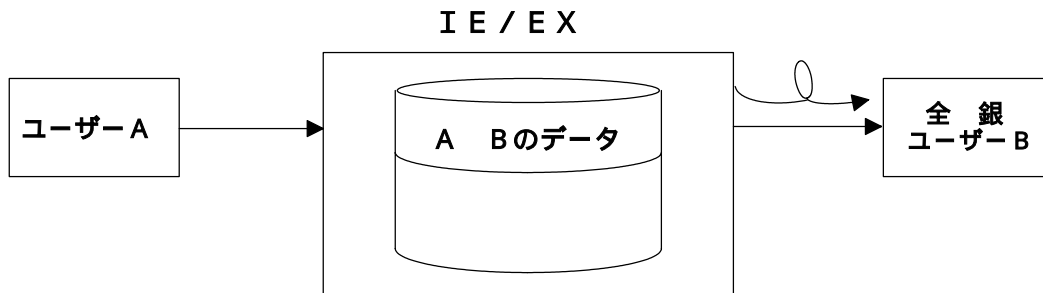
IE / EX側からダイヤリングし、制御電文を出しデータを配布します。
 この場合、差出者を特定して、その差出者からのデータを配布する方法と差出者を特定しないで全差出者からのデータを配布する方法とがあります。

(1) 単一差出指定

単一差出指定というのは制御電文上に差出者の通信コード（センター確認コード）を指定して配布する方法です。

センター起動の場合、通信コードの設定は、セッション定義で行います。

例 センター起動で、ユーザーAからのデータをユーザーBに配布する場合
 （ユーザーAのプロトコルは全銀以外でも可能）



顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X A A A	
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	

顧客コード I X X X	
ユーザーID I X X X B B B	通信コード 20000000000000
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	全銀ファイル名 MSGID2100000

受信者側の登録

N C U 電話番号、アクセスポイント (I X X X I X X X B B B のプロファイル)

J 9 3 2 2 J P	ユーザー・プロファイル	照会・更新(全銀・副画面)
センター起動利用時		
N C U 電話番号	*****	アクセスポイント TOK

全銀ファイル名

J 9 6 2 5 J P	メッセージ処理	ユーザー・オプション副画面
顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X B B B	メッセージ識別コード: M S G I D 2 1
全銀ファイル名: M S G I D 2 1 0 0 0 0 0		

セッション定義

J 9 8 1 4 J P	セッション定義	時刻起動
顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X B B B	セッションID: S E S S 2 1
メッセージ識別コード: M S G I D 2 1		
集配区分: 1 (0 : 配布、1 : 収集)	パスワード: 1 1 2 2 3 3	
差出顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X A A A	
通信コード: 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 (全銀時)		
宛先顧客コード: I X X X	ユーザーID: I X X X B B B	
通信コード: 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 (全銀時)		

起動スケジュールは時刻起動の定義の管理でユーザーごとにセッションID、時刻、日付、開始年月日を登録します。
 開始年月日以降、指定された日時に、センター側からユーザーBに電話がかけられます。接続が完了するとセッションID、S E S S 2 1で指定されたセッション定義の通信コードが電文上にセットされてユーザーBに次のような電文として送られます。

TTC	電文区分 00	相手センター確認コード 2000000000000000	当方センター確認コード 1000000000000000	パスワード 112233	
TTC	電文区分 10	ファイル名 MSDID2100000			

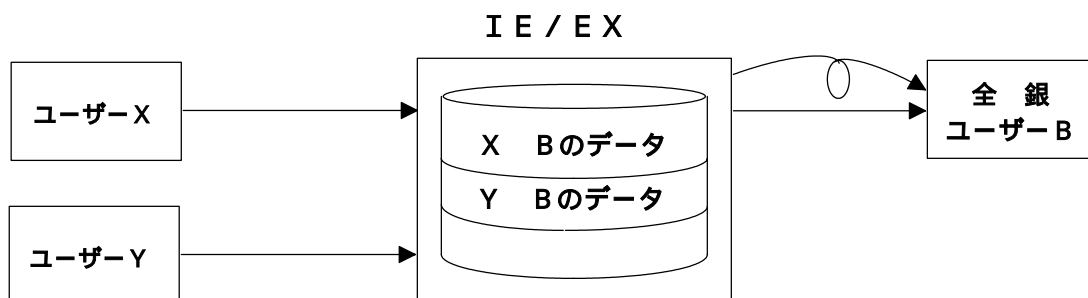
(通信コード / 別名登録の必要はありません)
 この結果、ユーザーAからのデータがユーザーBに配布されます。

(2) 全差出指定

全差出指定というのは、制御電文上に I E / E X を示す通信コード (センター確認コード) を指定して配布する方法です。

センター起動の場合、通信コードの指定はセッション定義で行います。

例 複数の差出者からのデータを、センター起動でユーザー B へ配布する場合



顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X B B B	通信コード 20000000000000
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	全銀ファイル名 MSGID210000

受信側の登録はセッション定義を除いて単一差出指定と同じです。

セッション定義は次のようにします。

J 9 8 1 4 J P		セッション定義	時刻起動
顧客コード: I X X X	ユーザー ID: I X X X B B B	セッション ID: S E S S 2 1 B	
メッセージ識別コード: M S G I D 2 1			
集配区分: 0 (0: 配布、1: 収集)	パスワード:		
差出顧客コード: I E E X	ユーザー ID: I E E X 0 0 1		
通信コード: 0 4 2 2 4 5 8 4 8 1 0 0 0 0 (全銀時)			
宛先顧客コード: I X X X	ユーザー ID: I X X X B B B		
通信コード: 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 (全銀時)			

差出顧客コードは ' I E E X '、ユーザー ID は ' I E E X 0 0 1 ' と登録しておきます。

差出側の通信コードには通常 I E / E X のセンター確認コードである 0 4 2 2 4 5 8 4 8 1 0 0 0 0 を指定しますが、相手に受け入れられるものであれば任意でも結構です。起動スケジュールは時刻起動定義の管理でユーザーごとにセッション ID、時刻、日付、開始年月日を登録します。

開始年月日以降指定された日時に、センター側からユーザー B に電話がかけられます。

接続が完了するとセッションID、SESS21Bで指定されたセッション定義の通信コードが電文上にセットされてユーザーBに次のような電文として送られます。

TTC	電文区分 00	相手センター確認コード 2000000000000000	当方センター確認コード 04224584810000	パスワード	
TTC	電文区分 10	ファイル名 MSDID2100000			

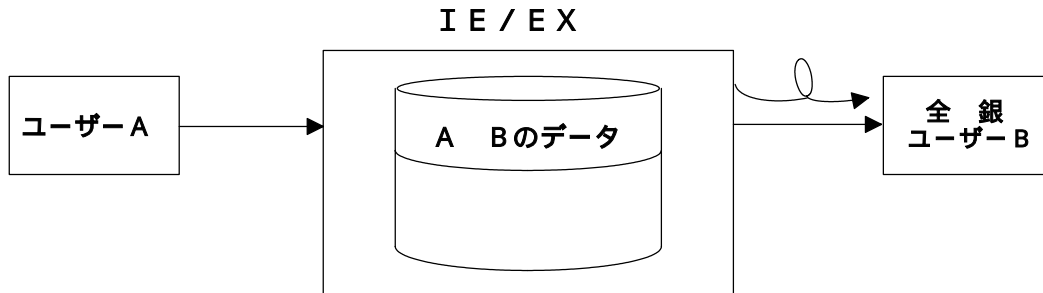
(通信コード/別名登録の必要はありません)

この結果、ユーザーX、ユーザーYからのデータがユーザーBに配布されます。

(3) 強制配布

強制配布というのは、送信者からのデータが宛先（受信者）側に蓄積が終了すると、センター側から受信者にダイヤリングし、直ちに配布する方法です。受信側でのセッション定義で、通信コードを指定します。

例 ユーザー B がユーザー A からのデータを強制配布で受取る場合



顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X A A A	
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	

顧客コード I X X X	
ユーザー ID I X X X B B B	通信コード 20000000000000
メッセージ識別コード M S G I D 2 1	全銀ファイル名 MSGID2100000

受信者側の登録

NCU電話番号、アクセスポイント、強制配布（I XXX I XXX BBBのプロファイル）

J 9 3 2 2 J P	ユーザー・プロファイル	照会・更新(全銀・副画面)
センター起動利用時		
NCU電話番号	*****	アクセスポイント TOK
強制配布	Y	

M8120JP

事象起動定義の登録

顧客コード I X X X

ユーザーID I X X X B B B

差出システムID

差出顧客コード . . . I X X X

差出ユーザーID . . . I X X X A A A

ユーザー・クラス . . M S G I D 2 1 (メッセージ識別コード)

下記の項目を入力し実行キーを押して下さい。

対象メッセージ (A= 全部 H= 優先指定のみ) A
起動可能 ? (Y/N) Y

セッションID M S G I D 2 1

全銀ファイル名

J9625JP	メッセージ処理	ユーザーセッション副画面
顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXBBB	メッセージ識別コード: MSGID21
全銀ファイル名: MSGID2100000		

セッション定義 (強制配布)

J9834JP	セッション定義	事象起動
顧客コード: IXXX		
ユーザーID: IXXXBBB		
セッションID: MSGID21	(メッセージ識別コード)	
差出顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXAAA	
通信コード:	1000000000000000 (全銀時)	
宛先顧客コード: IXXX	ユーザーID: IXXXBBB	
通信コード:	2000000000000000 (全銀時)	
パスワード/識別子 = 112233		

セッションIDとしてメッセージ識別コードと差出ユーザーの組合せを指定する必要があります。

ユーザーAから、メッセージ識別コードMSGID21のデータがユーザーB宛に蓄積されるとセンター側から電話をかけて次の電文をユーザーBに送ります。

TTC	電文区分 00	相手センター確認コード 2000000000000000	当方センター確認コード 1000000000000000	パスワード 112233	
-----	------------	---------------------------------	---------------------------------	-----------------	--

TTC	電文区分 10	ファイル名 MSDID2100000			
-----	------------	-----------------------	--	--	--

この結果データがユーザーBに配布されます。

このページはブランクです。

2.6 ファイル交換成立基準

IE / EXは下記のタイミングで、ファイルを収集済み / 配布済みと（コミット）します。

全銀PC :

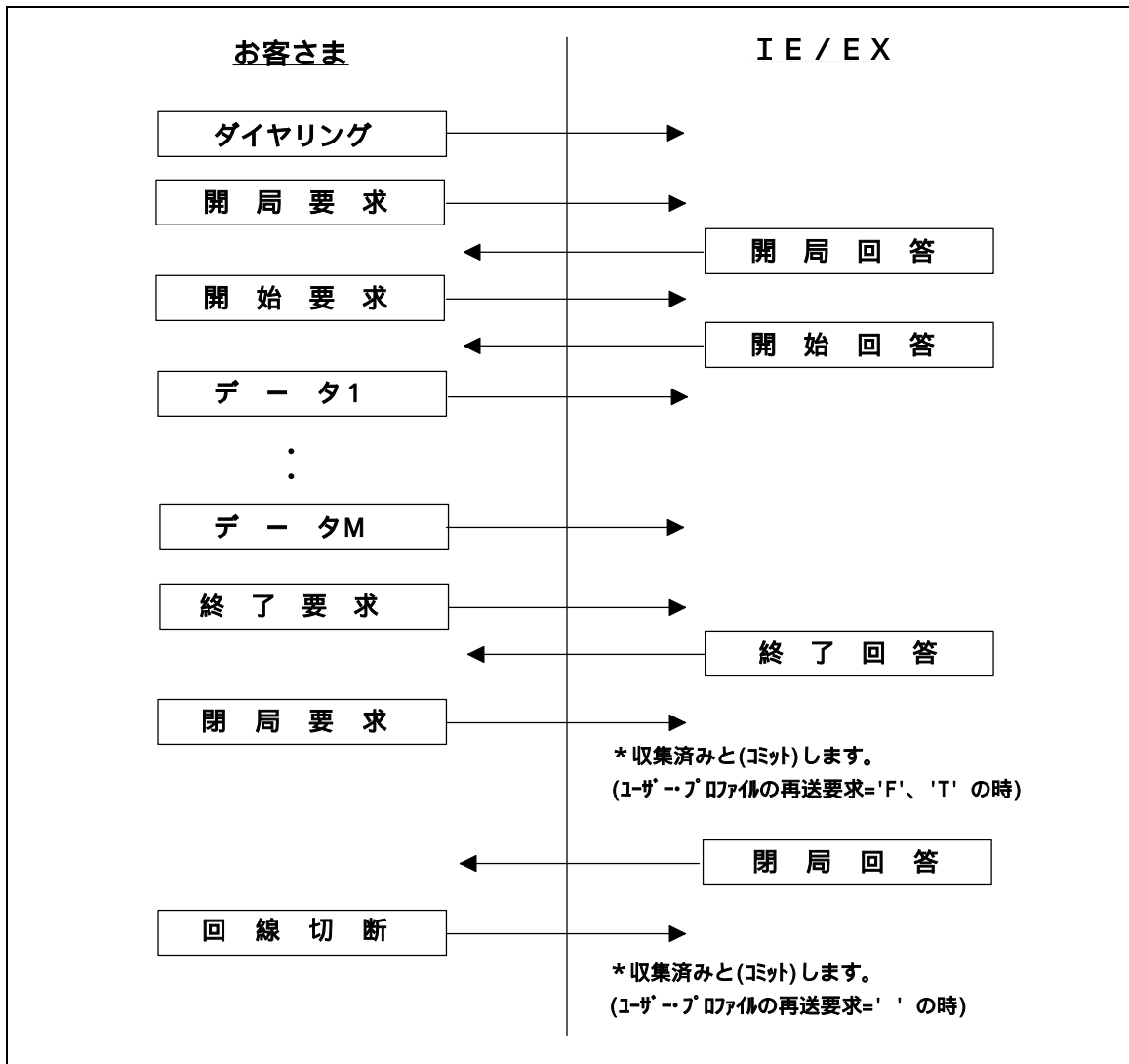
ユーザー・プロファイルの再送要求はblankしか許されません。

ユーザー起動収集	正しい閉局回答を送信後、回線切断(DISC)を受信した時点で収集コミット
ユーザー起動配布	正しい閉局回答を送信後、回線切断(DISC)を受信した時点で配布コミット

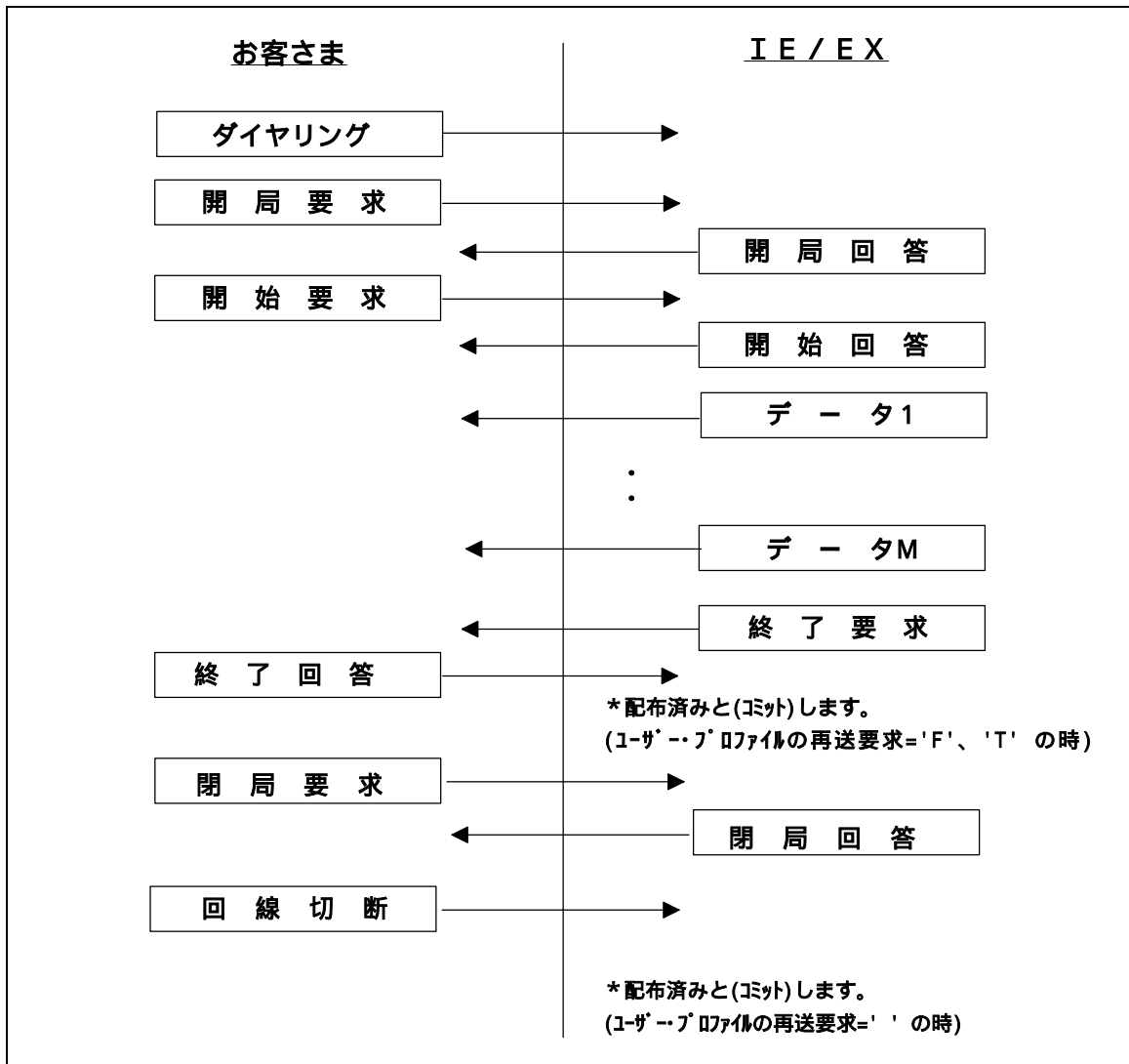
全銀CPU :

	ユーザー・プロファイルの再送要求 = ' ' ' '	ユーザー・プロファイルの再送要求 = ' F ' ' T ' ' '
ユーザー起動収集 (1)	正しい閉局回答を送信後、回線切断(DISC)を受信した時点で全ファイル収集コミット	正しい終了回答を送信後、次のコマンドを受信した時点で当該ファイル収集コミット 閉局要求、次のファイルの開始要求、モード変更要求、回線切断(DISC)
ユーザー起動配布 (2)	正しい閉局回答を送信後、回線切断(DISC)を受信した時点で全ファイルを配布コミット	正しい終了回答を受信した時点で当該ファイル配布コミット
センター起動収集 (3)	正しい閉局回答を受信した時点で全ファイル収集コミット	正しい終了回答を送信した時点で当該ファイル収集コミット
センター起動配布 (4)	正しい閉局回答を受信した時点で全ファイル配布コミット	正しい終了回答を受信した時点で当該ファイル配布コミット

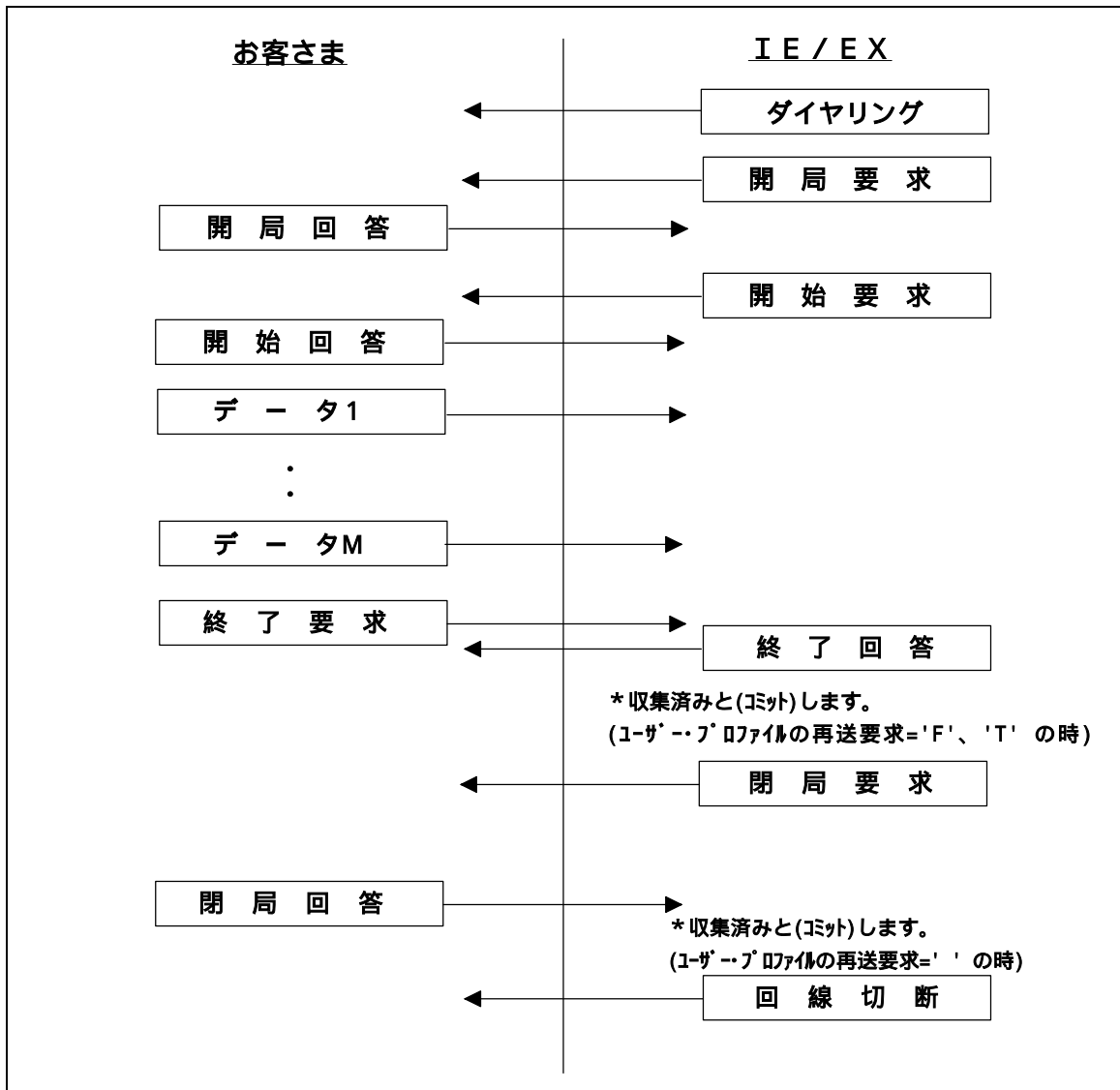
(1) ユーザー起動収集



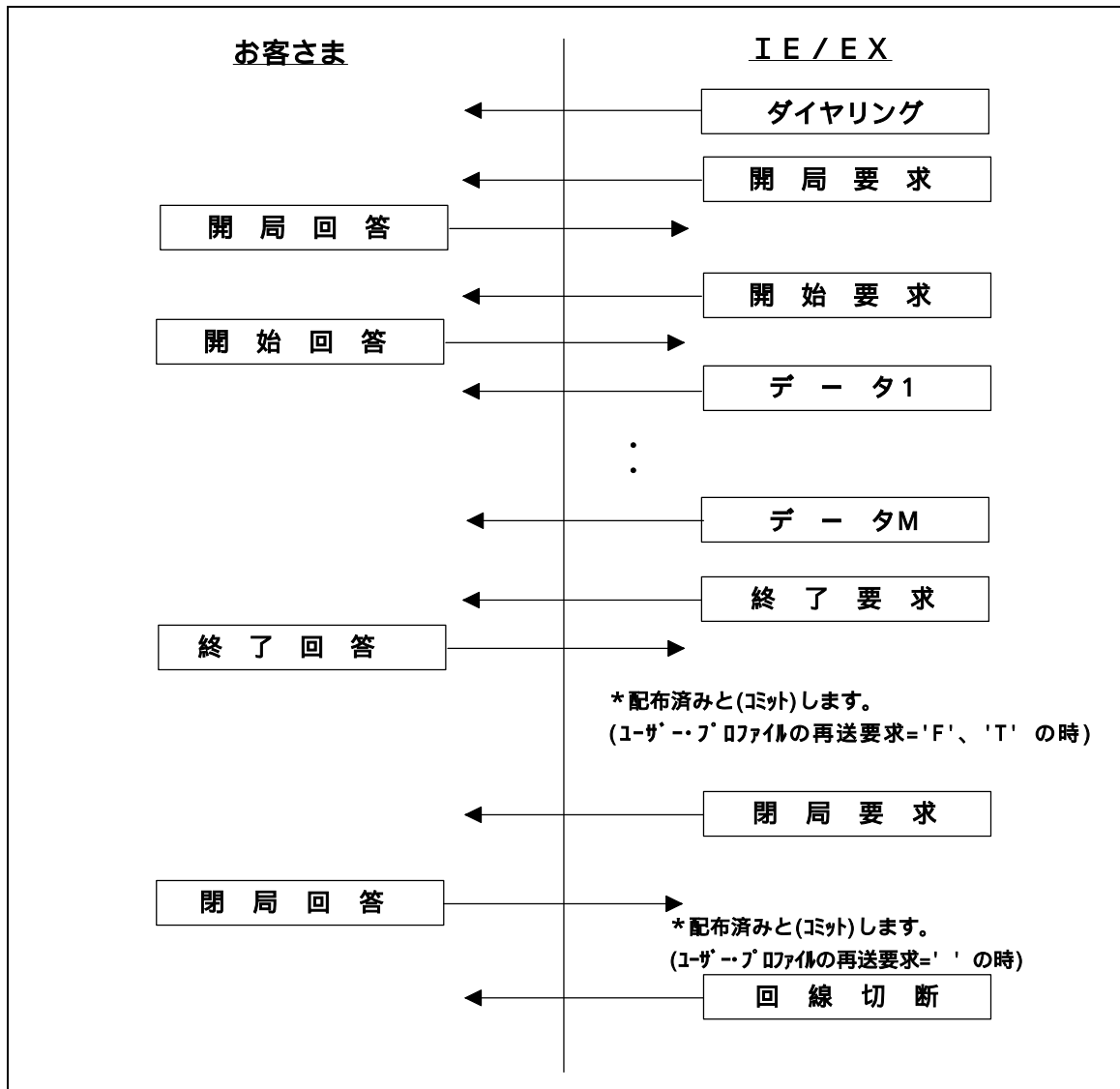
(2) ユーザー起動配布



(3) センター起動収集



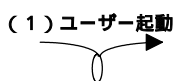
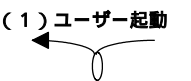
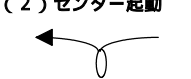
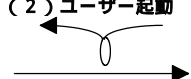
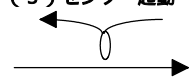
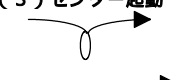
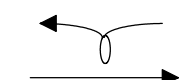
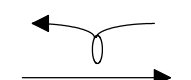
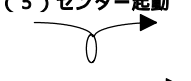
(4) センター起動配布



このページはブランクです。

2.7 0件データの扱い

0件データ（データなし）の扱いは、ユーザプロフィールの「データなしの扱い拡張機能」の指定によって選択できるようになっています。次の表を参照して、お客様の都合の良い様に設定してください。

収 集			配 布			
作成される確認メッセージ	Aユーザー	Aユーザーデータなしの扱い拡張機能	IE/EX	Bユーザーデータなしの扱い拡張機能	Bユーザー	作成される確認メッセージ
1174I 0652I 0180I	(1)ユーザー起動  終了要求テキスト = 0 レコード= 0	Y/N	0件の蓄積をします 配布後保管又は削除します	N	(1)ユーザー起動  開始回答 ' 17 '	0652I 0580I 又は 0581I
1174I 0652I 0180I 0674I	(2)センター起動  開始回答 ' 17 '	N		Y	(2)ユーザー起動  終了要求テキスト = 0 レコード= 0	0652I 0580I 又は 0581I
1174I 0652I 0180I 0674I	(3)センター起動  終了要求テキスト = 0 レコード= 0	Y/N		Y/N	(3)センター起動  終了要求テキスト = 0 レコード= 0	0652I 0580I 又は 0581I 0674I
0656E 0677E	(4)センター起動  開始回答 ' 17 '	Y (注)		Y/N (注)	(4)ユーザー起動  開始回答 ' 17 '	1111I
			蓄積しません セッション中断 リタイアインの発生となりません	Y/N (注)	(5)センター起動  終了要求テキスト = 0 レコード= 0	1111I 0652I 0674I

(注)の3ケースは全銀サイクル番号はupしません。

作成される確認メッセージ内容

0053E ジュシン チュウ ニ チュウダン シマシタ。
0180I 1メッセージ ヲ チクセキ シマシタ。
0580I メッセージ ハイフ シュウリョウ シマシタ。
0581I メッセージ ハイフ、ホカン シュウリョウ シマシタ。
0652I (シュウハイシン) ファイル ノ ソウジュシン ガ オワリマシタ。
0656E (シュウハイシン) ファイル ノ ソウジュシン シュウリョウ デ
エラーガ ハッセイシマシタ。
0674I オートコール ショリ シュウリョウ シマシタ。
0677E シテイサレタ オートコールセッション リトライカイスウ オーバー
シマシタ。
1111I ハイフスル ガイトウファイル ガ アリマセン。
1174I ガイトウ ファイル ナシ (NO DATA) ノタメ ゼロバイト
データヲ チクセキ シマス。

2.8 中断セッションと自動セッション・リセット・オプション

何らかの障害により、セッションが中断している状態で後続セッションが発生することがあります。その場合、セッションの順序を守るために、後続セッションを拒否してほしい場合と、中断セッションを無視して、後続セッションを受け入れてほしい場合があります。

この選択をしていただくために、自動セッション・リセット・オプションを設けました。

ユーザープロファイルの「自動セッション・リセット・オプション」項目で指定します。

当指定による後続セッションの受け入れ状況は次の表のようになります。

起動タイプ		自動セッション・リセット・オプション	
中断セッション	後続セッション	'Y' 指定	'N' 指定
ユーザー起動	ユーザー起動	後続セッションが開始される。	後続セッションは中断セッションの再送以外は拒否される。 後続セッションを有効にするにはサービス管理責任者による中断セッションのキャンセルが必要。
ユーザー起動	センター起動	後続セッションが開始される。	後続セッションは保留される。 後続セッションを有効にするにはサービス管理責任者による中断セッションのキャンセルが必要。
センター起動	ユーザー起動	後続セッションが開始される。	後続セッションは拒否される。 後続セッションを有効にするにはサービス管理責任者による中断セッションのキャンセルが必要。
センター起動	センター起動	中断がリトライ・オーバーになっている場合、後続セッションが開始される。 リトライ・オーバーになるまでは後続セッションは保留されている。	後続セッションは保留される。 後続セッションを有効にするにはサービス管理責任者による中断セッションのキャンセルが必要。

なお、サービス管理責任者によってキャンセルされた中断セッション、及び、自動セッション・リセット・オプションによって、後続セッションが受け入れられた場合の先行中断セッションの再送情報はなくなってしまうので、以前の中断セッションの再開は新規セッションとして行う必要があります。

2.9 二重セッションと自動セッション・リセット・オプション

端末 A のセッション中に同一ユーザー ID で端末 B がセッションを開始すると二重セッションとなります。二重セッションの扱いは、自動セッション・リセット・オプションによって異なり、次の表のようになります。

起動タイプ		自動セッション・リセット・オプション	
中断セッション	後続セッション	' Y ' 指定	' N ' 指定
ユーザー起動	ユーザー起動	先行セッションは中断される。後続セッションが開始される。	先行セッションは継続される。後続セッションは拒否される。
ユーザー起動	センター起動	先行セッションは継続される。後続セッションが保留される。	先行セッションは継続される。後続セッションが保留される。
センター起動	ユーザー起動	先行セッションは中断され、自動リトライを開始する。後続セッションが開始される。	先行セッションは継続される。後続セッションは拒否される。
センター起動	センター起動	先行セッションは継続される。後続セッションが保留される。	先行セッションは継続される。後続セッションが保留される。

2.10 限定受信

お客さまが、あるメッセージを受信中に、そのお客さま宛にメッセージが次々に到着し蓄積されたとします。

IE / EXは、その蓄積メッセージがお客さまの受信要求に一致したメッセージであれば、次々に配布しますので受信セッションが予想以上に長引く場合があります。こういう事態を回避するために、限定受信機能を設定しています。

限定受信とは、ユーザー起動であれば、お客様が開始要求か再送要求を出した時点で、センター起動であれば、IE / EXが開始要求か再送要求を出した時点で蓄積が完了しているメッセージのみを配布する機能です。

当機能を使用する場合はユーザー・プロファイルの『セッション開始時点までの蓄積データ配布』で ' Y ' を指定して下さい。

このページはブランクです。

2.1.1 サイクル管理

全銀ユーザーに対してサイクル管理は、ユーザーとIE/EXの間で基本的に1日単位で行われます。

(1) サイクル管理の登録

サイクル管理を行う場合は、ユーザー・プロファイルのサイクル管理可否をYにしてください。

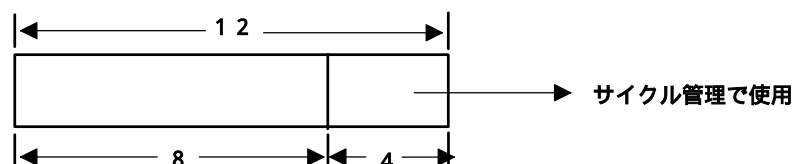
J9622JP	ユーザー・プロファイル	照会・更新(全銀)	(2/2)
顧客コード: IYYY	ユーザーID: IYYYAAA	プロトコル	ZEN
再送要求			
全銀システム区分		最大ブロック長	
サイクル管理可否	Y(Y/N)	サイクル番号セット時刻	HHMM
使用文字コード			

J9625JP	メッセージ処理の照会/更新	ユーザー・オプション	(2/2)
顧客コード: IYYY	ユーザーID: IYYYAAA	メッセージ識別コード: MSGIDXXX	
全銀ファイル名	XXXXXXXXXX		
	全銀サイクル管理	Y	
	収集時非圧縮	(Y/N)	
	配布時圧縮	(Y/N)	

サイクル管理の番号は、指定されたサイクル番号リセット時刻に従いリセットされ、その後1番から行われます。

(2) 全銀ファイル名の扱い

ユーザー・プロファイルでサイクル管理を指定した時は、メッセージ処理(ユーザー・オプション)で指定する全銀ファイル名は、



となり12桁(ヘキサ表現の時は24桁)の下4桁(ヘキサ表現の時は下8桁)は利用できません。

9桁目以降(ヘキサ表現の時は17桁以上)の登録を行った場合、下4桁(ヘキサ表現の時は下8桁)は無視され、X'00'で埋められます。(画面上、キャラクター表現の時は空白と表示されています。)

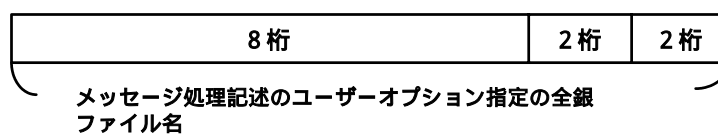
ユーザー・プロファイルにて、サイクル管理を行わないと指定した時は従来通り12桁（ヘキサ表現時24桁）まで使用できます。

ユーザー・プロファイルでサイクル管理を指定した時、そのユーザーのメッセージ単位に、サイクル管理を行わないという打ち消しのオプションをメッセージ処理（ユーザーオプション）にて選択することができます。このメッセージ単位にサイクル管理を打ち消した場合も、ファイル名の下4桁（ヘキサ表現時下8桁）は使用できません。

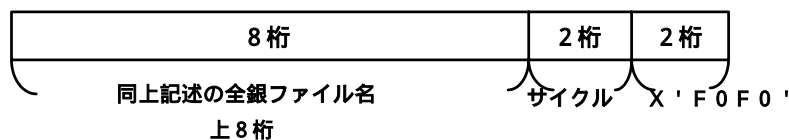
現在のサイクル状態を知りたいときは、サービス管理責任者機能の機能選択メニューにより、「全銀サイクル番号の管理」を選択して下さい。

なお、全銀ユーザーのセンター起動によりユーザーヘファイル制御電文を送る時、IE/EXは下記の通り全銀ファイル名をセットします。

サイクル管理なしの時

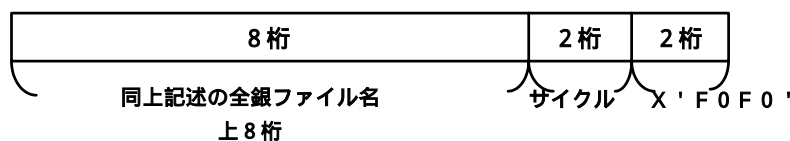


サイクル管理ありの時 全銀ファイル名の上4桁が'5020'の時

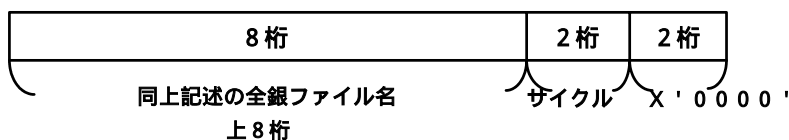


全銀ファイル名の上4桁が'5020'以外の時

a. メッセージ・プロファイルの「ファイル名ダミーフィールド設定」が'Y'の時



b. メッセージ・プロファイルの「ファイル名ダミーフィールド設定」が'N'の時



2.12 圧縮 / 非圧縮

全銀CPU手順では配布時の圧縮処理および収集時の非圧縮処理をサポートします。

- 収集時の非圧縮では、ユーザーから送信されてくる圧縮状態のデータを I E / E X が非圧縮して蓄積します。
- 配布時の圧縮処理では、非圧縮状態で蓄積されているデータを I E / E X が圧縮してからユーザーに配布します。

配布時の圧縮 / 収集時非圧縮は以下のように指定します。

- ユーザー起動の場合
ユーザーがファイル制御電文の「圧縮指示」に 1 を指定することによって行われます。
- センター起動の場合
メッセージ処理記述の登録で「収集時非圧縮」、「配布時圧縮」に Y と指定することにより、I E / E X は該当ファイルのファイル制御電文上の「圧縮指示」を 1 にセットしてユーザーに送信します。

圧縮 / 非圧縮の方法は、全銀ベーシック手順 (CPU) に準拠して行われます。この圧縮方法は「全銀協制定磁気フォーマット」に係わるデータを考慮しているため、ゼロ (X ' F 0 ') およびスペース (X ' 4 0 ') に重点をおいた「繰返し文字圧縮方法」ですので、圧縮効果が大きいデータの場合と圧縮効果が上がらずに逆に圧縮後の長さが長くなってしまいますので注意が必要です。

以下のデータのように、連続したゼロまたはスペースが多い場合、あるいは連続した任意の文字が多い場合に圧縮効果が上がります。

```
1,234 00000001234 *****1,234
```

一方、下記のデータのように不連続な文字が多い場合には「後続文字圧縮なし」を示す制御文字の挿入により、逆に圧縮後の長さの方が長くなってしまいます。

```
AB CD EF GH IJ 1234567890 アイエオ カキクケコ ETC.(THIS IS EXAMPLE)
```

配布時の圧縮処理は、I E / E X が論理レコードをテキストに組み立てた後にテキスト単位毎に行います。従って登録で指定するテキスト長は圧縮前のテキスト長を指定して下さい。

なお、配布の圧縮で取り扱うデータに圧縮効果がなく、圧縮後の長さが長くなってしまう場合にはI E / E X は以下の処理を行いますので注意が必要です。

- 1 テキストが複数の論理レコードで構成されるように登録されている場合
(伝送ブロック長 > = (圧縮前の) テキスト長)

圧縮後のテキスト長が伝送ブロック長よりも長くなってしまう場合には、論理レコードの途中であってもE T B (E n d T e x t B l o c k) 分割して送信します。

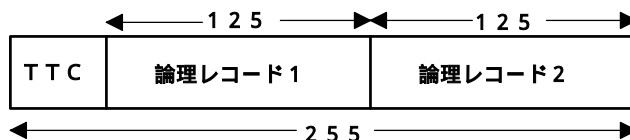
この様な送信をさけるためには、

- 1 . 圧縮前および圧縮後のテキストとも 1 伝送ブロック内に収まる様
十分考慮してテキスト長を設定する。または、
- 2 . 論理レコード / 1 テキストの構成にする。または、
- 3 . 全銀手順での圧縮効果の低いものは非圧縮指示で受信する。
等の考慮が必要です。

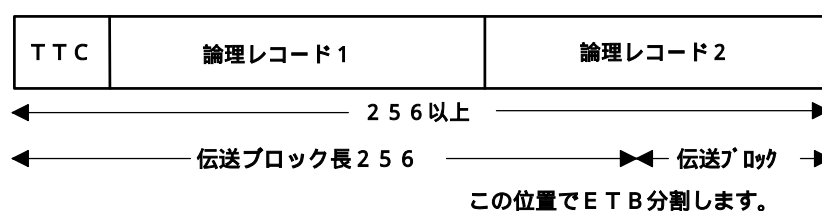
例 圧縮後、伝送ブロック長を越えた場合の特殊処理

登録内容 伝送ブロック長 256
テキスト長 255 (圧縮前)
論理レコード長 125 (固定長)

圧縮前のテキスト

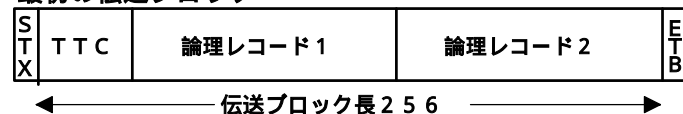


圧縮後のテキスト

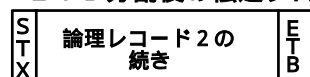


送信時の伝送ブロック

最初の伝送ブロック



ETB分割後の伝送ブロック



- 圧縮後のテキスト長が2048バイトより長くなってしまった場合には、配布処理を中断します。この場合には、非圧縮指示で先頭テキストから再度配布するように要求して下さい。

2.1.3 可変長レコード

全銀CPU手順では可変長データを送信、又は受信することができます。ただし下記の注意が必要です。

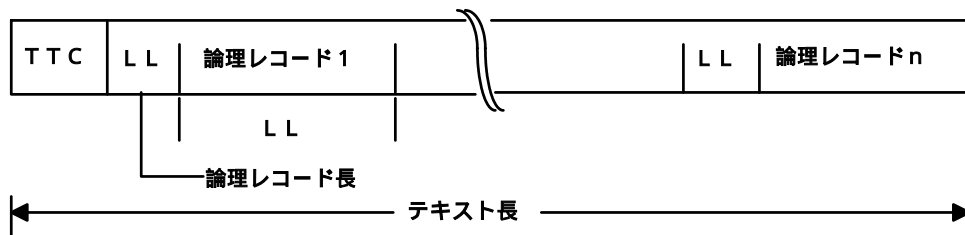
(1) 宛先タイプ

送信時指定できる宛先は直接宛先の場合に限ります。

内包宛先、同報宛先（IE / EX宛先）はできません。

(2) 可変長レコードのフォーマット

可変長レコードは次の形式となります。



蓄積ファイルにはTTCを除いて（LLも含めて）蓄積されますが、LLはJIS 8 ↔ EBCDICの変換の対象外です。

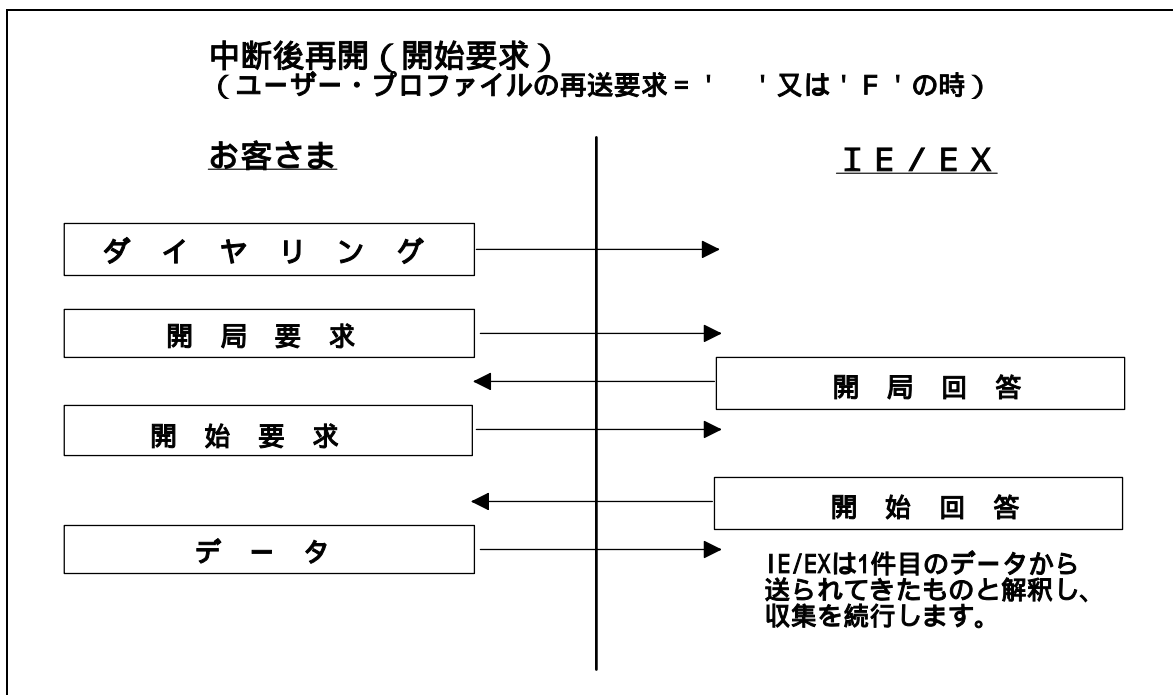
2.14 再送のサポート

全銀では、何らかの障害によりセッションが中断した時、ファイルの先頭からのみならず、途中から再送することができます。IE/EXも全銀手順に準じて、再送機能をサポートしています。

なお、ユーザー・プロファイルの『再送要求』の指定により、扱いが異なる場合がありますので、以下の図を参照して下さい。

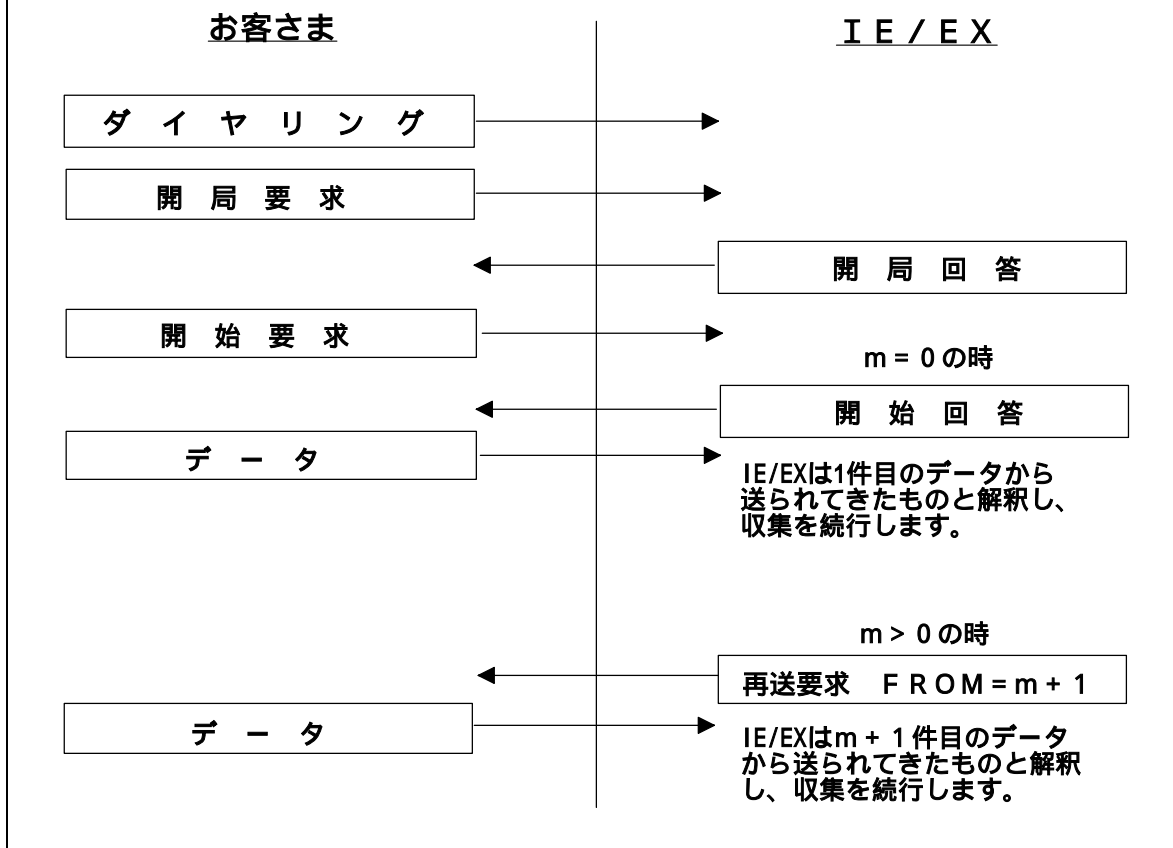
(1) ユーザー起動収集

mはIE/EX収集済件数です。



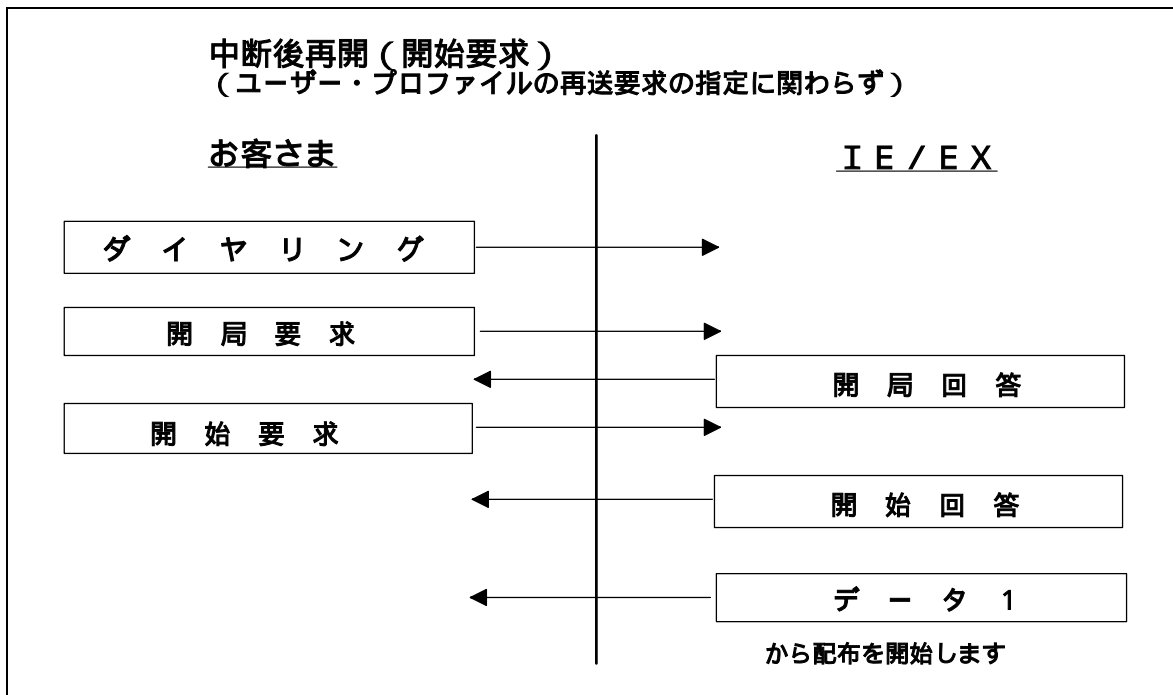
中断後再開（開始要求）

（ユーザー・プロファイルの再送要求 = ' T ' の時）

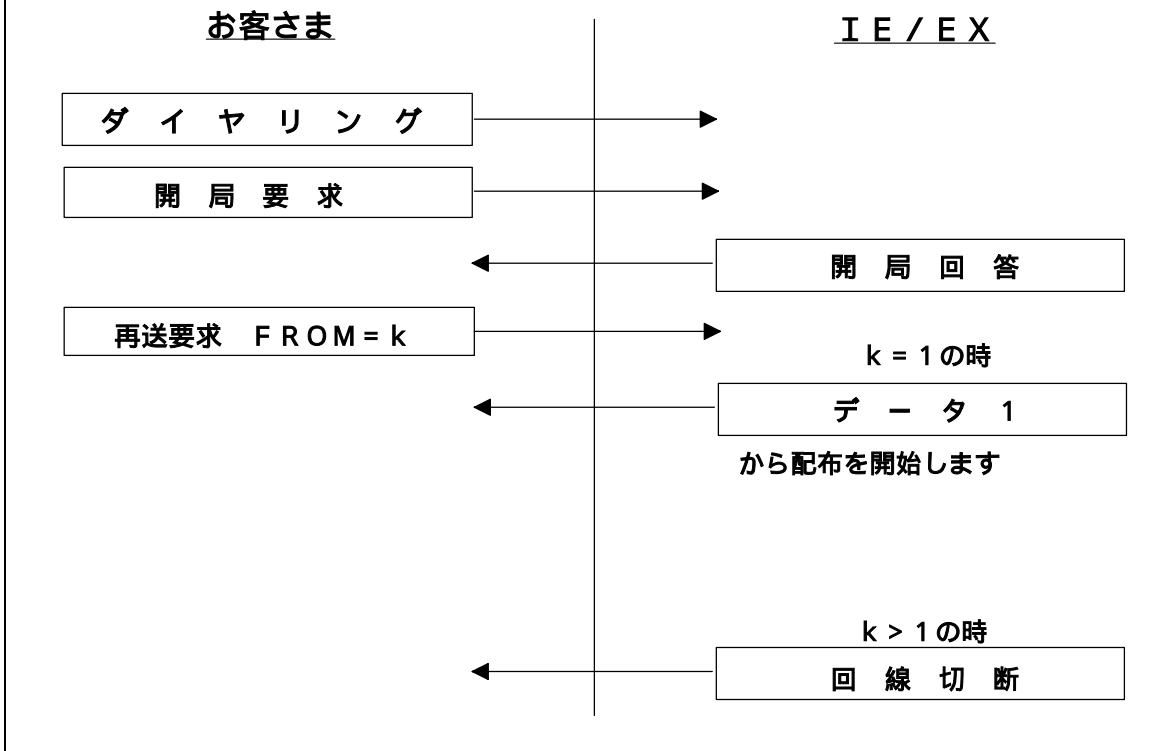


(2) ユーザー起動配布

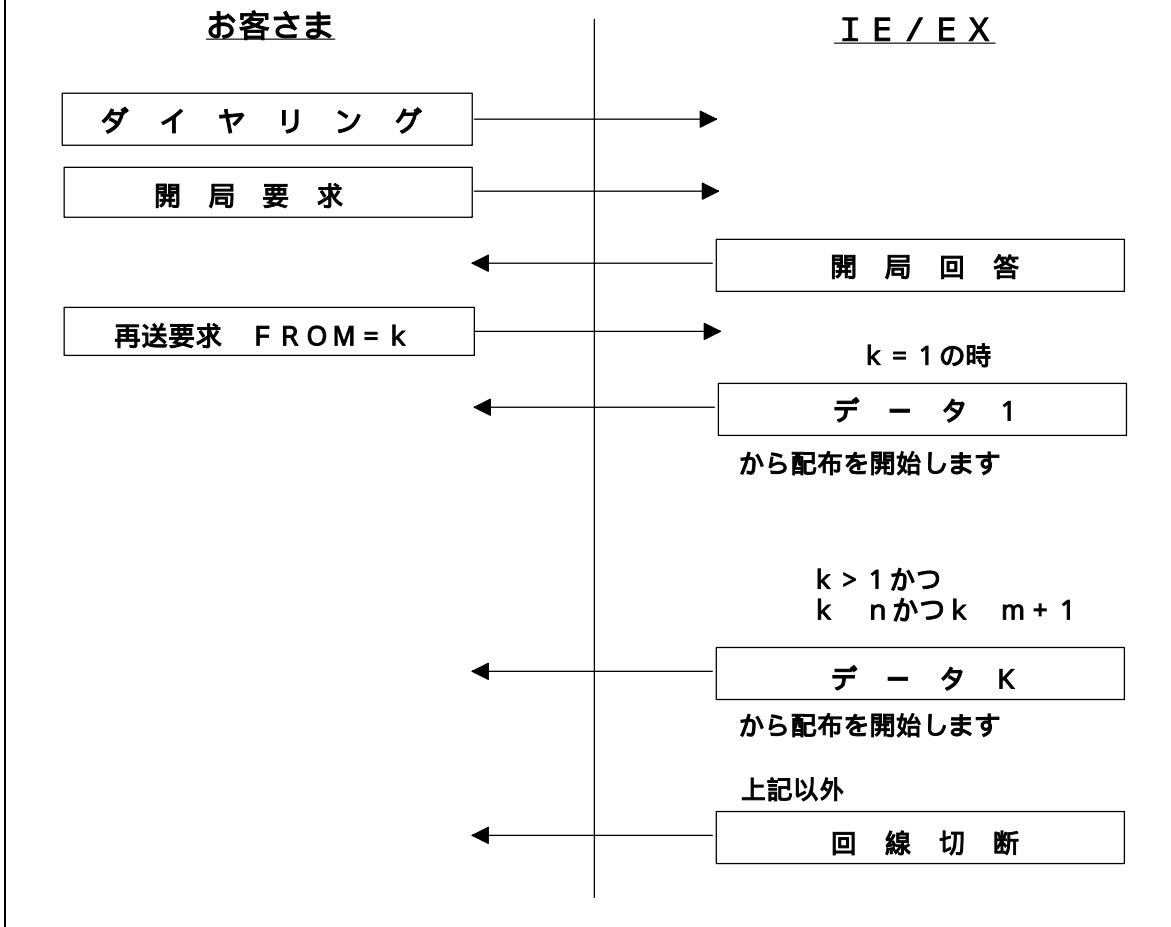
mはIE/EX配布済件数、nは蓄積件数です。



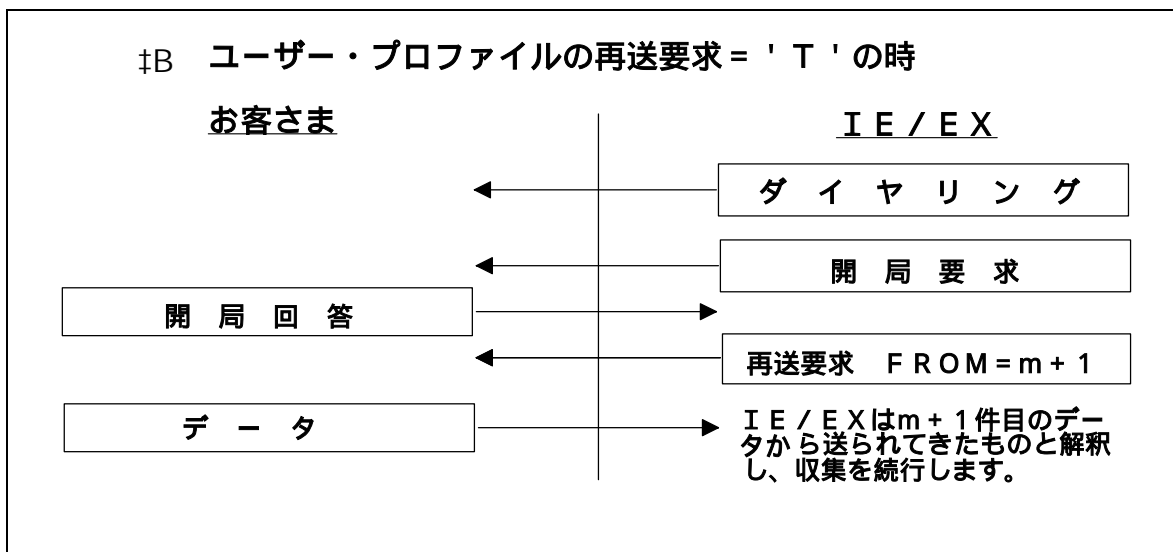
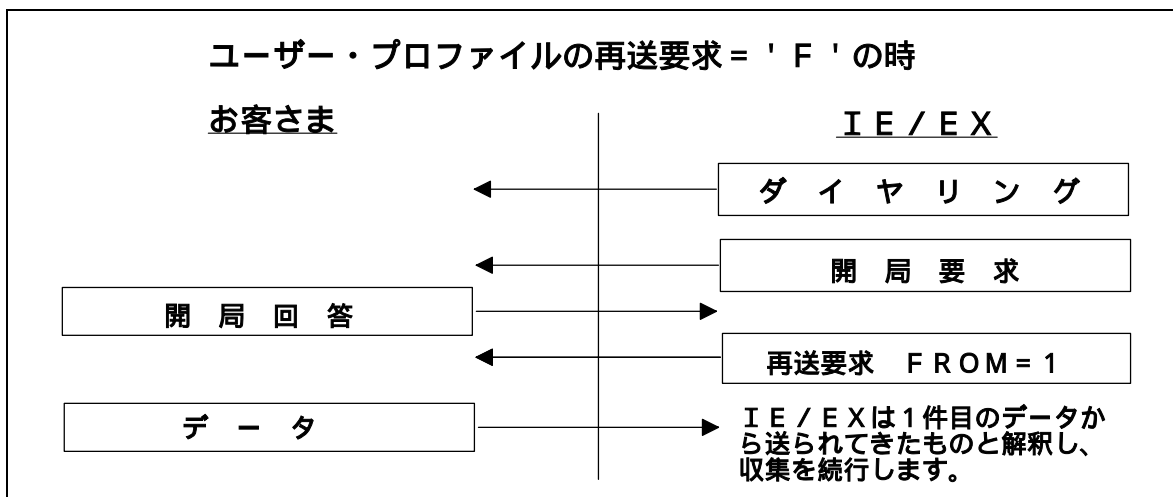
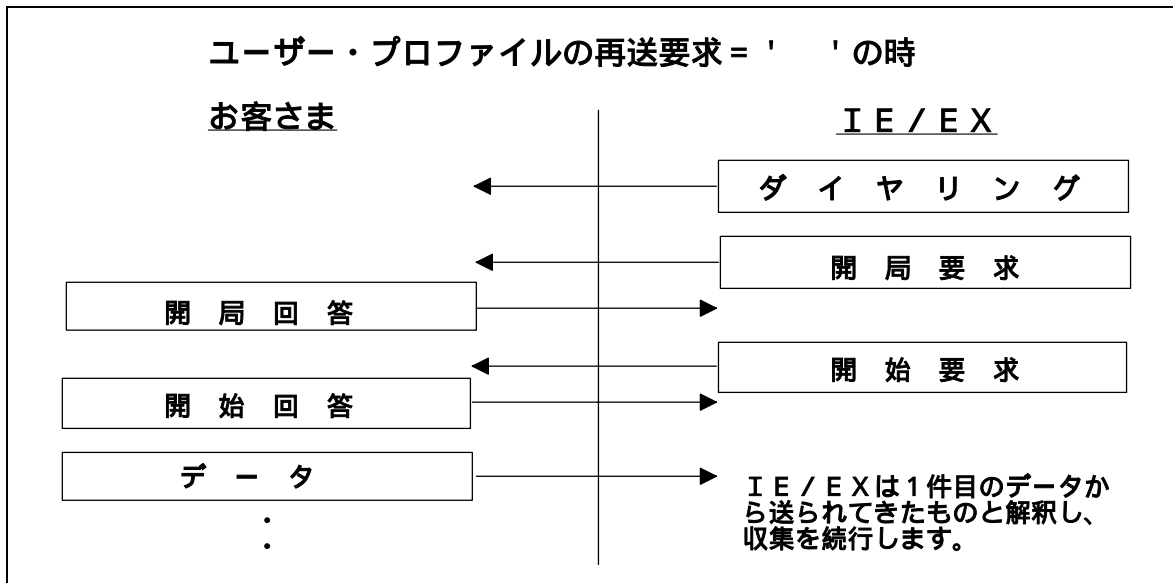
中断後再開 (再送要求 FROM = k)
(ユーザー・プロファイルの再送要求 = ' ' 又は ' F ' の時)



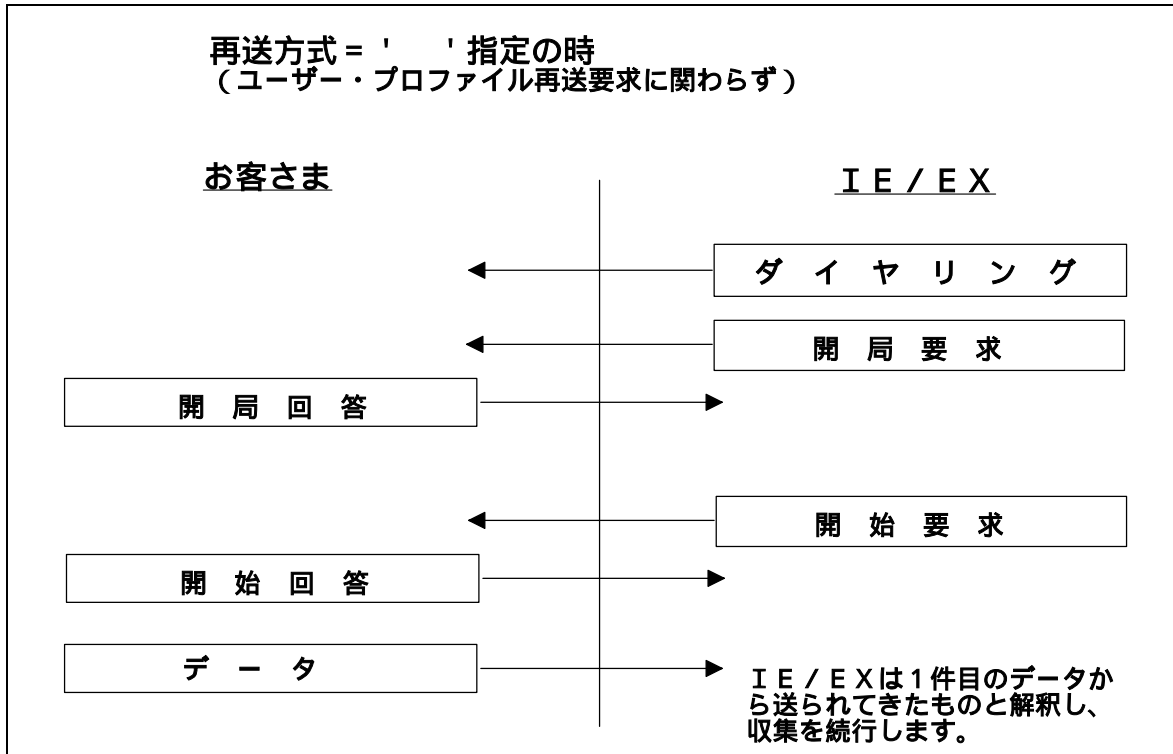
中断後再開 (再送要求 FROM = k)
(ユーザー・プロファイルの再送要求 = 'T' の時)



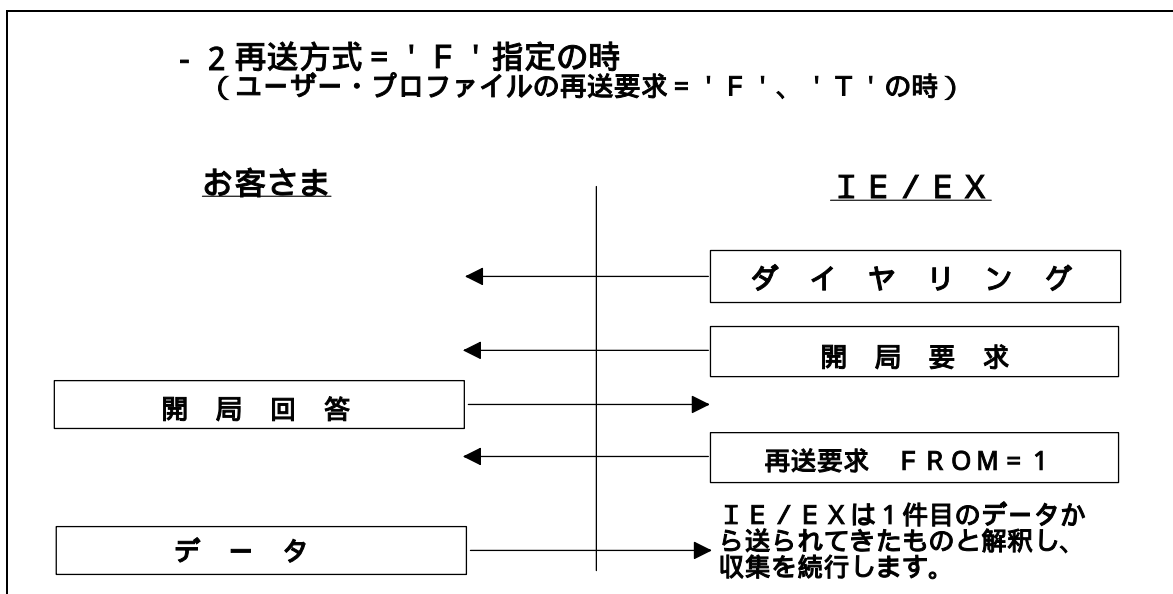
(3) センター起動収集・中断・自動リトライ
 mはIE/EX収集済件数です。



- (4) センター起動収集・中断・サービス管理責任者による再起動
 サービス管理責任者は中断セッション状況を照会し、再送指示を行います。
 (再送方式として ' '、' F ' 又は ' T ' を指定します。)
 mは I E / E X 収集済件数です。

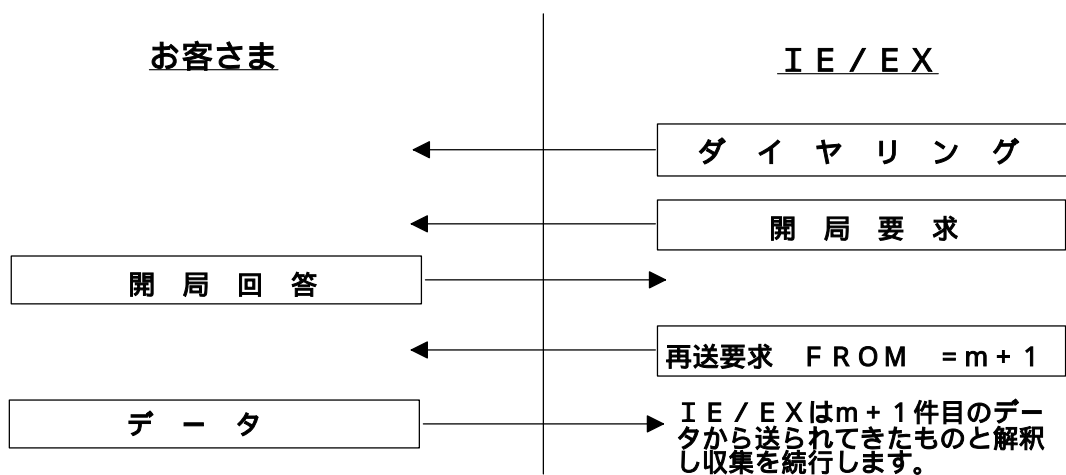


- 1 再送方式 = ' F ' 指定の時
 (ユーザー・プロファイルの再送要求 = ' ' の時)
 再起動できません

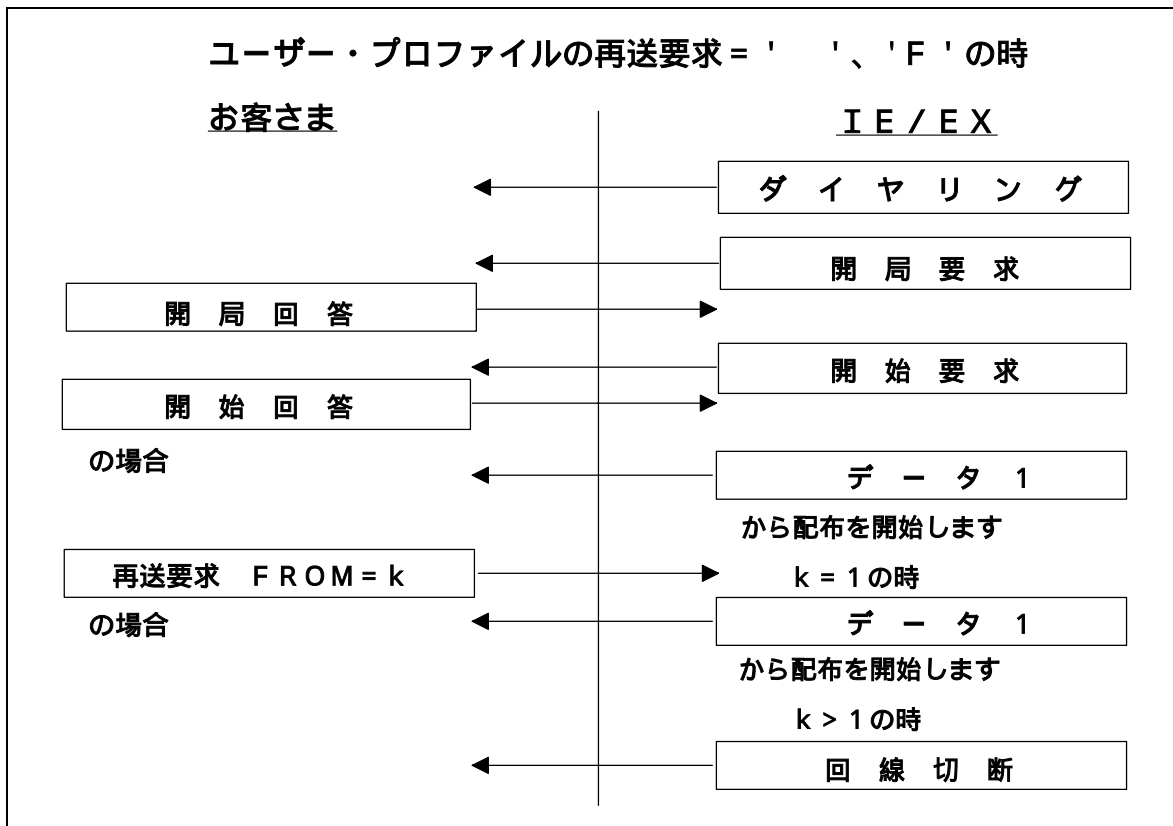


- 1 再送方式 = ' T ' 指定の時
 (ユーザー・プロファイルの再送要求 = ' ' 又は ' F ' の時)
 再起動できません

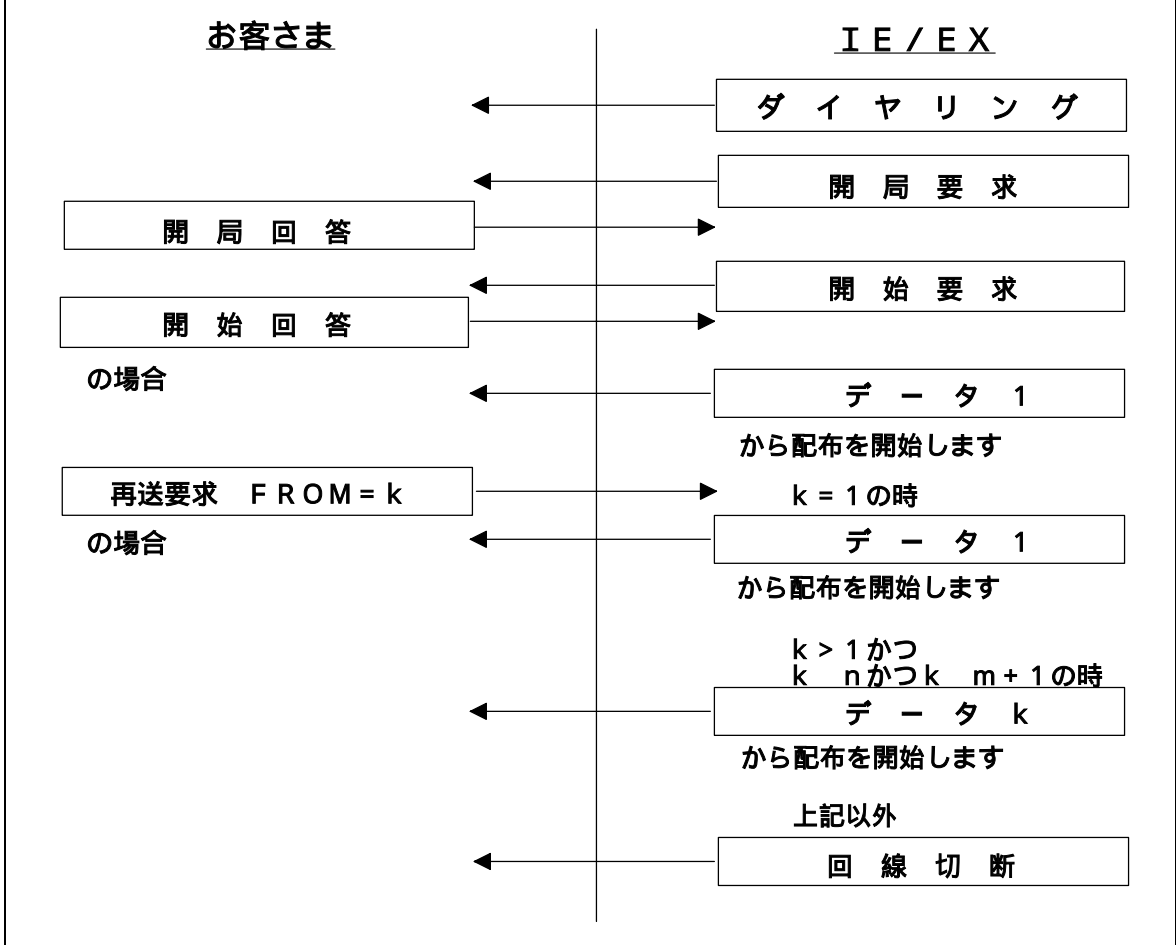
- 2 再送方式 = ' T ' 指定の時
 (ユーザー・プロファイルの再送要求 = ' T ' の時)



- (5) センター起動配布・中断・自動リトライ
 mはIE/EX配布済件数、nは蓄積件数です。



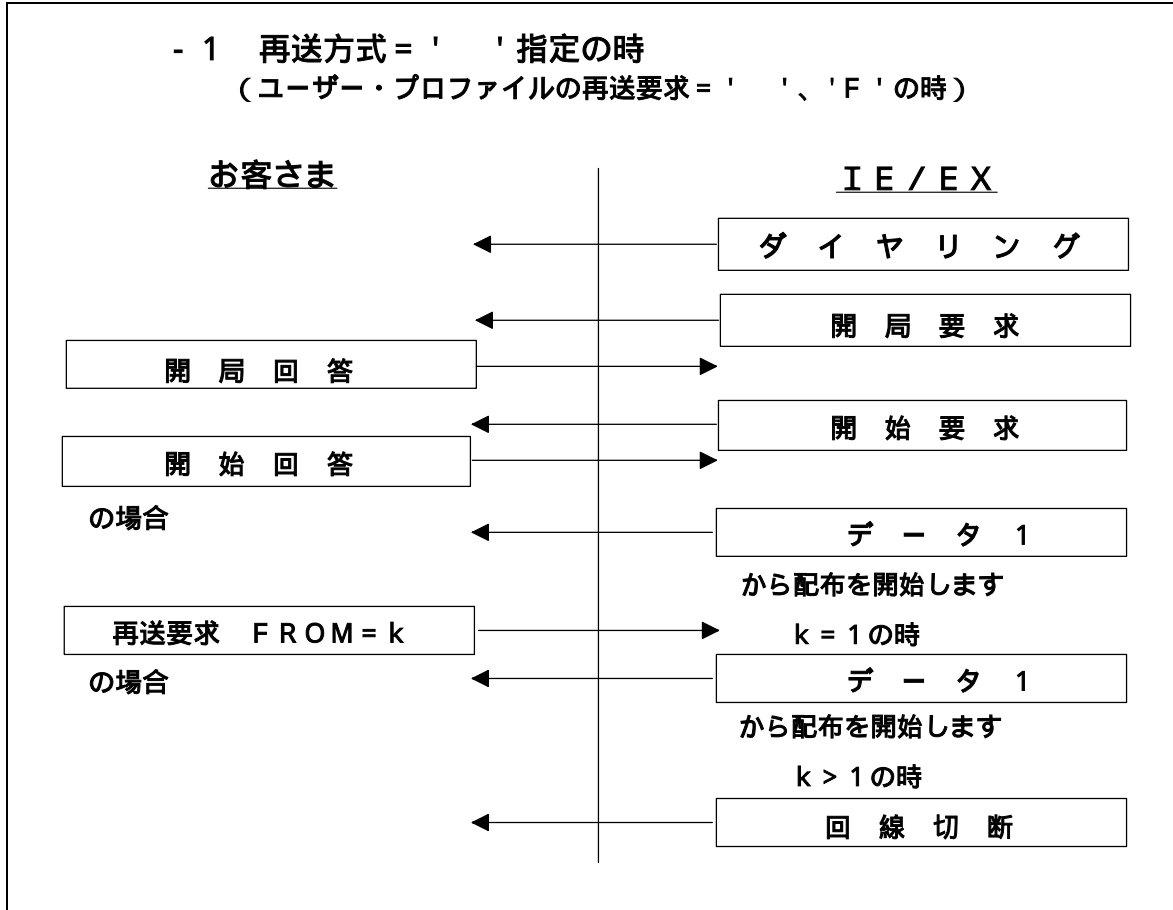
ユーザー・プロファイルの再送要求 = ' T ' の時



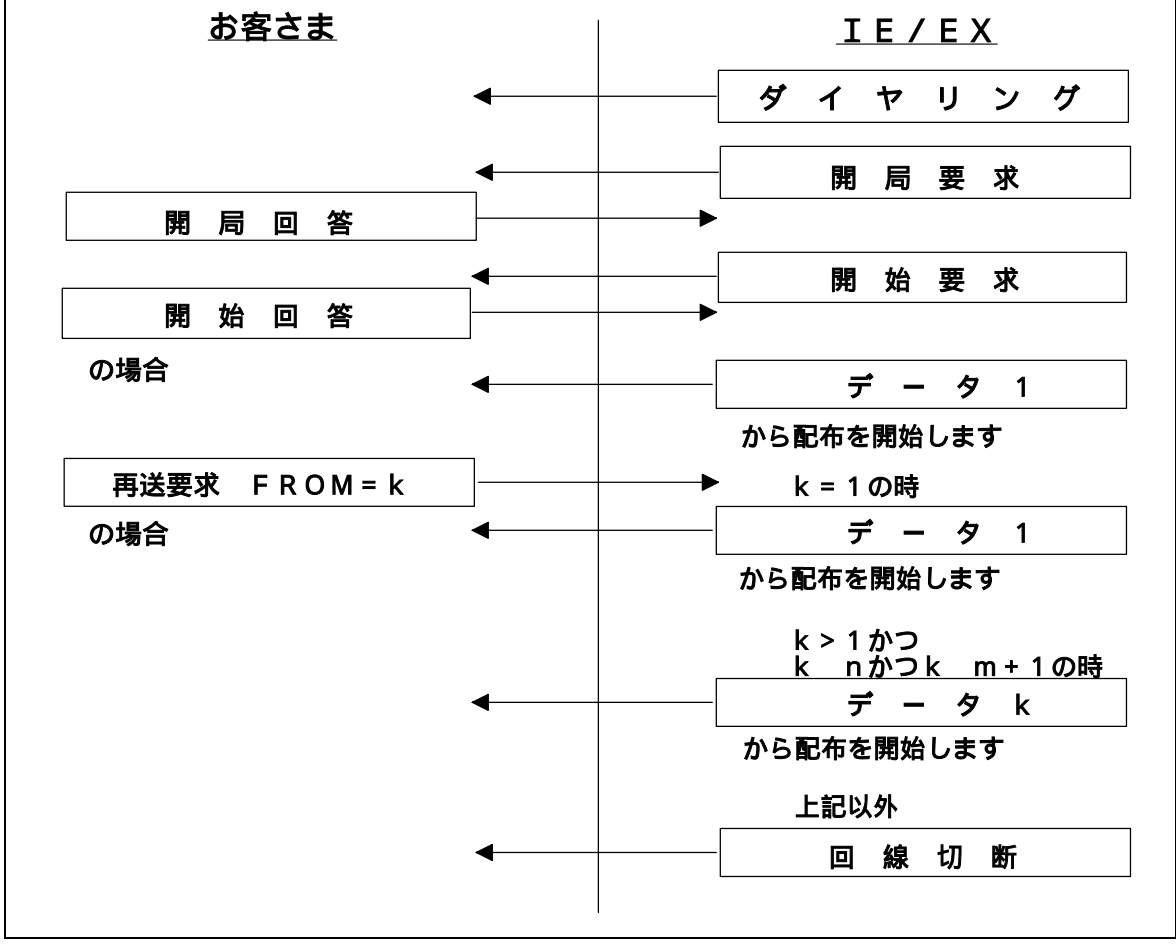
(6) センター起動配布・中断・サービス管理責任者による再起動
 サービス管理責任者は中断セッション状況を照会し、再送指示を行います。

(再送方式として ' '、' F ' 又は ' T ' を指示します。)

m は I E / E X 配布済件数、n は I E / E X 蓄積件数です。

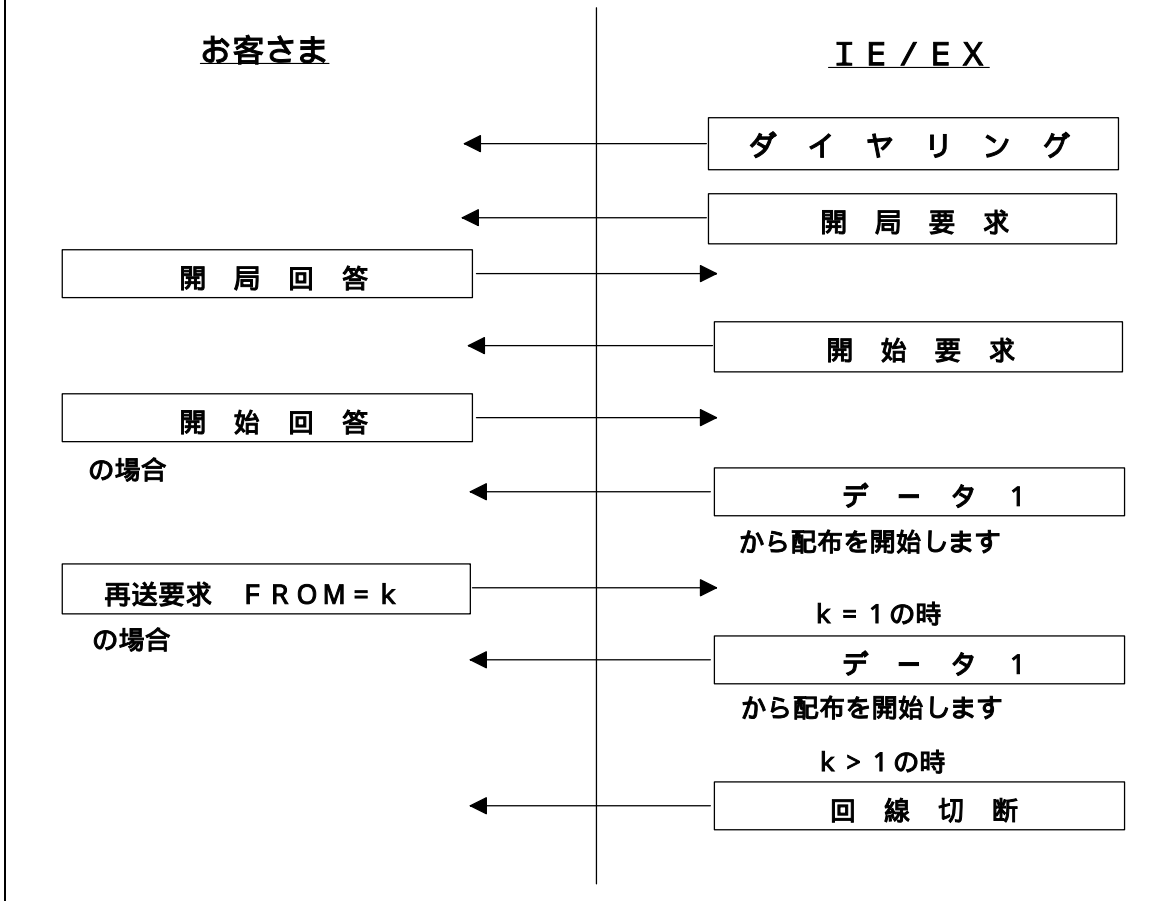


- 2 再送方式 = ' ' の時
 (ユーザー・プロフィールの再送要求 = ' T ' の時)

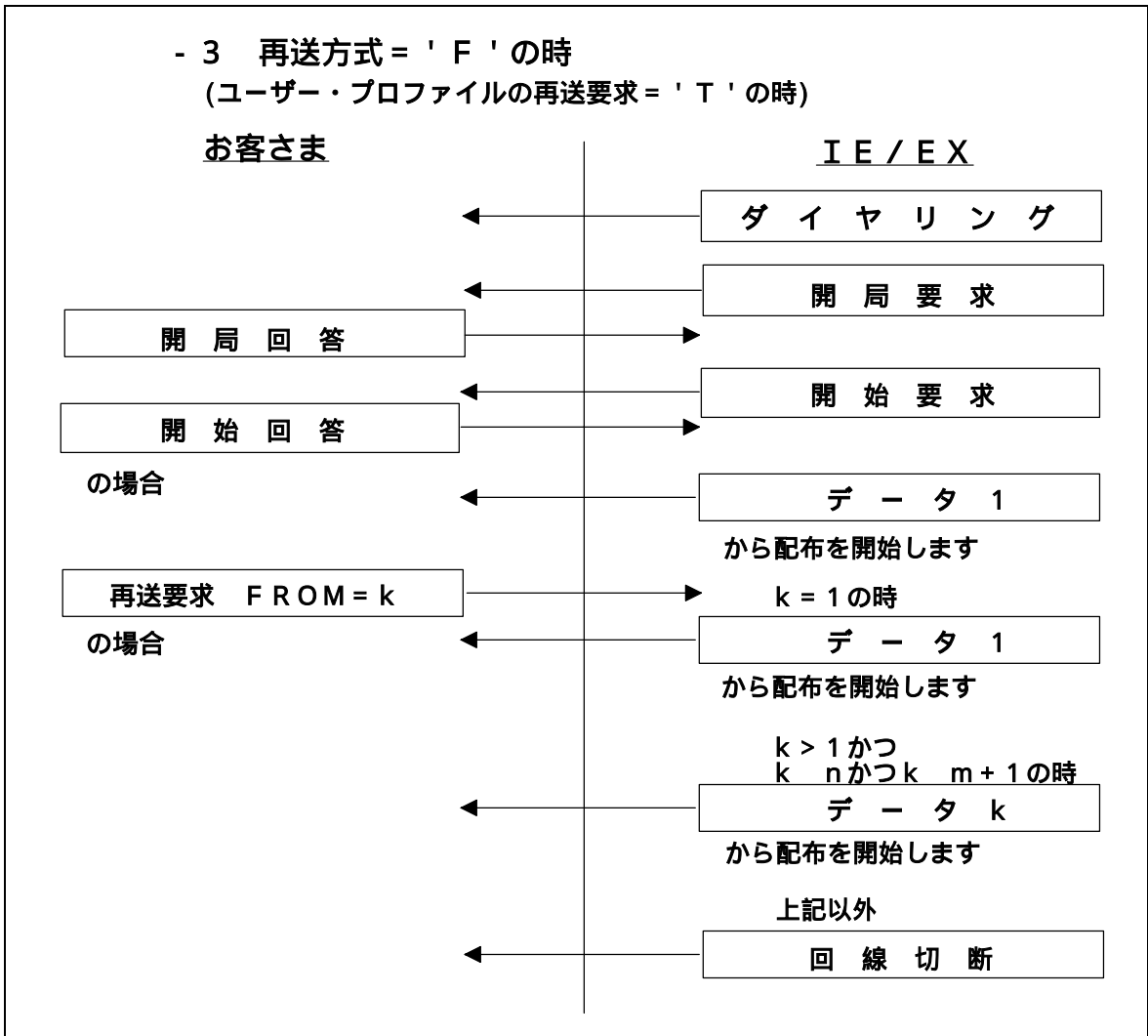


- 1 再送方式 = ' F ' の時
 (ユーザー・プロファイルの再送要求 = ' ' の時)
 再起動できません

- 2 再送方式 = ' F ' 指定の時
 (ユーザー・プロファイルの再送要求 = ' F ' の時)

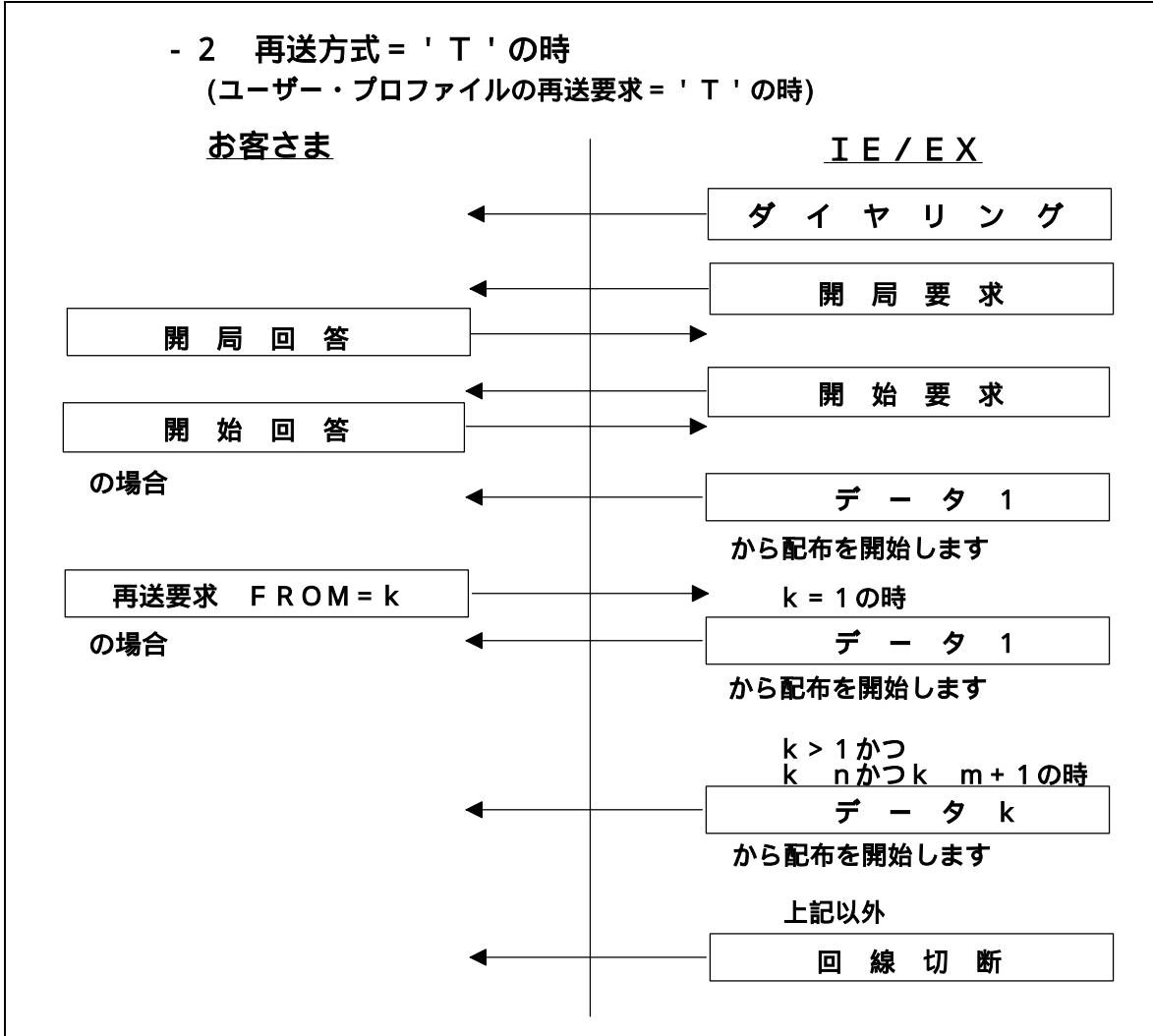


- 3 再送方式 = ' F ' の時
 (ユーザー・プロファイルの再送要求 = ' T ' の時)



- 1 再送方式 = ' T ' 指定の時
 (ユーザー・プロフィールの再送要求 = ' ' 又は ' F ' の時)
 再起動できません

- 2 再送方式 = ' T ' の時
 (ユーザー・プロフィールの再送要求 = ' T ' の時)



このページはブランクです。

2.15 収集時非ブロック化、配布時ブロック化処理

全銀手順での送受信は伝送ブロック単位に行われます。伝送ブロックは最大2048バイトまでの可変長です。

収集では、単一ブロック又は、複数伝送ブロックの中からテキストを抽出しTTCを除いて蓄積します。収集時非ブロック化 ' Y '、' N ' に関わらず) 従って全銀においては収集時非ブロック化 ' Y ' と ' N ' は同じ処理となります。

一方、配布する場合、蓄積データから論理レコードを複数取り出しテキストを形成し、伝送ブロックに組み立ててお客様に送り出します。

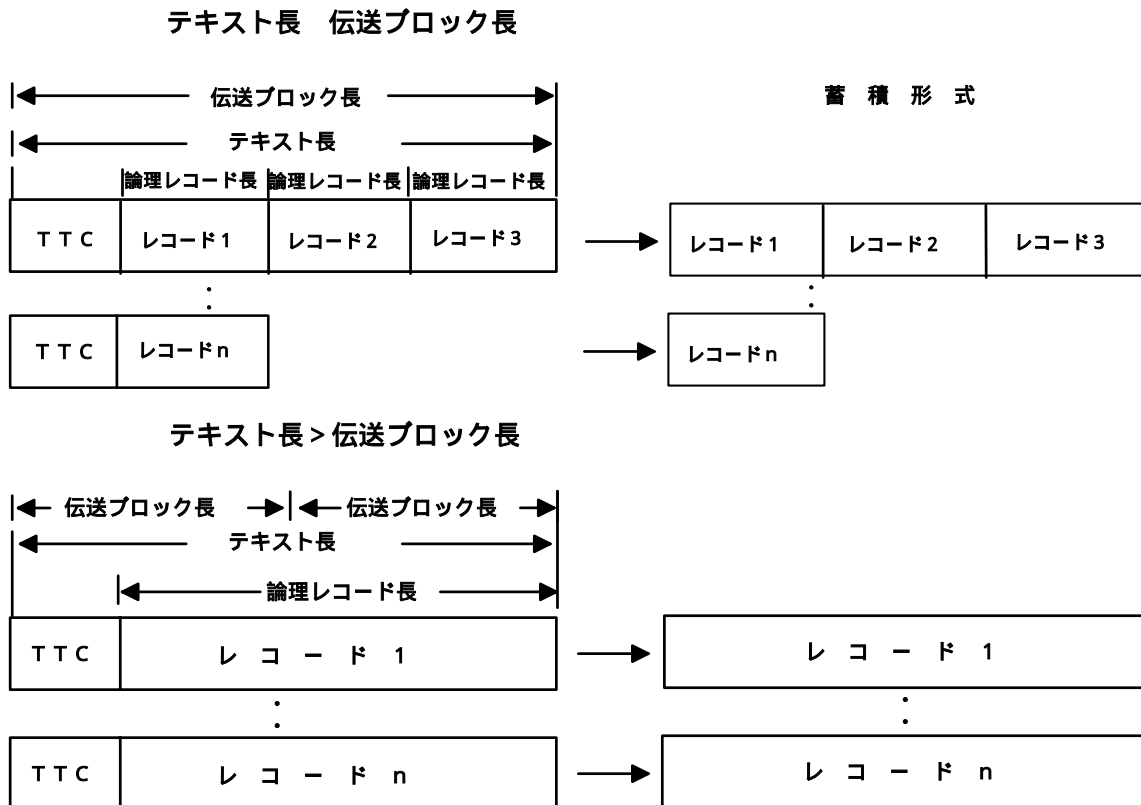
これを配布時ブロック化処理といいます。

収集時非ブロック化、配布時ブロック化の指定は、メッセージ・プロファイル(ユーザー・オプション)の画面でそれぞれ ' Y ' または ' N ' を指定します。

また、同画面では論理レコード長、テキスト長と配布時ブロック化の時に使う充填文字を指定します。

伝送ブロックはユーザー・プロファイルで指定します。

(1) 収集時非ブロック化しない(収集時非ブロック化 ' N ')



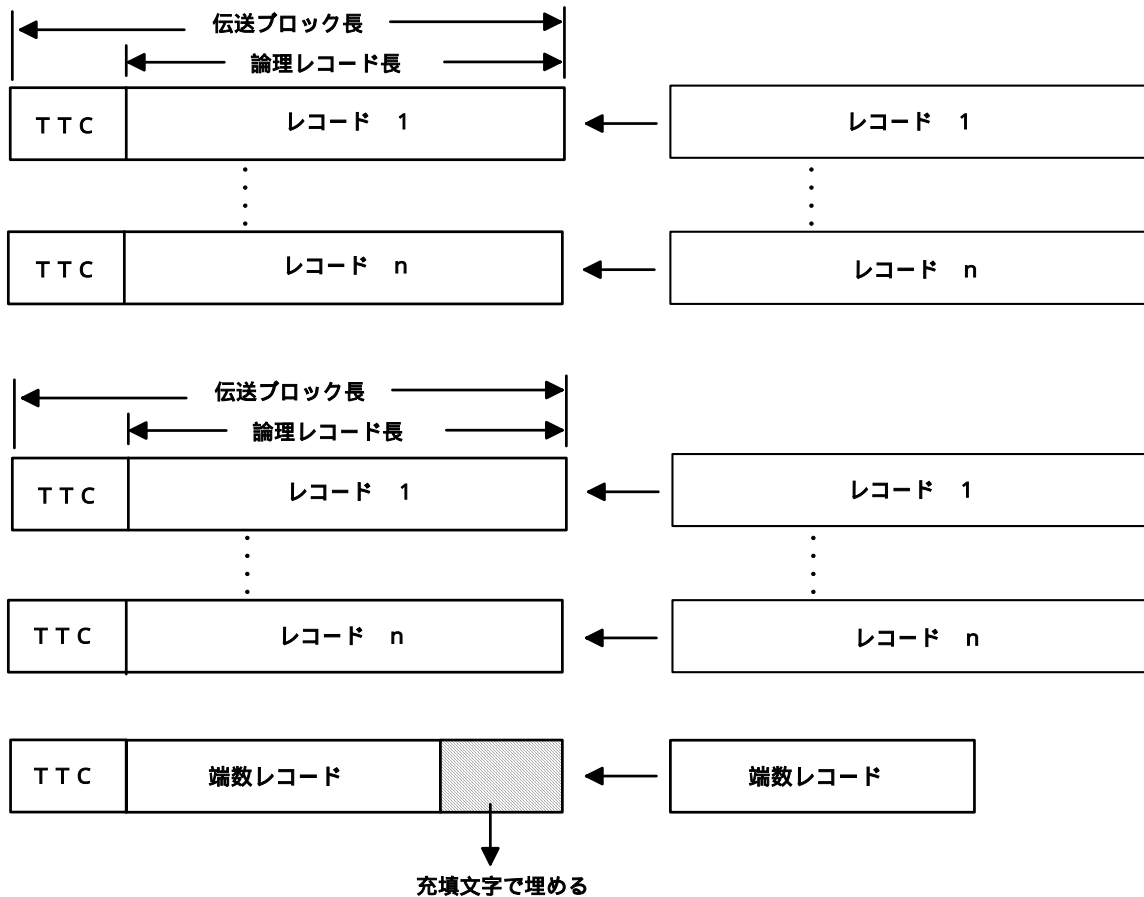
(2) 収集時非ブロック化する (収集時非ブロック化 ' Y ')
 (1) の収集時、非ブロック化しないと同じ処理になります。

(3) 配布時ブロック化しない (配布時ブロック化 ' N ')

論理レコード長 伝送ブロック長の場合

蓄積メッセージより、論理レコード長分のデータを取り出し、TTCを付加し、
 伝送ブロックを作成します。
 また蓄積メッセージが論理レコード長の倍数となっていない時、最後のレコード
 (端数レコード) には論理レコード長になるまで充填文字が埋められます。

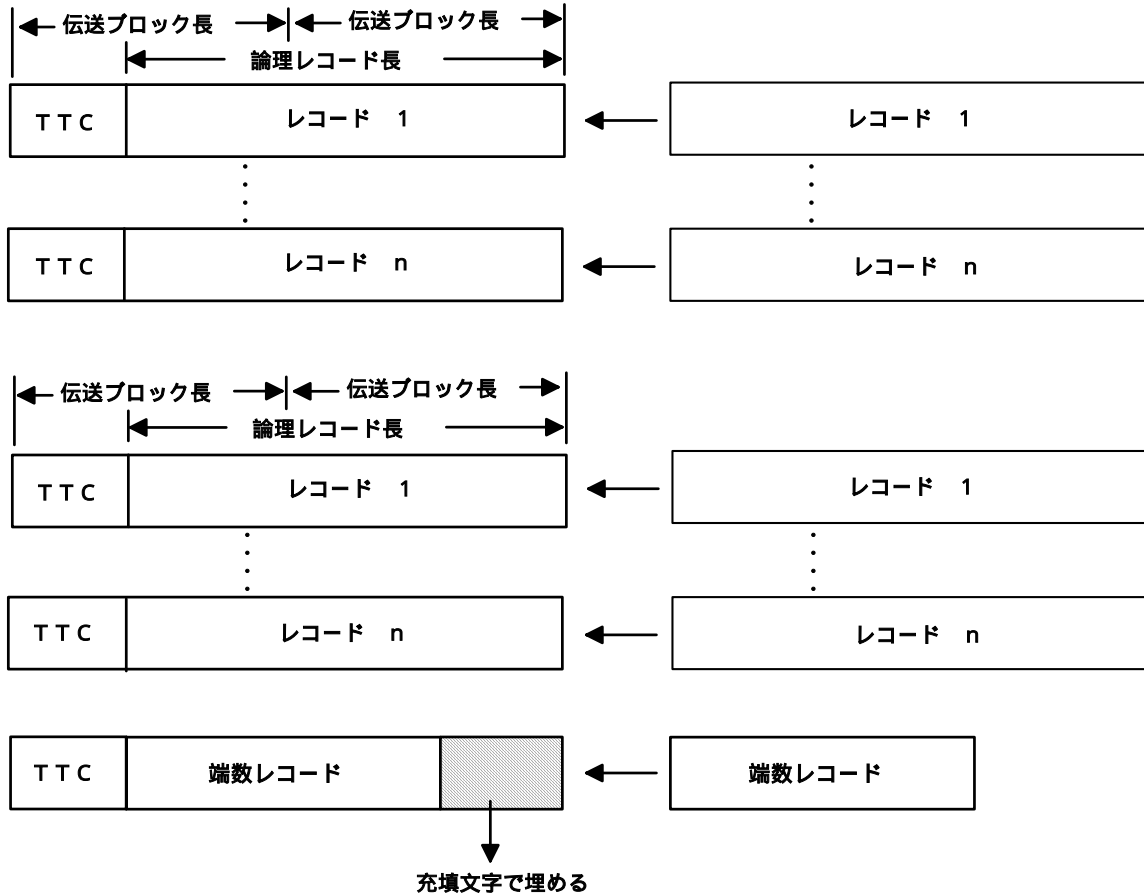
蓄 積 形 式



論理レコード長 > 伝送ブロック長の場合

蓄積メッセージより、論理レコード長分のデータを取り出し、TTCを付加し、複数伝送ブロックを作成します。
 また蓄積メッセージが論理レコード長の倍数となっていない時、最後のレコード（端数レコード）には論理レコード長になるまで充填文字が埋められます。

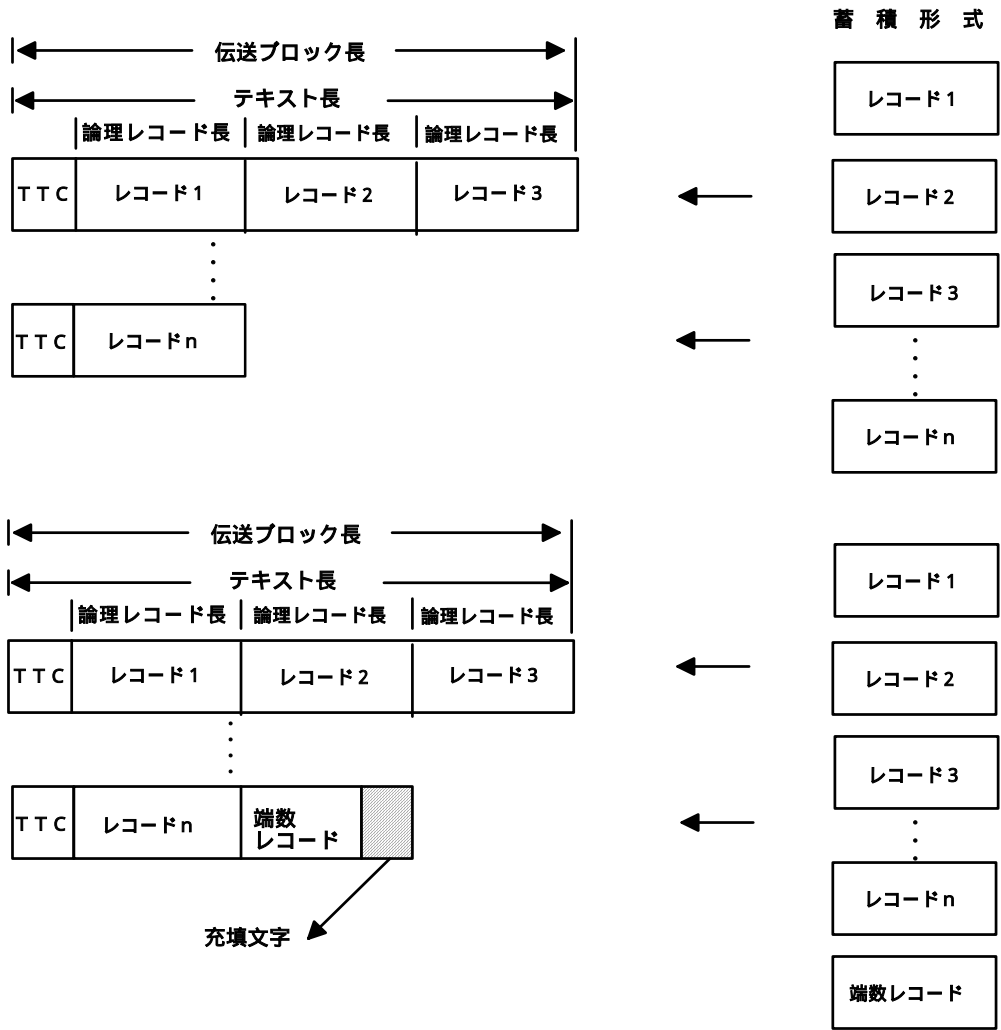
蓄積形式



(4) 配布時ブロック化する (配布時ブロック化 'Y')

テキスト長 伝送ブロック長の場合 (テキスト長 = 論理レコード長 × n + 5)

蓄積されたメッセージを論理レコード単位に取り出し、テキストを組み立てて、
 伝送ブロックを作成します。
 また、蓄積メッセージ長が論理レコード長の倍数でない場合の端数レコードの
 後は、論理レコード長になるまで充填文字を埋めます。



論理レコード長 > 伝送ブロック長の場合 (テキスト長 = 論理レコード)

蓄積されたメッセージを論理レコード単位に取り出し、複数伝送ブロックに入れます。
 また蓄積メッセージ長が論理レコード長の倍数でない場合の端数レコードの後ろは、論理レコード長になるまで充填文字が埋められます。

蓄積形式

